

弓削遺跡

第1次調査

2013年

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

弓 削 遺 跡

第1次調查



2013年

公益財団法人八尾市文化財調査研究会



第1図 弓削遺跡周辺図

第2章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

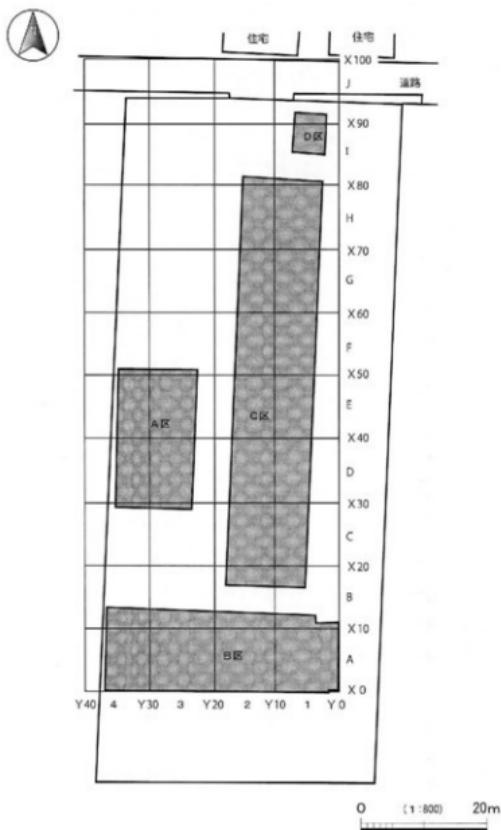
今回の調査は、共同住宅建設に伴うもので、当調査研究会が弓削遺跡内で行った第1次調査にあたる。

調査区は合計4箇所で、浄化槽部分をA区、建物の南側棟をB区、北側棟をC区、防火水槽部分をD区と名付けた。調査はA区から行い、B区・C区・D区の順で行った。

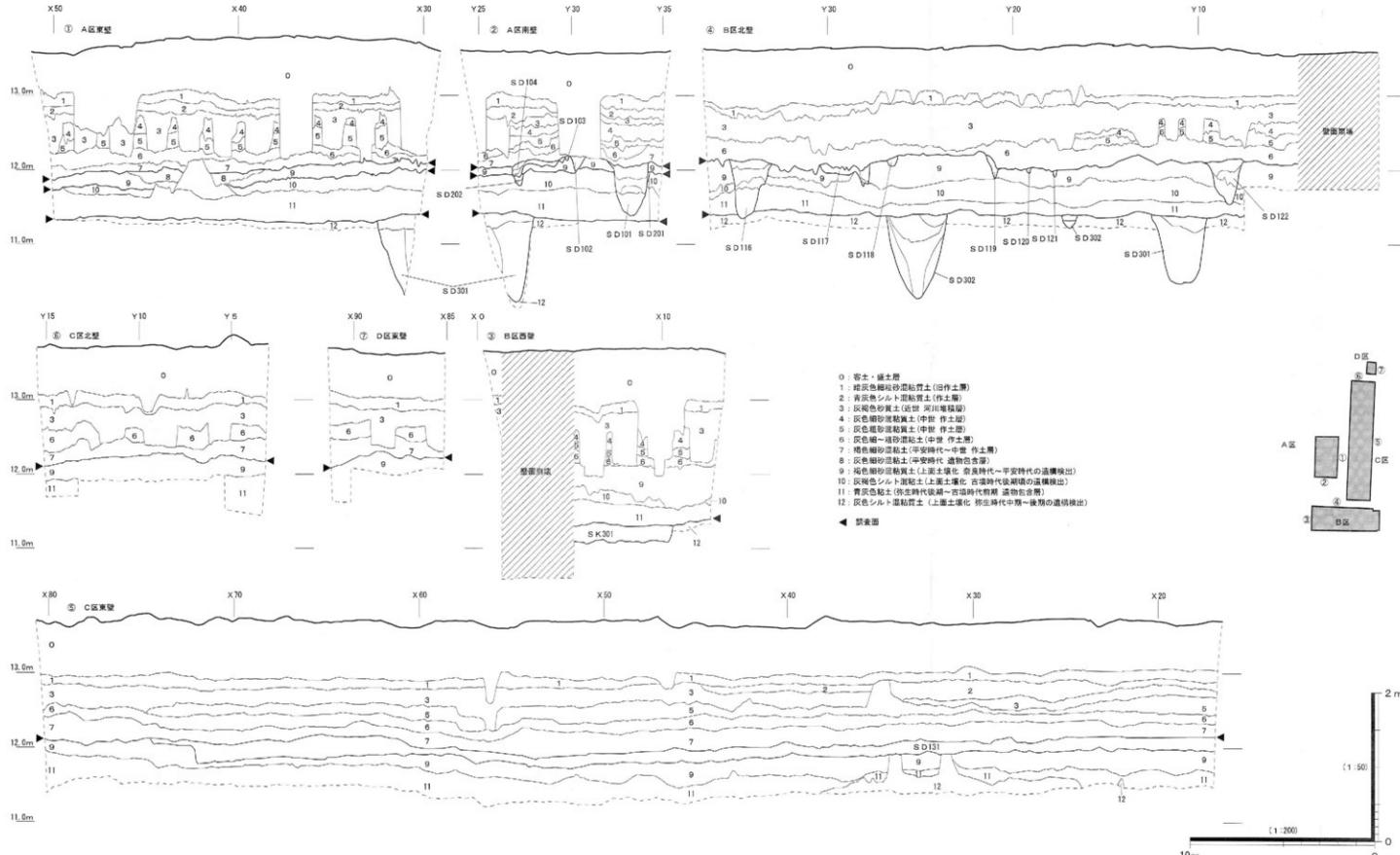
今回の調査地では、調査地の南東隅に任意の基準点を設け、それを基点として東西方向に40m(Y0~Y40)、南北方向に100m(X0~X100)を10m単位で区画した。地区の名称については、Y軸を1~4、X軸をA~Jとし、両軸が交差する地区を1A~4J地区と呼称する方法をとった。

調査における掘削は市教委による埋蔵文化財調査指示書に従い、現地表下約1.6m前後までを機械で行なったのち、約0.6~0.8mの範囲を人力により調査を進め、遺構・遺物の検出に努めた。ただし、C区については、調査の対象となる面は1面で、以下は建物の基礎杭が打ち込まれる部分の2×2m範囲24箇所(G1~G24)を調査した。

調査の結果、奈良時代～平安時代(第1面)、古墳時代後期(第2面)、弥生時代中期～後期(第3面)の遺構を検出した。なお遺構番号は、遺構略号の後に面番号を付与し、遺構を検出したA区からC区の順に2桁の遺構番号とあわせて表記した。



第2図 調査区設定図



第3節 検出遺構と出土遺物

<第1面>

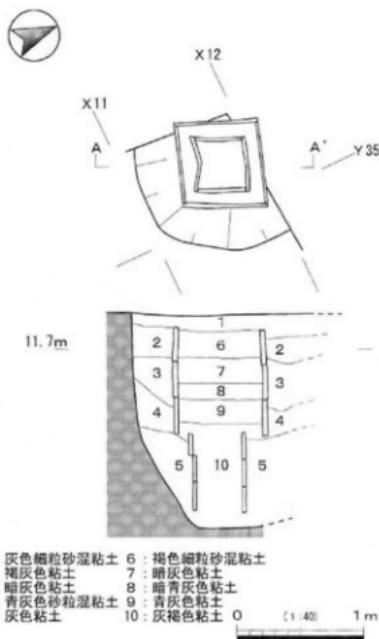
第9層上面で、奈良時代～平安時代の井戸3基(S E101～103)、土坑3基(S K101～103)、溝31条(S D101～131)を検出した。なお、S E102は第9層中から検出した古墳時代後期の遺構である。

井戸(S E)

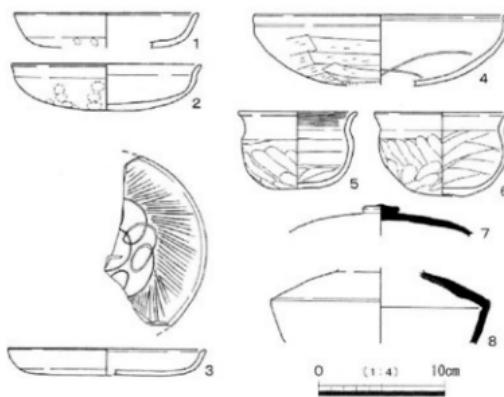
S E101

B区北西端の4B地区で検出した横板井籠組井戸である。掘方の北部および西部が調査区外に至るため全容は不明である。検出部分で東西長1.05m、南北長0.9m、深さ1.7mを測る。井戸枠は、上部井戸枠と下部井戸枠の二重構造である。下部井戸枠は、長辺0.4m、短辺0.2m、厚さ2～3cmを測る板材4枚を井籠組したものを3段に重ねたもので、水溜の機能を果たしている。上部井戸枠は、長辺0.6m、短辺0.3m、厚さ2～3cmを測る板材を井籠組したものを、下部と同様3段に重ねている。埋土は、最上層および掘方内が5層(1～5層)、井戸枠内が5層(6～10層)で、遺物は井戸枠内から土師器・須恵器が出土している。

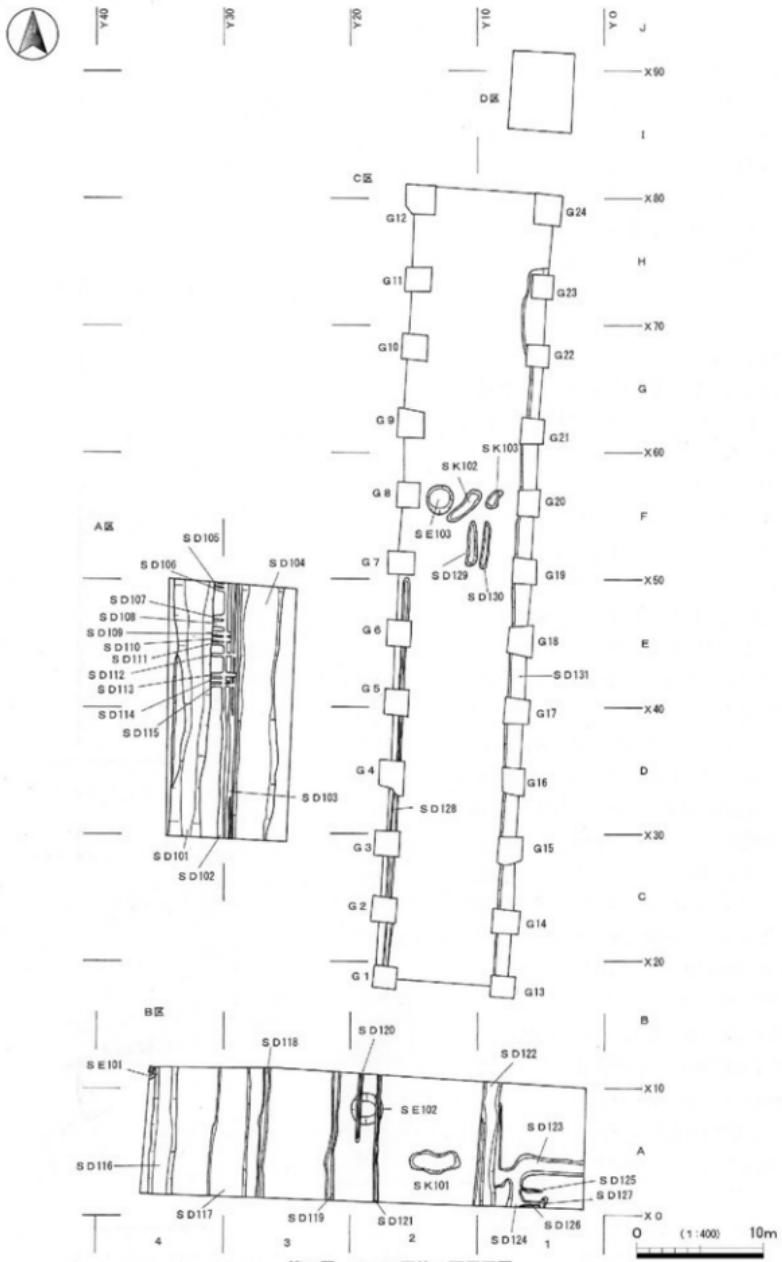
8点(1～8)を図化した。1～6は土師器である。1・2は杯Aで、1は口縁端部に内向きの小端面を持つものである。3は皿Aで、内底面には螺旋状と放射状暗文を施している。4は鉢である。体部外面は、ヘラケズリ、体部内面は、螺旋暗文を施している。5・6は壺Bである。ともに、口縁部は短く外反し、底部は平底を有する



第4図 B区S E101平・断面図



第5図 B区S E101出土遺物実測図



第6図 A~D区第1面平面図

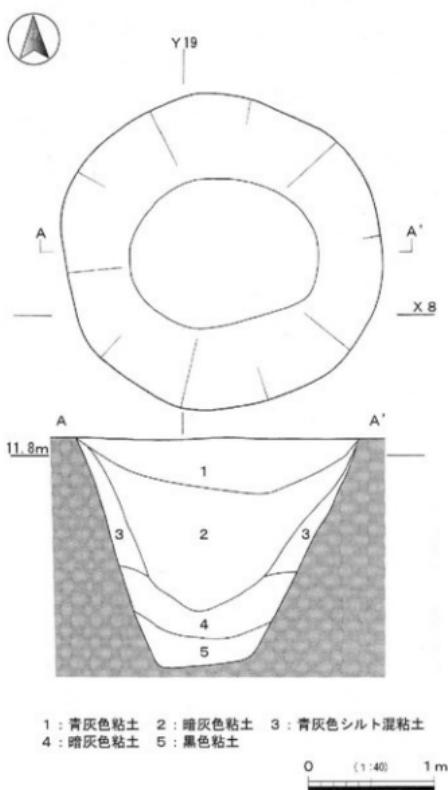
広口の小形壺である。内外面ともにナデを施す。5は完形で、6も口縁部の一部を欠く以外は完存している。7は、須恵器杯B蓋で平らな天井部に大きな宝珠形のつまみが付く。8は須恵器長頸壺で、稜角を有する体部を持つ体部片と推定される。出土遺物からみて造構の帰属時期は奈良時代中期が考えられる。

S E 102

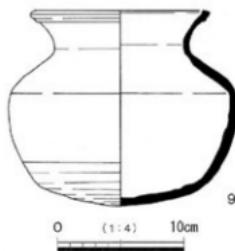
B区中央北の2A地区で検出した。1面の調査終了後の掘削段階で検出したもので、9層中に構築された造構である。平面の形状は円形で、径2.5mを測る。断面の形状は逆台形で、埋土は粘土を主体とした5層(1~5層)が堆積していた。遺物は古墳時代後期中葉に比定される須恵器短頸壺(9)が出土している。9は、扁球形の体部に外反する頸部が付く短頸壺である。口縁部の一部を欠く以外は残存している。口径13.2cm、器高15.3cm、体部最大径18.6cmを測る。田辯編年のTK 10型式(6世紀中葉)に比定される。造構の帰属時期は古墳時代後期中葉が推定される。

S E 103

C区の2F地区で検出した横板組隅柱型の井戸である。円形の井戸掘方の中央部に横板組隅柱を設置するもので、東西径2.28m、南北径2.11mを測る。井戸枠は、長辺0.8m、短辺0.33m、厚さ2~3cmの板材4枚を組んだものを、6段以上重ねている。ただ、調査中約2mを掘削したところで井戸枠が崩れ、調査を打ちきったため、井戸枠の段数や深さ等の詳細は不明である。板材の組み方は、板材の端をL字形に切込む2枚の板材を東と西に置き、南と北には未加工の板材を置くもので、四隅には、丸木の1/4を切取った隅柱を外側にあてて固定している。埋土は、最上層の1層灰色細砂混粘土、掘方内の2層灰色細砂混粘土、

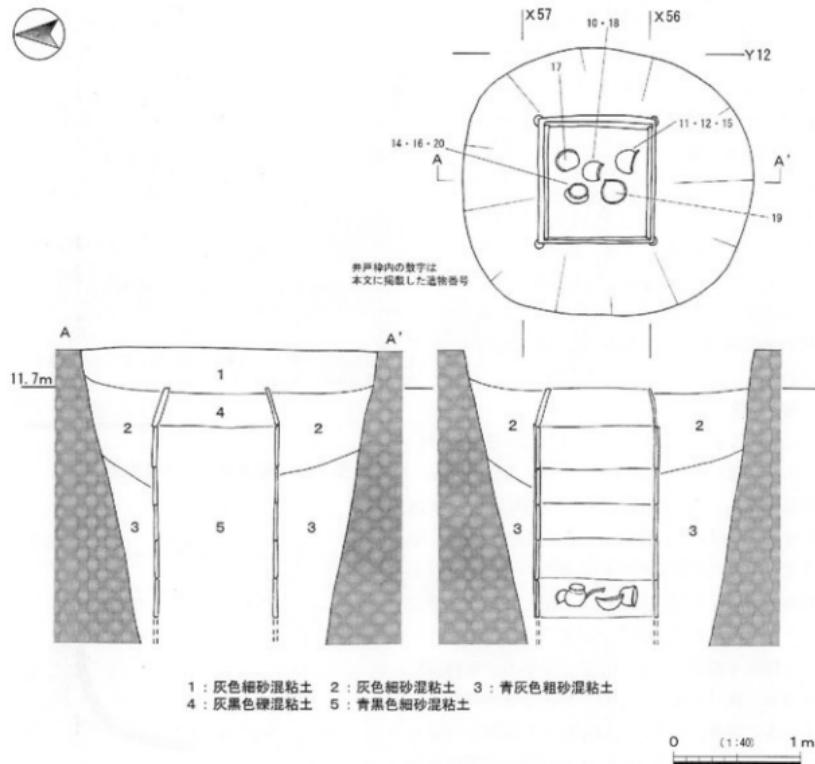


第7図 B区S E 102 平・断面図

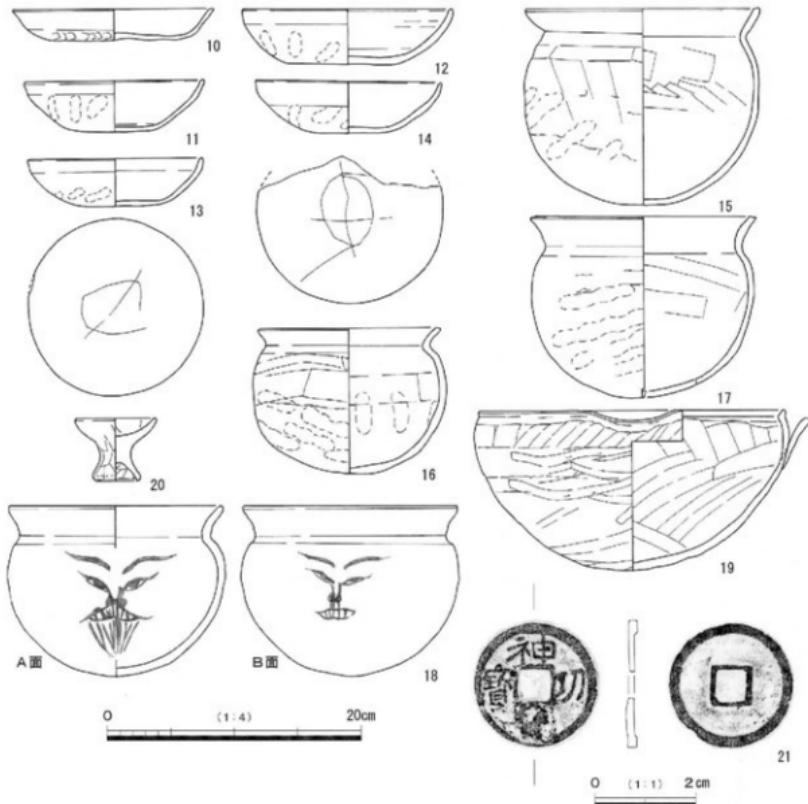


第8図 B区S E 102 出土遺物実測図

3層青灰色粗砂混粘土、井戸枠内上部の4層灰黒色礫混粘土、同下部の5層青黑色細砂混粘土である。遺物は、井戸枠内下部の5層から奈良時代末期～平安時代初頭に比定される土器器碗・皿・甕・鉢・高杯・墨書き面上器の他、銅鏡『神功開寶』が出土している。12点(10～21)を図化した。10は土器器皿、11～14は土器器碗である。碗の体部外面は指ナデが残る。平安時代の土器編年(佐藤1992)の平安時代II期古に比定できる。13・14の裏面には、工具による記号文がある。15～18は土器器甕で、16・17の底部内面にはコゲ、口縁部から体部下位には煤が付着している。18は墨書き人面土器である。2面(A・B面)に墨書きにより人の顔を描いている。両面共に人面の墨書きは体部上位から下位にかけて丁寧に描かれている。A面では、両眉ともに眉根から眉尻に向かって緩やかに湾曲し、眉尻がつり上がる表現が行われている。目は瞳を内にして目尻がつり上がる吊目である。目元から続く鼻は、小鼻部分を黒く塗りつぶして誇張させており、そこから口髭・頬鬚が表現されている。B面は、A面に比して小さく書かれておりA面と同様、眉尻を上げ、目は吊目で、髭は無く、



第9図 C区SE103平・断面図



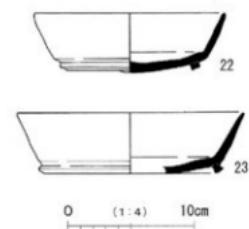
第10図 C区SE103出土遺物実測図

口および齒が表現されている。19は土師器片口鉢である。20は、手づくね品の土師器ミニチュア高杯である。21は銅錢『神功開寶』[初鋤765年(天平神護元年9月)]で、奈良時代最後の銅錢である。18の墨書人面土器および10～17・19～21は、出土状況から同時期に廃棄されたと考えられ、井戸の廃絶時に行われた祭祀行為に伴う遺物群であると推定される。

土坑(SK)

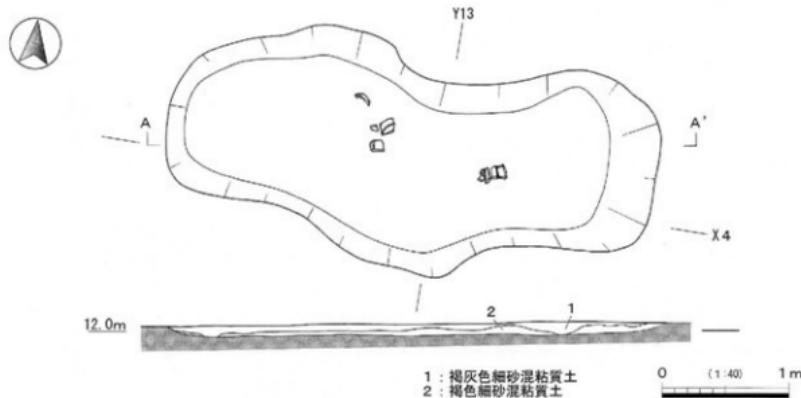
SK 101

B区東部の2A地区で検出した。東西方向に長い不定形で、東西径3.88m、南北径1.5mを測る。断面形状は浅い皿状で深さ0.1mを測る。埋土は1層が炭を含む褐色細砂混粘質土、2層が褐色細砂混粘質土である。遺物は1層

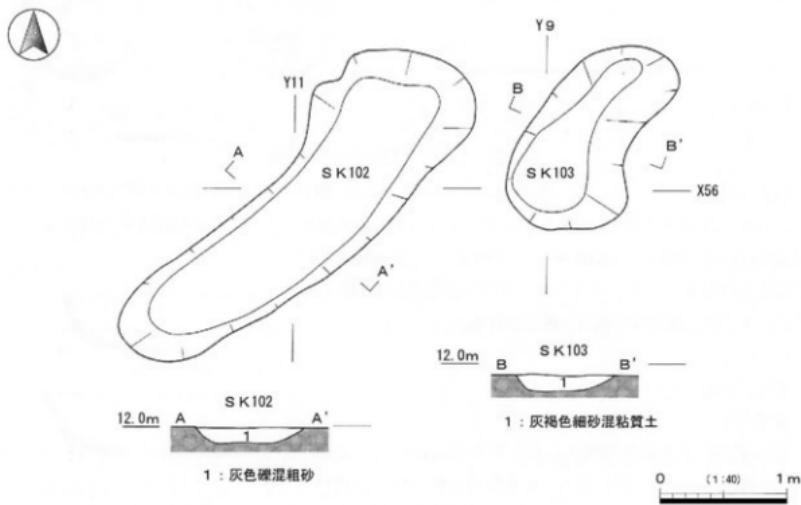


第11図 B区SK101出土遺物実測図

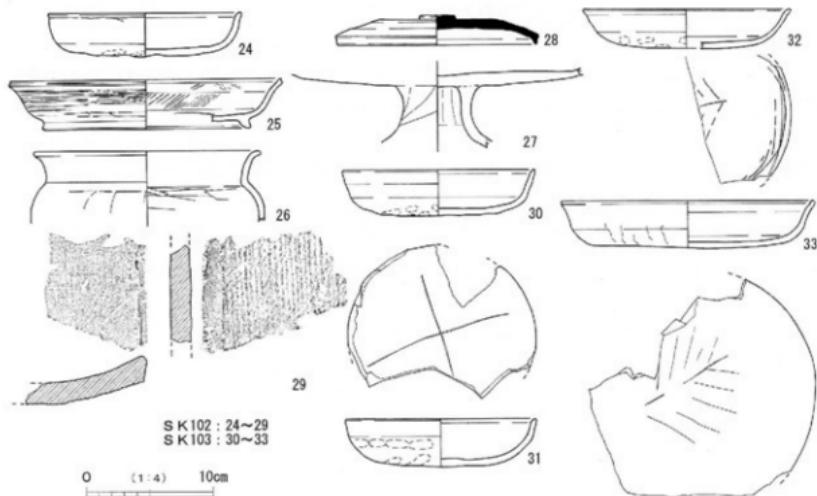
から奈良時代後半の土師器・須恵器杯身等が少量出土している。2点(22・23)を図化した。共に須恵器杯Bである。22が1/2、23が1/3程度残存している。22は高台下部より底部外面が突出している。共に高台底面の接地部が水平でなく、斜上方に向くものである。奈良時代後半に比定される。



第12図 B区SK101平・断面図



第13図 C区SK102・103平・断面図



第14図 C区SK102・103出土遺物実測図

S K102

C区の2F地区で検出した。SE103の東に隣接している。北東～南西方向に長い楕円形で、長径3.36m、短径0.83m、深さ0.13mを測る。埋土は灰色礫混粗砂である。遺物は奈良時代中期の土師器・須恵器・瓦片が出土している。6点(24~29)を図化した。24は土師器杯Aである。25は高台を有する土師器皿Bである。26は土師器壺である。27は低脚の土師器高杯である。28は須恵器杯B蓋である。29は平瓦片で、凹面に布目、凸面に縄目叩きが認められる。出土遺物から遺構の帰属時期は奈良時代中期が推定される。

S K103

C区の1F地区で検出した。楕円形で、長径1.68m、短径0.73m、深さ0.15mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘質土である。遺物は奈良時代中期の土師器・須恵器が少量出土している。4点(30~33)を図化した。30~33は土師器杯Aである。31の内底部には「×」のヘラ記号が施文されている。32・33の裏面には木葉文が残されている。出土遺物から遺構の帰属時期は奈良時代中期が推定される。

溝(S D)

A～C区の総数で31条(S D101～131)を検出した。南北に伸びるものと、それに直交して東西方向に伸びるものがある。南北方向のものは17条(S D101～104、116～122、124、127～131)、東西方向に伸びるのは14条(S D105～115・123、125・126)である。規模は幅0.2～0.4m、深

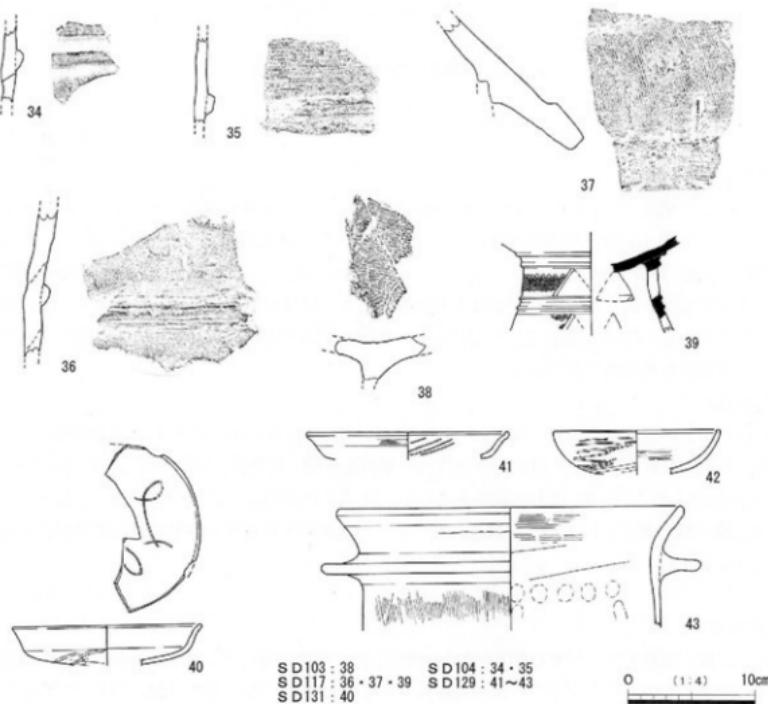
さ0.1~0.2mを測る。内部からは土師器・須恵器の細片が少量出土している。形状・規模から耕作に関連した溝と推定される。法量および詳細については第2表に示した。

このうちSD103からは形象埴輪(38)、SD104からは円筒埴輪(34・35)、SD117からは埴輪(36・37)、須恵器器台(39)、SD129からは土師器杯(41・42)や羽釜(43)、SD131からは土師器杯(40)が出土した。

38は盾形埴輪の盾面側部片と推定される。ヨコハケによる器面調整の後ヘラ状工具による施文がある。

34・35は、共に円筒埴輪の細片で、34が土師質、35が須恵質である。34は外面にタテハケを施している。突帯はやや低く断面三角形である。35は外面にB種ヨコハケを施す。突帯はM字状を呈する。

36は土師質の円筒埴輪である。外面にタテハケを施す。突帯は三角形を呈し、幅は1.5~2cmを測る。



第15図 A区SD103・104 B区SD117 C区SD129・131出土遺物実測図

41は土師器杯Aで、体部の内面に放射状暗文を施す。42は土師器杯C。43は土師器羽釜である。奈良時代中期に比定できる。

40は土師器杯Aである。体部の内面には螺旋暗文を施す。奈良時代中期に比定できる。

<第2面>

第2面はA地区のみで検出した。第10層上面を構築面とするもので、古墳時代後期頃の土坑7基(S K201~207)、溝2条(S D201・202)、小穴5個(S P201~205)を検出した。

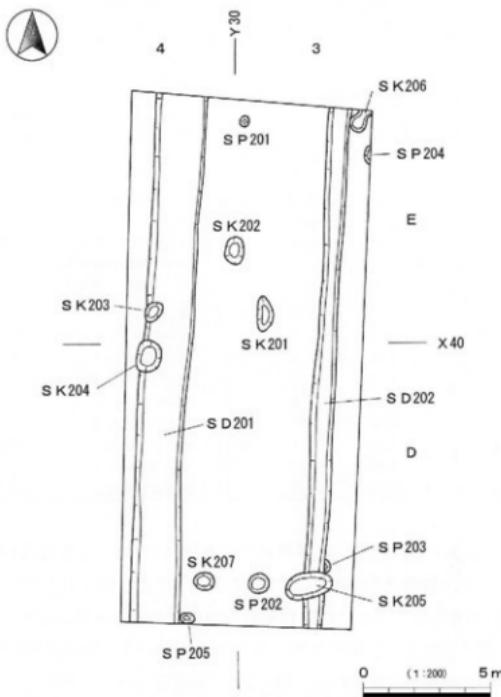
土坑(S K)

S K201

3E地区で検出した。平面形状は南北方向に長い楕円形を呈し、長径1.35m、短径0.6mを測る。断面形状は半円形で、深さ0.21mを測る。埋土は粘土を主体とする2層から成る。遺物は土師器・須恵器の細片が少量出土しているが時期を明確にし得たものはない。

S K202

3・4E地区で検出した。平面形状は方形を呈し、長径1.0m、短径0.75mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土は粘土を主体とする2層から成る。遺物は土師器・須恵器の



第16図 A区第2面平面図

<第3面>

12層上面で、弥生時代中期～後期の井戸2基(S E301・302)、土坑3基(S K301～303)溝4条(S D301～304)、小穴5個(S P301～305)を検出した。

井戸(S E)

S E301

B区の4A地区で検出した素掘り井戸である。平面形状は西部が調査区外に至るため不明である。検出した部分は東西幅1.0m、南北幅1.6mを測る。断面形状は逆台形で、深さ1.22mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、遺物の出土はなかった。時期の特定はできない。しかし、S K301を切っていることから、弥生時代中期後半～後期に比定できる。

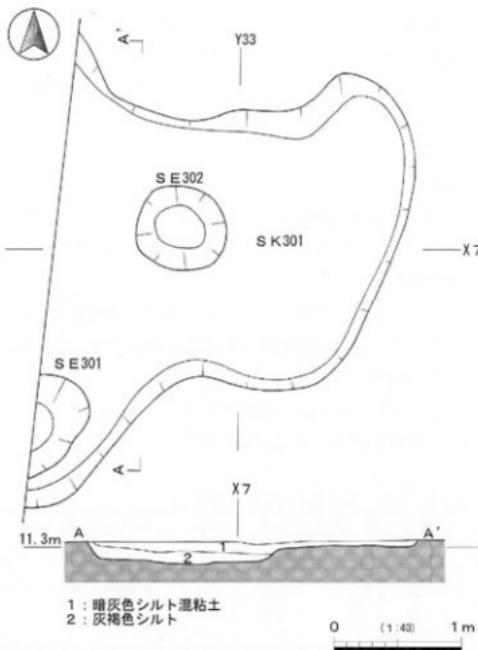
S E302

B区の4A地区で検出した。平面形状は円形の素掘り井戸である。東西径1.4m、南北径1.32mを測る。断面形状は筒形で、深さ1.2mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、遺物の出土はなかった。時期の特定はできない。しかし、S K301を切っていることから、弥生時代中期後半～後期に比定できる。

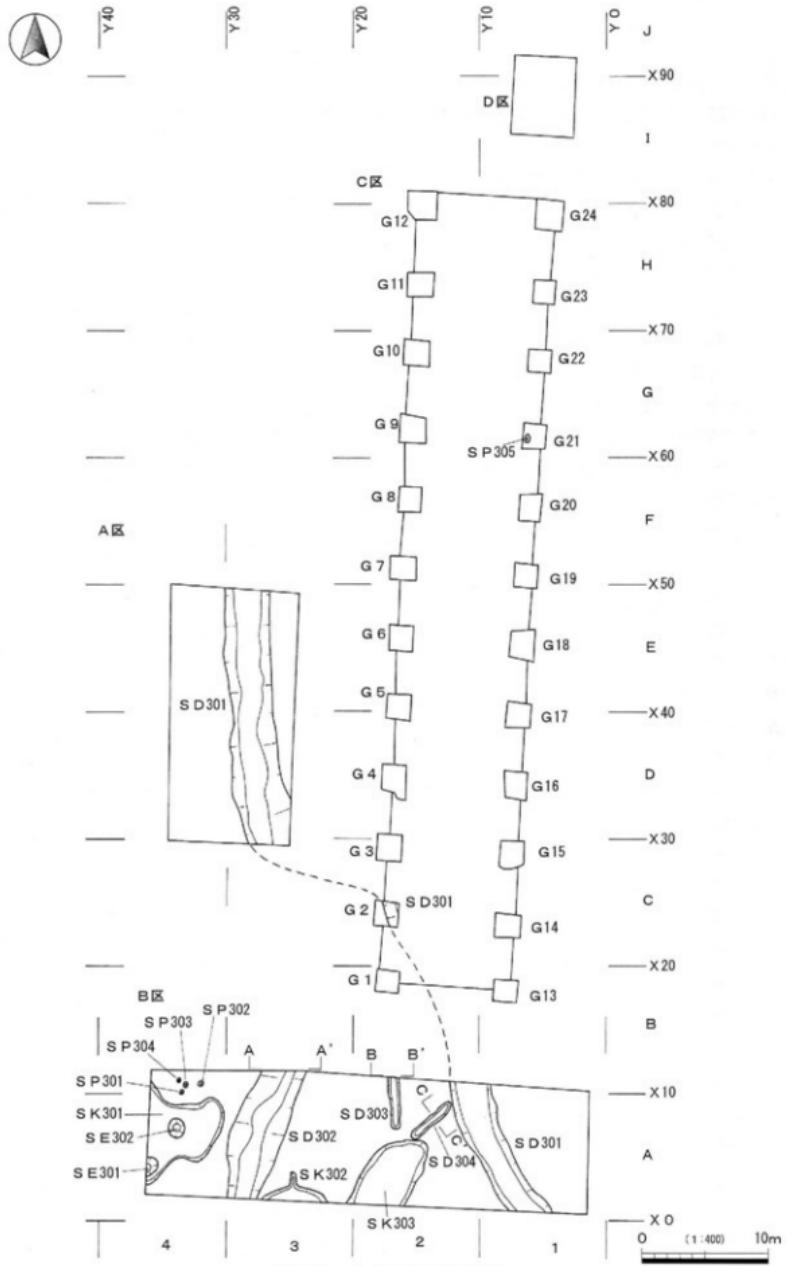
土坑(S K)

S K301

B区の4A地区で検出した。不定形で西部が調査区外に至る。また、S E301・302に切られている。検出部分で東西幅5.6m、南北幅7.5mを測る。断面形状は皿形で深さ0.35mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土、灰褐色シルトで、弥生時代中期後半に比定される弥生土器が少量出土した。9点(44～52)を図化した。44・45は、付加状口縁を持つ広口壺である。口縁端面の施文は44が上下二段の櫛描廉状文間に刺突文、45が上部から順に櫛描列点文、櫛描扇形文、刺突文、櫛描廉状文、櫛描扇形文である。また45は、頸部にも櫛描廉状文を施している。46は壺の体部の破片で、櫛描廉状文と円形浮文を施す。47は、壺の底部である。48は大形の甕で、49・50は小形の甕である。48は、口縁端部が下方へ少し拡張し面を形成する。



第17図 B区S K301平・断面図

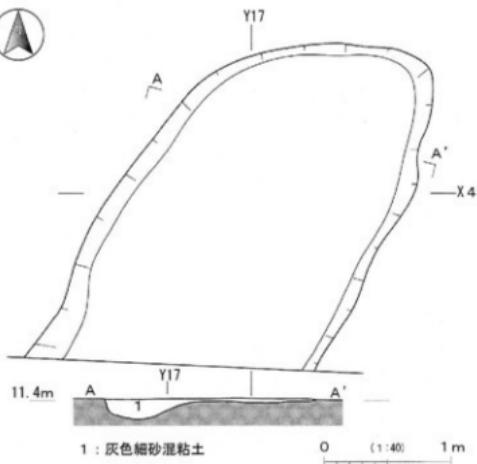


第18図 A～D区第3面平面図

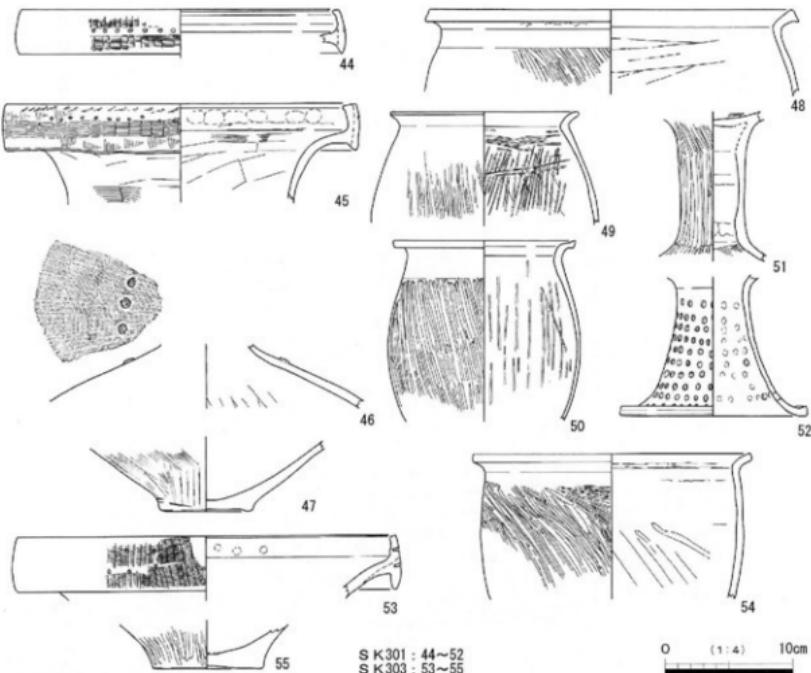
49は、口縁部が「く」の字に屈曲する。
 50の口縁部は、外反した後、端部を擒み上げる。51は高杯、52は鉢の脚部である。52の脚部外面には、竹管文を施す。遺構の帰属時期は弥生時代中期後半(河内IV-1様式)と考えられる。

S K302

B区の3A地区で検出した。南部が調査区外に至るため全容は不明である。検出部分では半球形状の部分の中央部付近から北に1.1m程度小溝が伸びる。東西幅5.05m、南北幅1.2mを測る。断面形状は、底部がほぼ水平で深さ0.18mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で遺物の出土はなかった。



第19図 B区 S K303 平・断面図



第20図 B区 S K301・303 出土遺物実測図

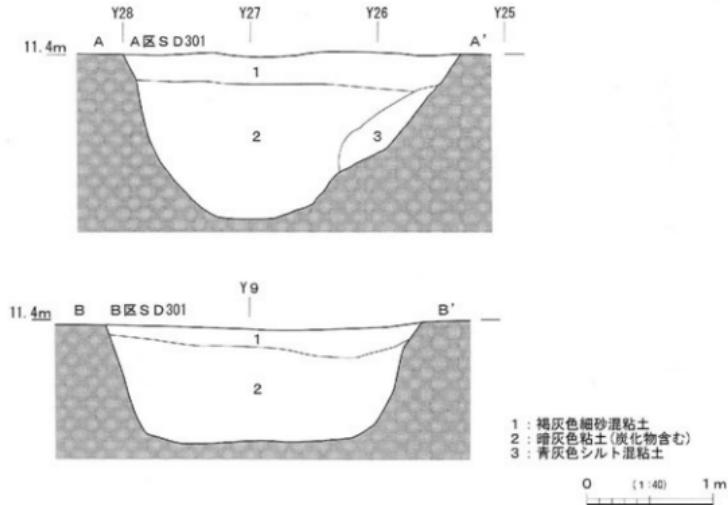
S K303

B区の2・3A地区で検出した。南部は調査区外に至るため全容は不明である。検出部分で東西幅4.1m、南北幅5.7mを測る。断面形状は皿状で、深さ0.34mを測る。底面は西肩に沿って溝状に窪む部分がある。埋土は灰色細砂混粘土で、弥生時代中期後半に比定される弥生土器が出土している。3点(53~55)を図化した。53は付加状口縁を持つ広口壺である。端面には上下二条の簾状文と刺突文を施す。54・55は甕である。54はいわゆる如意形口縁を呈する甕である。55は底部である。遺構の帰属時期は弥生時代中期後半(河内IV-1様式)と考えられる。

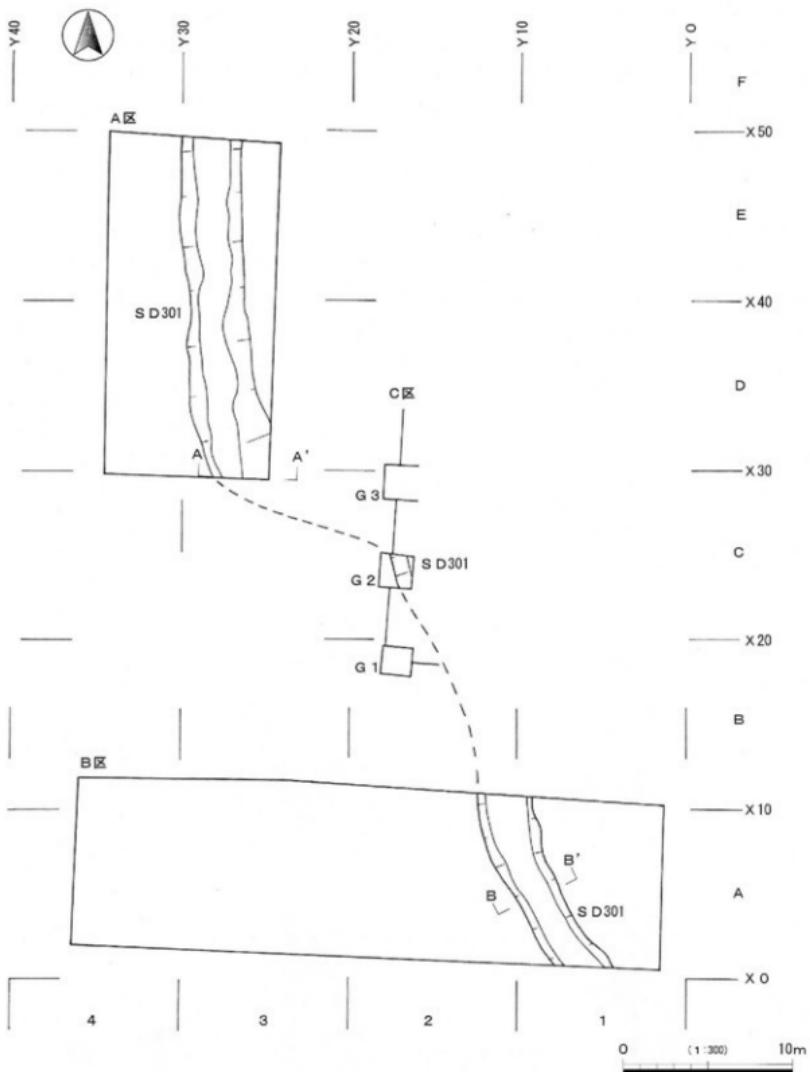
溝(S D)

S D301

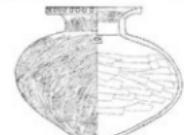
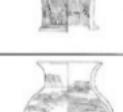
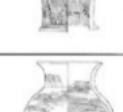
A区の東部、B区の東部、C区の南西部で検出した。南東~北西方に蛇行し伸びる溝である。検出部分で検出長54.0m、幅3.5~4m、深さ1.2~1.5mを測る。埋土は3層からなり、特にA区の1・2層からは、弥生時代後期後半(畿内第V様式後半)古相(原田2003)に比定される完形品の土器および完形近くにまで復元可能な土器の破片が密集した状態で出土した。出土量はA区だけでコンテナ約150箱を数える。A区では、調査時点において1層を中心としたものを上層遺物、2層のものを下層遺物として取り上げたことから、図化した遺物を掲載するにあたり、上層遺物と下層遺物の順に記載した。図化したものはA区408点(56~463)、B区1点(464)である。同遺構からの遺物は膨大であることから、器種別に分類して記述をおこなった(第23・24図参照)。なお、土器分類は久宝寺遺跡第29次調査の「中・南河内地域における弥生時代後期後半~古墳時代初頭前半(庄内式古相)の土器の細分試案について」(原田2003)を参考に作成した。



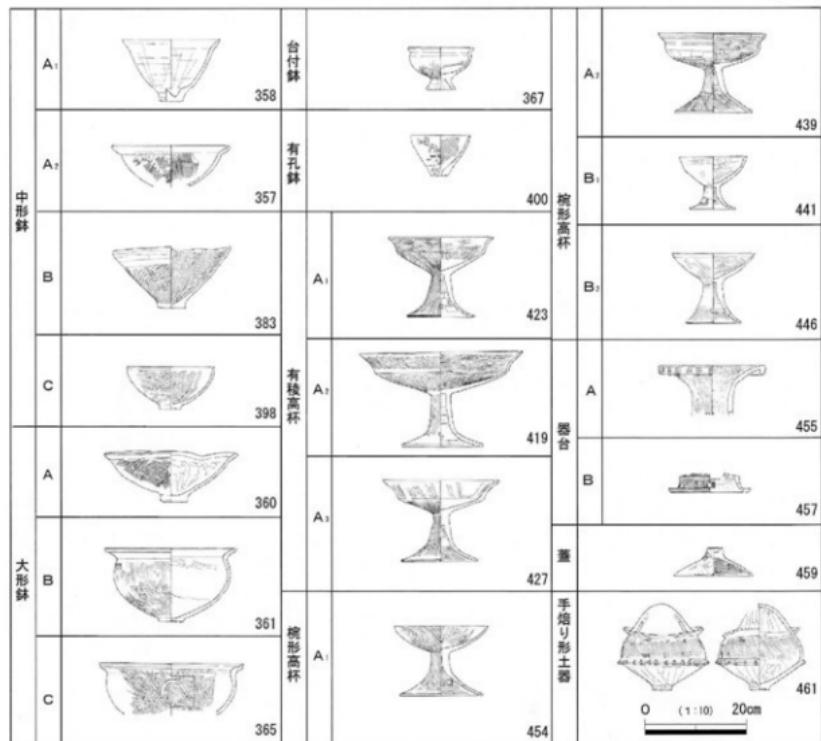
第21図 A・B区 S D301 断面図



第22図 A~C区 SD 301 平面図

	A ₁		無頭壺		263		A ₂		299	
広口壺A	A ₂		細頭壺		259	A ₃		332		
	A ₃		長頭壺A		210			350		
	B ₁				241				104	
広口壺B	B ₂		短頭直口壺		261	A		352		
	B ₃				257			197		
広口長頭壺	A ₁		二重口縫壺		355		A		374	
	A ₂		台付壺		269		B ₁		386	
	B		臺A		276		C		395	O (1:10) 20cm

第23図 土器分類図1



第24図 土器分類図2

・壺

広口壺A 口縁部が外反する小・中形の壺。

A₁ 口頭部が小さく外反するもの。体部は球形と扁球形がある。

A₂ 頸部が斜上方に伸びた後、口縁部が小さく外反する。

A₃ 口頭部が大きく外反するもの

広口壺B 頸部が直上方に短く伸びた後、外折する口縁部を持つもの。

B₁ 頸部が直上方に短く伸びた後、口縁部が外折するもの。

B₂ 口縁部に垂下する端部がつくもので、端面に装飾を行うものが多い。

広口長頸壺A 大きく外反する口縁部に垂下する端部がつき、端面に装飾を行うものが多い。

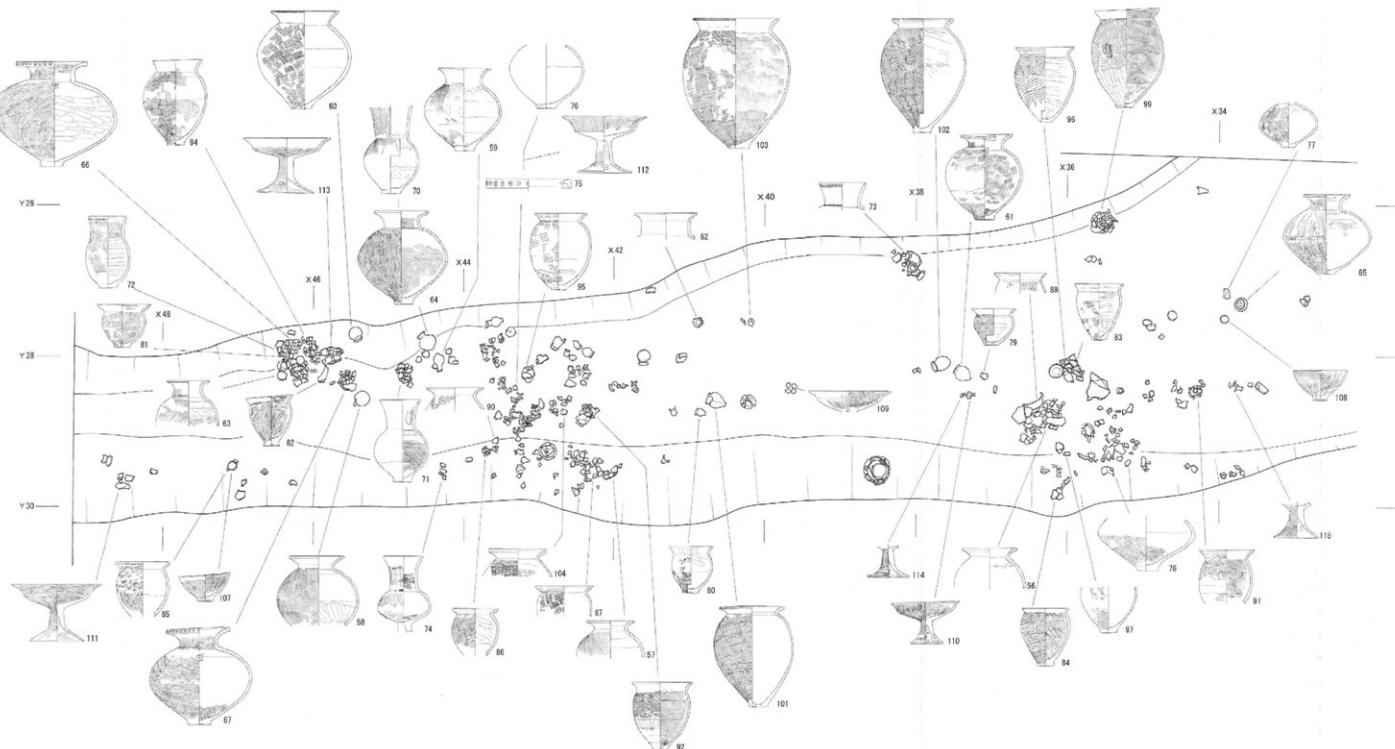
A₁ 直上方に伸びる頸部から大きく外反する頸部が付く。

A₂ 頸部が長くラッパ状に開くもので、垂下した口縁端面に装飾を施すもの。

広口長頸壺B 長頸壺Aの体部から開き気味に伸びる口頭部を持つ小形・中形の壺。

無頸壺 球形の体部で頸部を持たない小形の壺。

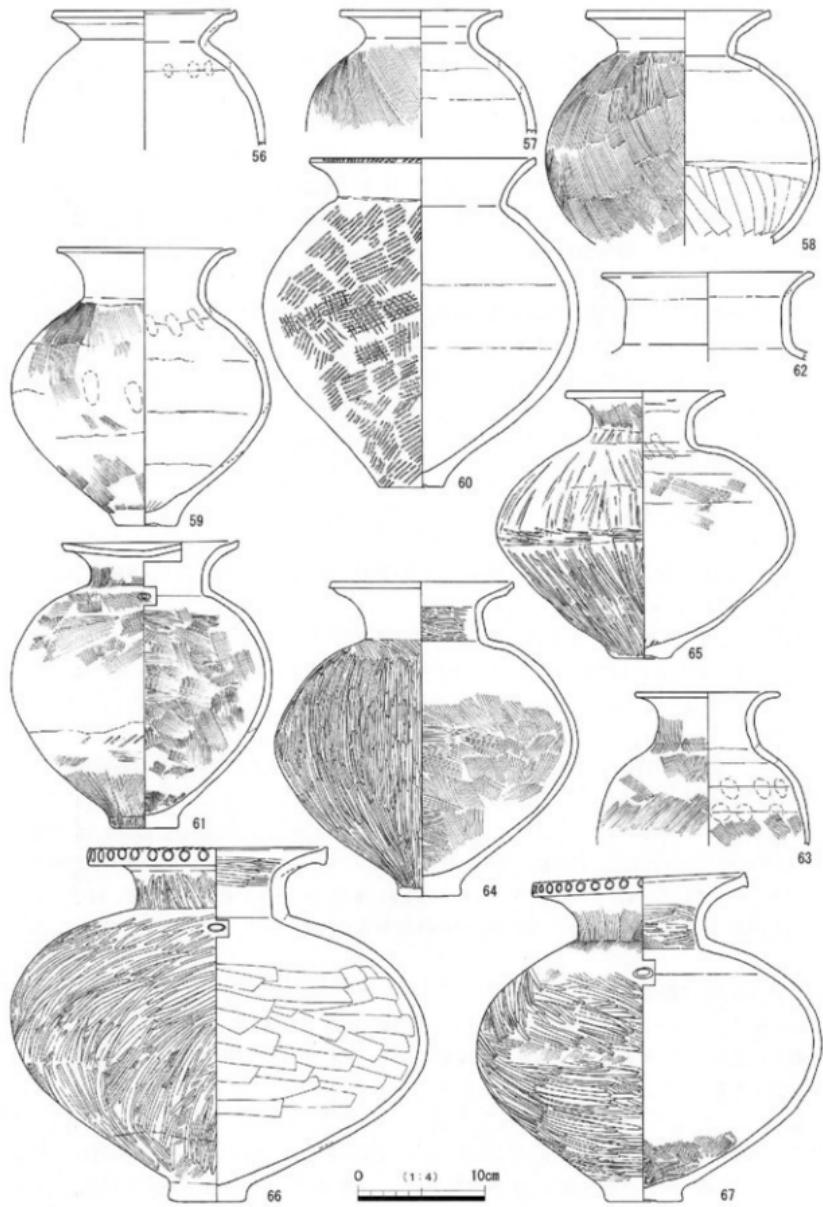
細頸壺 扁球形の体部から口頭部が斜上方に直線的に伸びる壺。



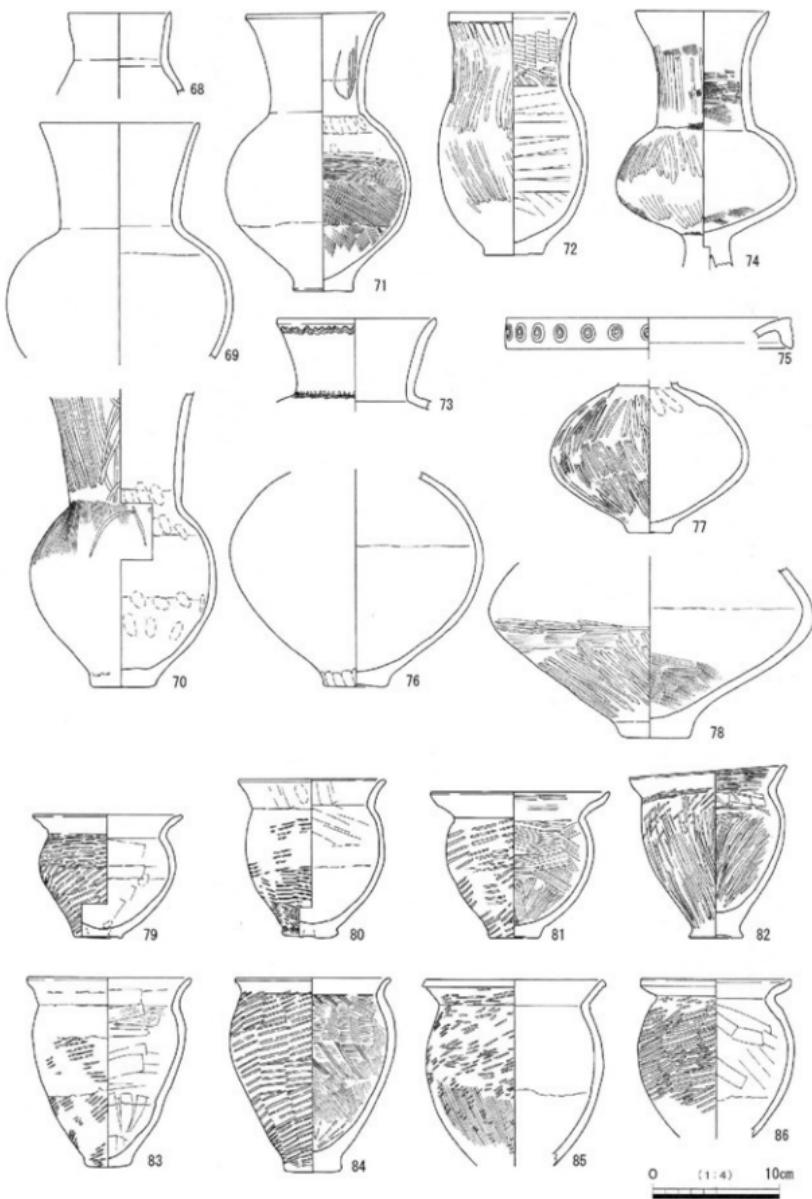
第25図 A区 S D301上層出土遺物位置図

遺物実測図の縮尺 S = 1/10
数字は本文に掲載した遺物番号

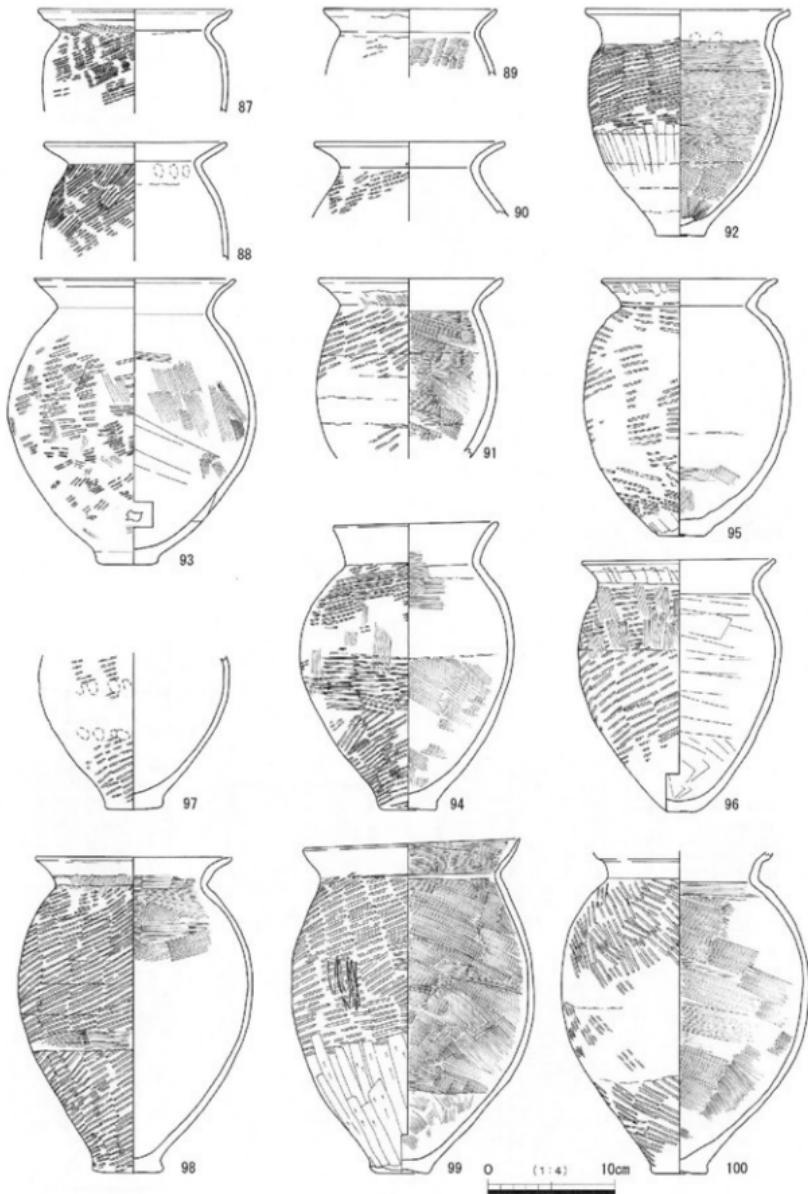
0 (1:50) 1 m



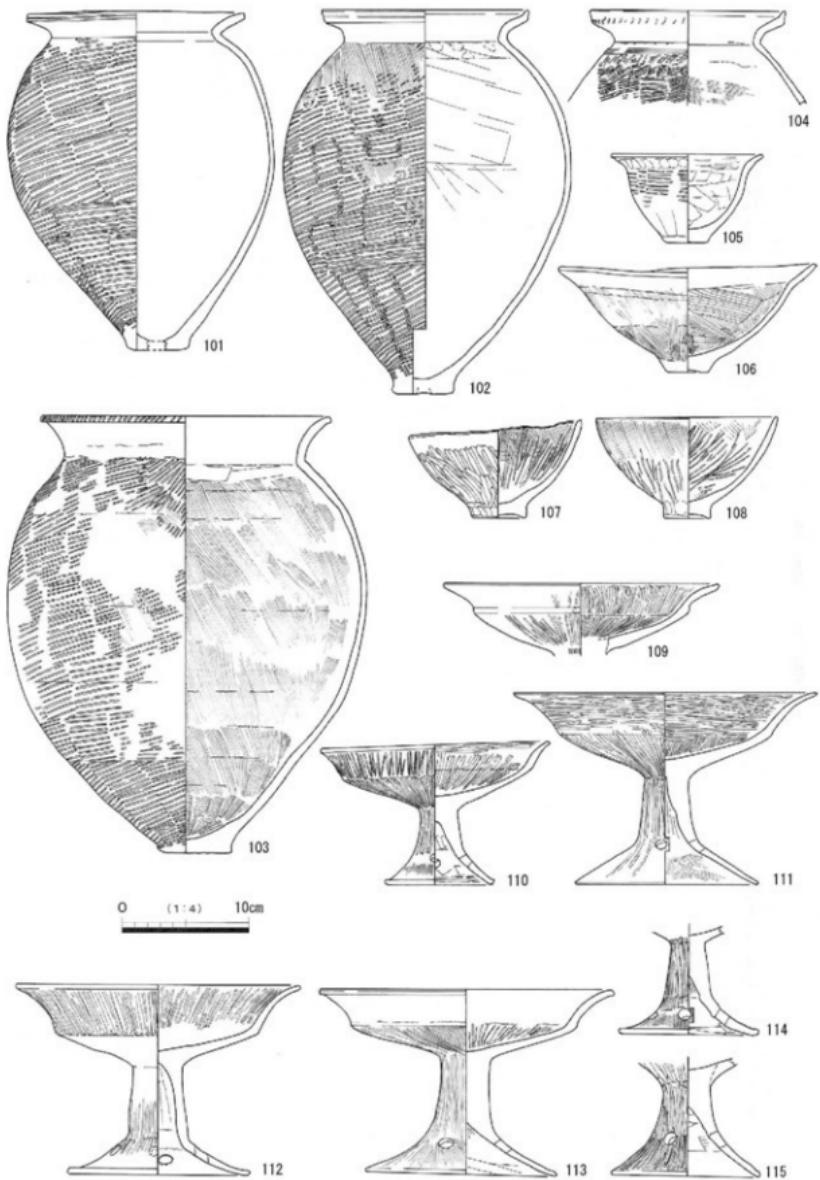
第26図 A区 S D301上層出土遺物実測図—1



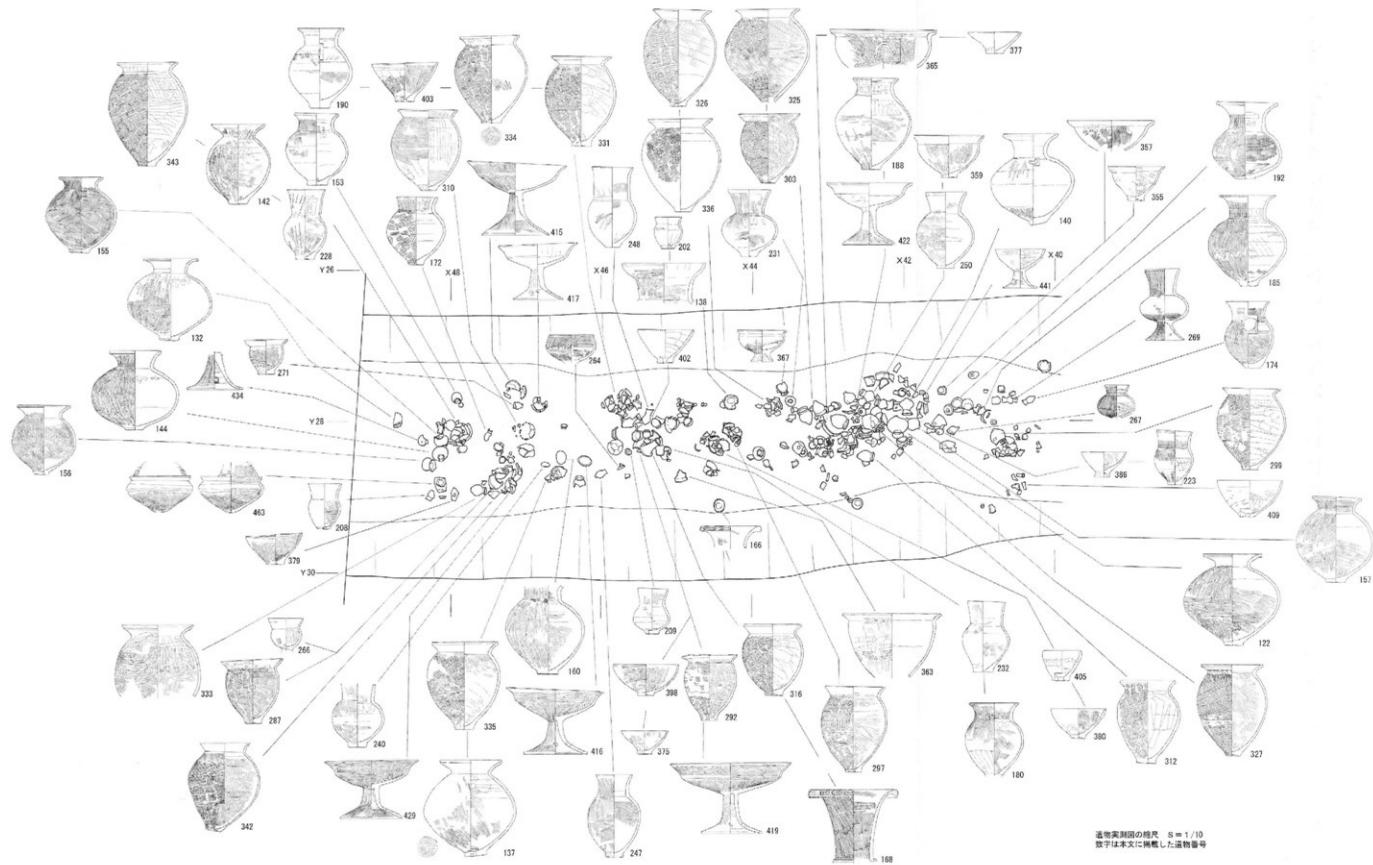
第27図 A区S D301上層出土遺物実測図—2



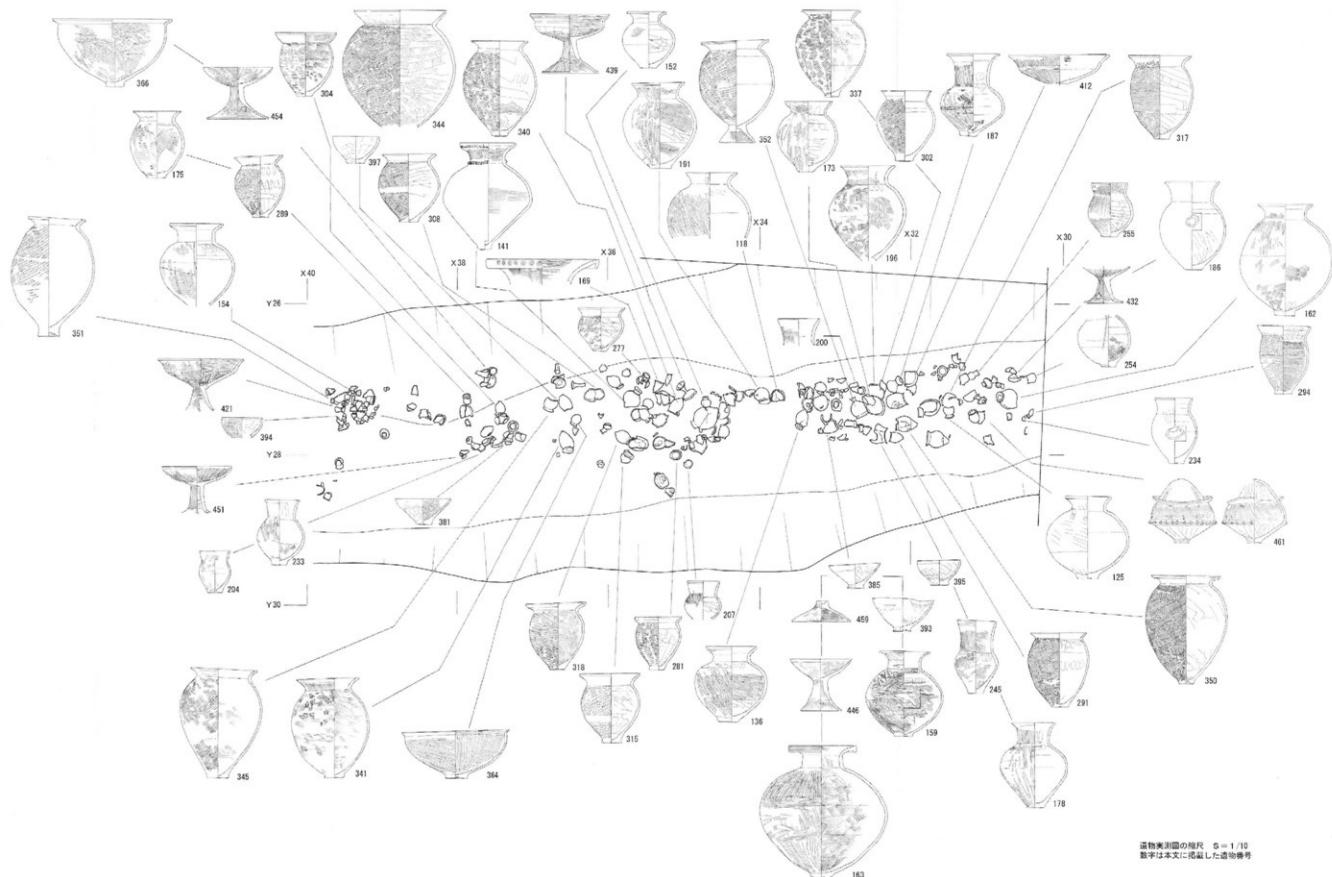
第28図 A区SD301上層出土遺物実測図—3



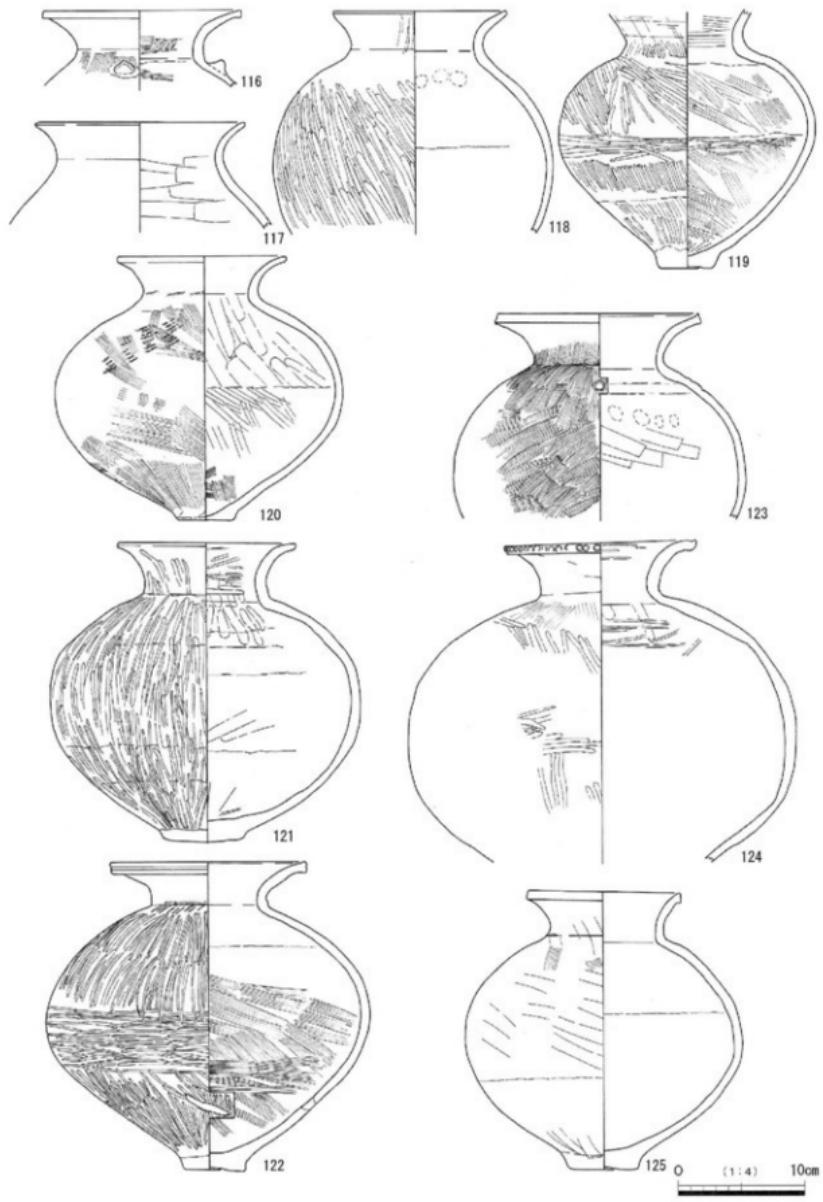
第29図 A区S D301上層出土遺物実測図—4



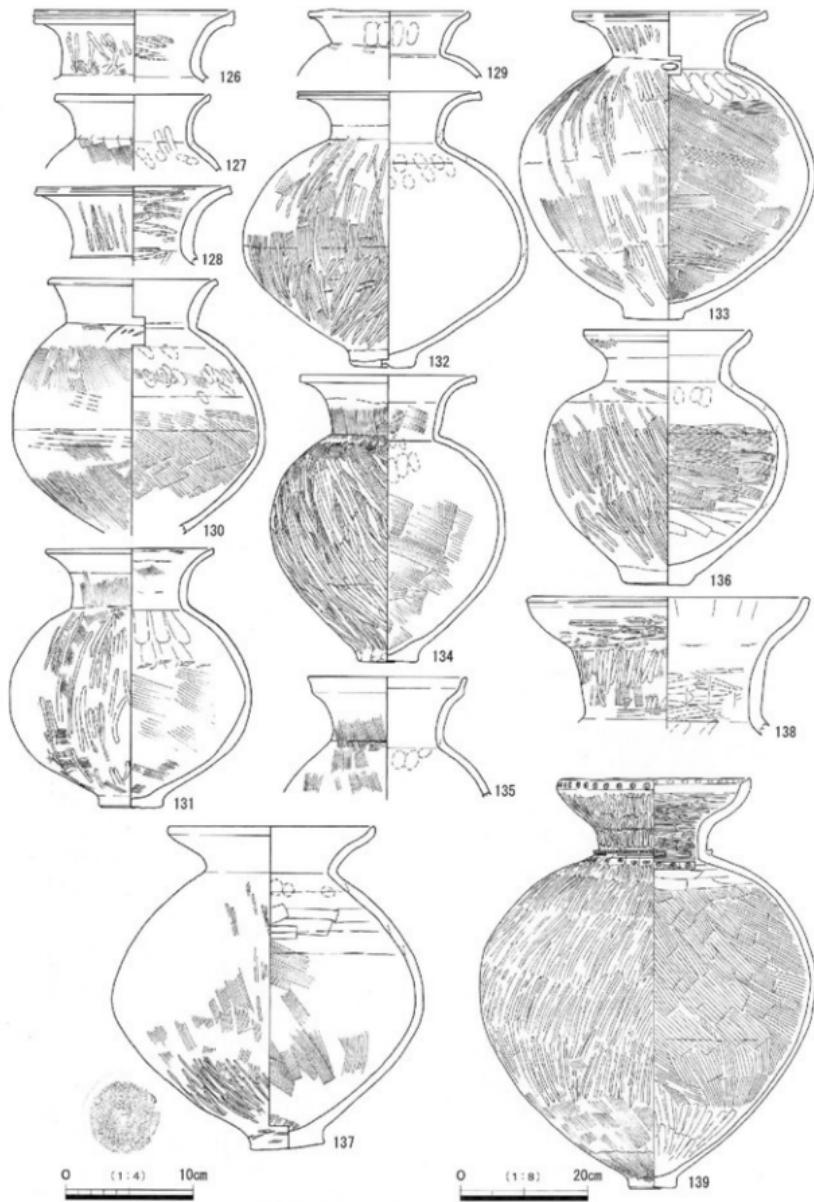
第30図 A区 S D 301下層出土遺物位置図(北部)



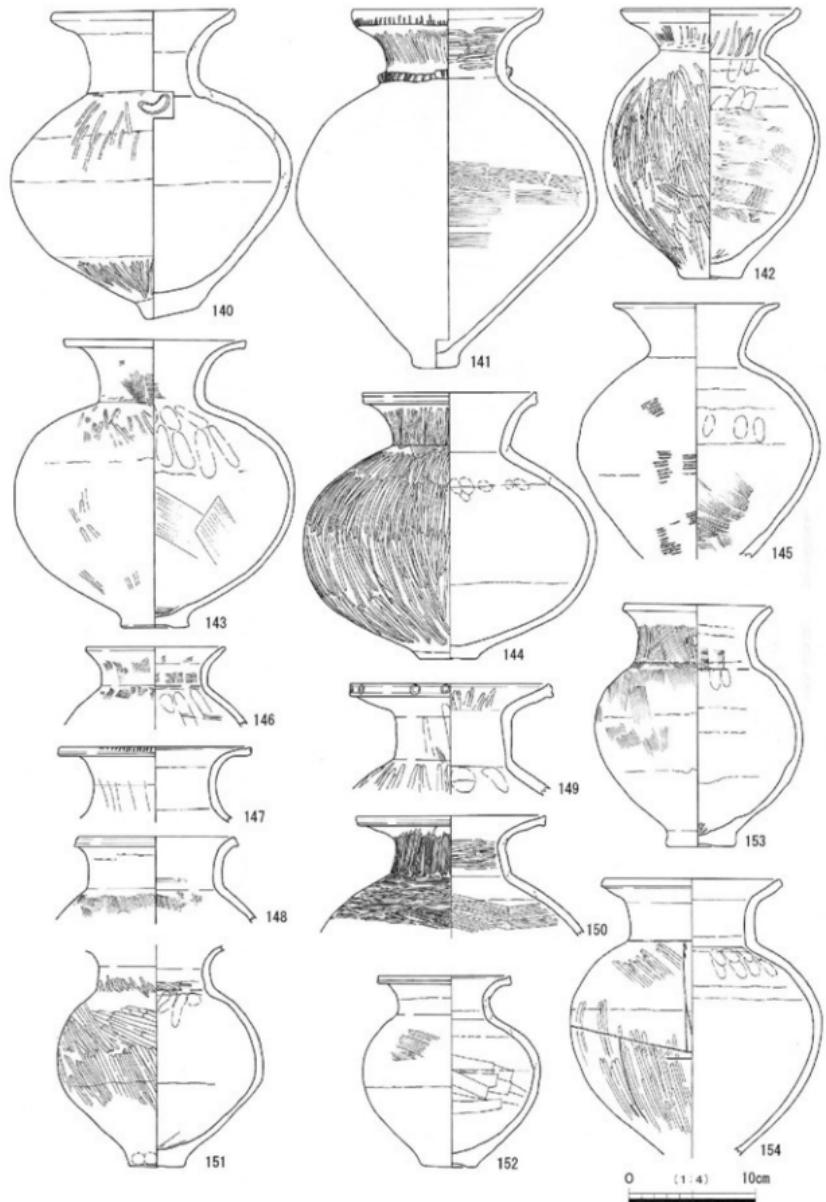
第31図 A区SD 301下層出土遺物位置図(南部)



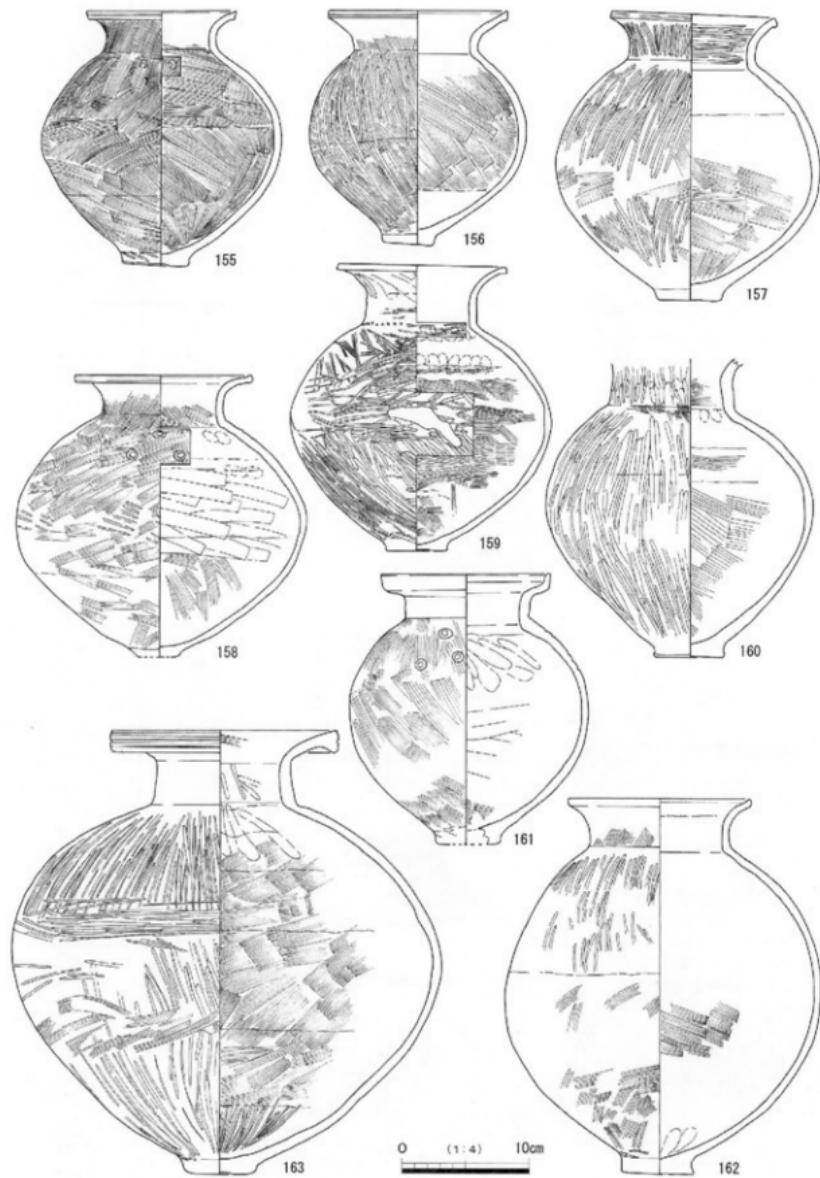
第32図 A区 S D301 下層出土遺物実測図-1



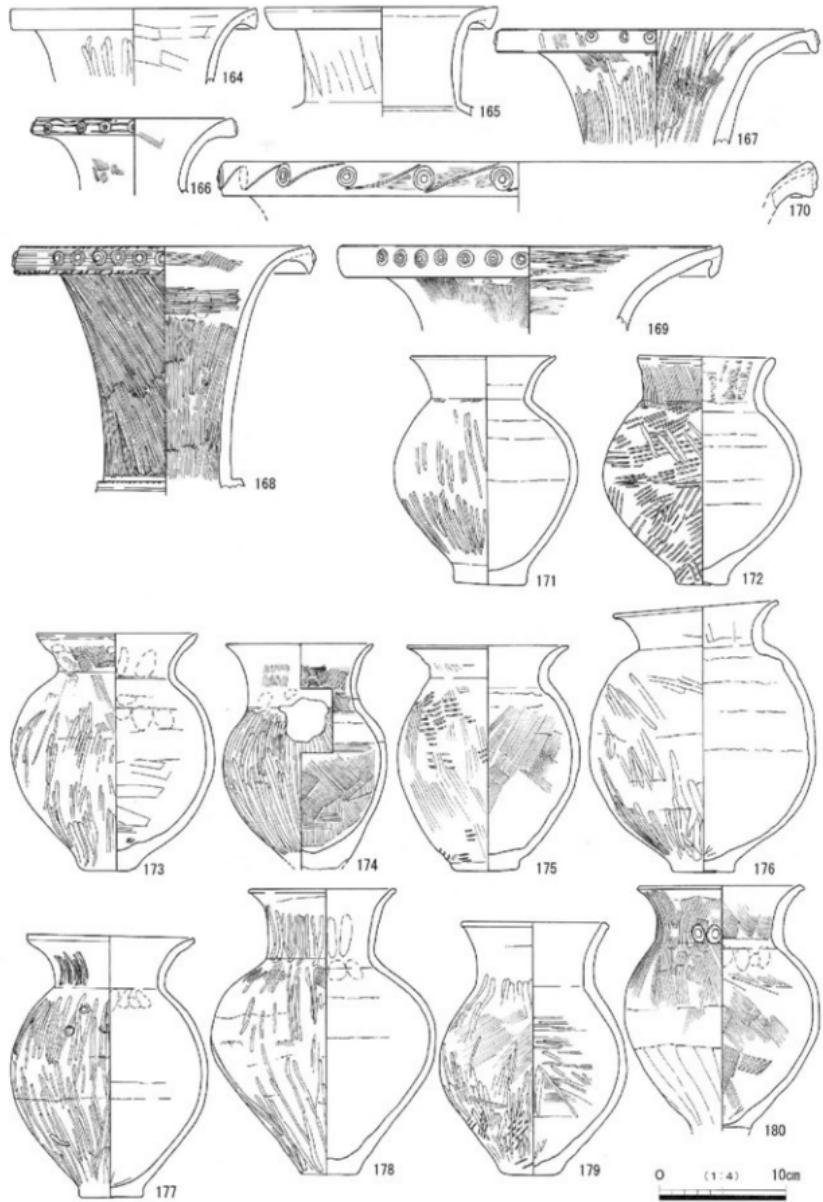
第33図 A区 S D 301 下層出土遺物実測図-2



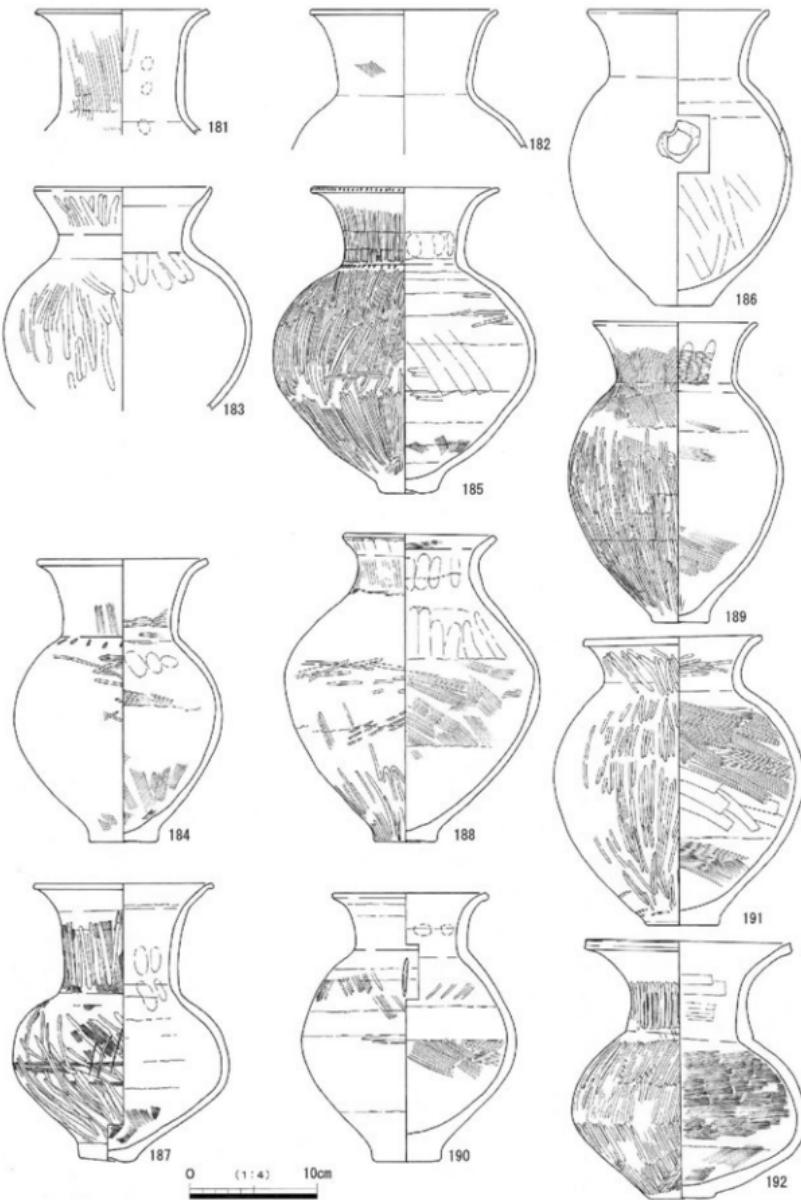
第34図 A区S D301下層出土遺物実測図-3



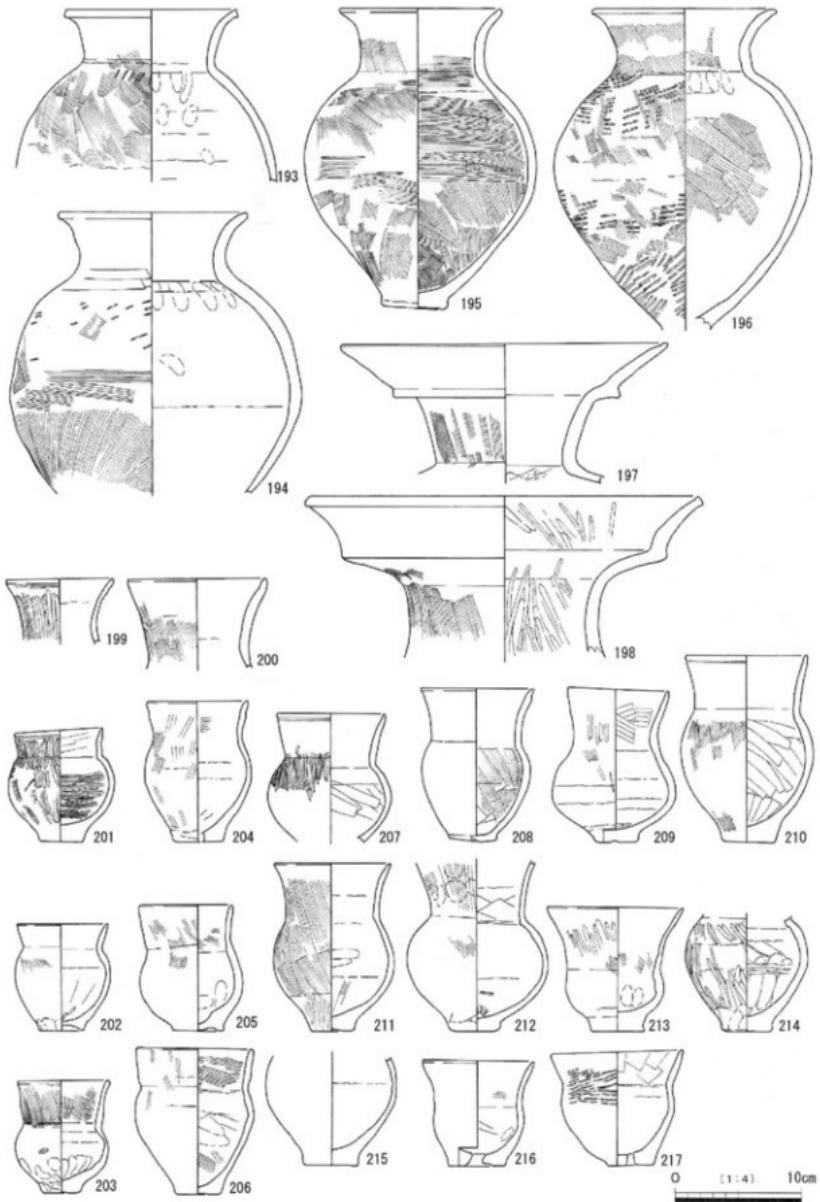
第35図 A区 S D301下層出土遺物実測図-4



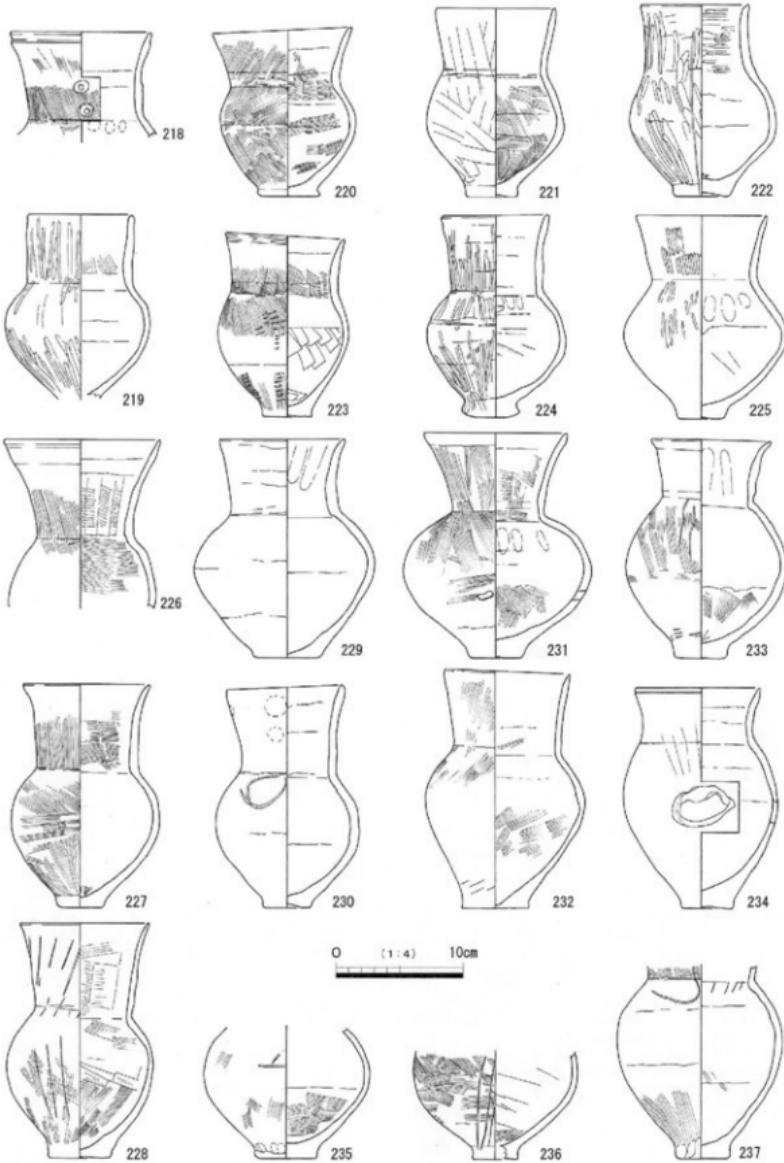
第36図 A区S-301下層出土遺物実測図-5



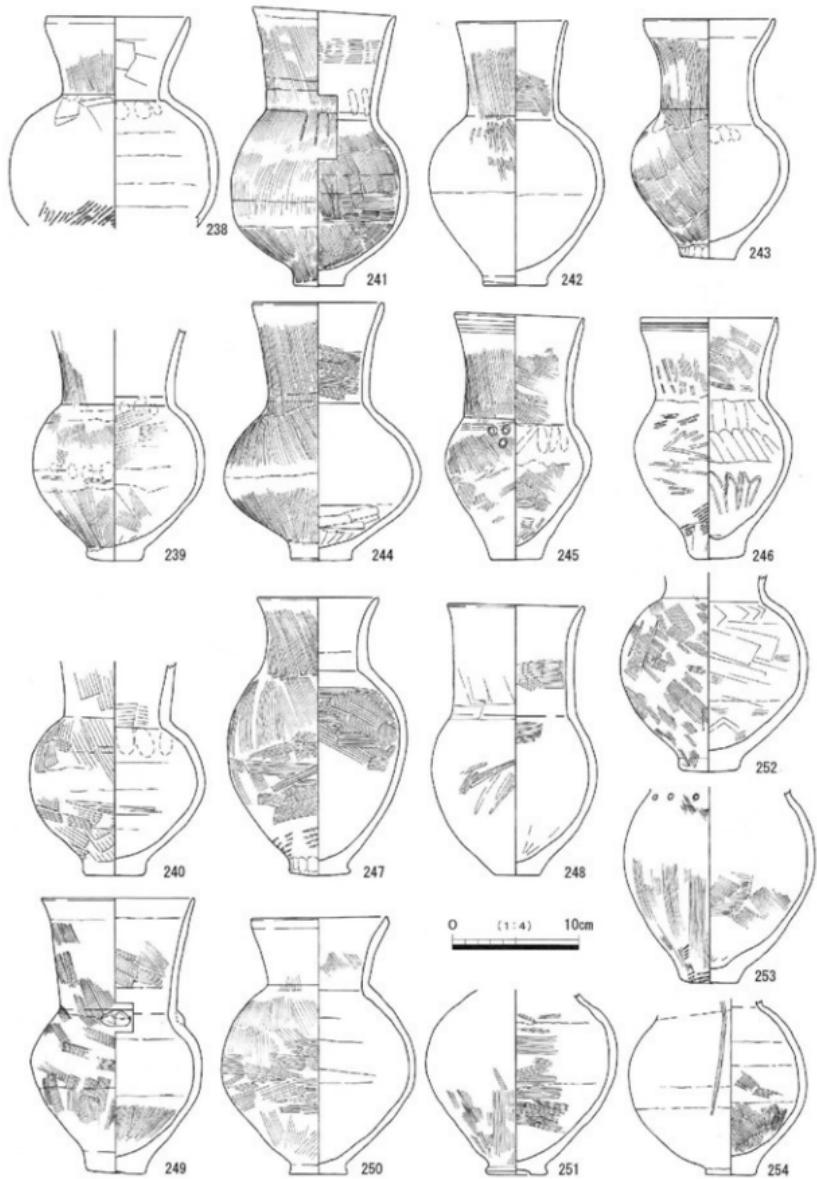
第37図 A区S D301下層出土遺物実測図-6



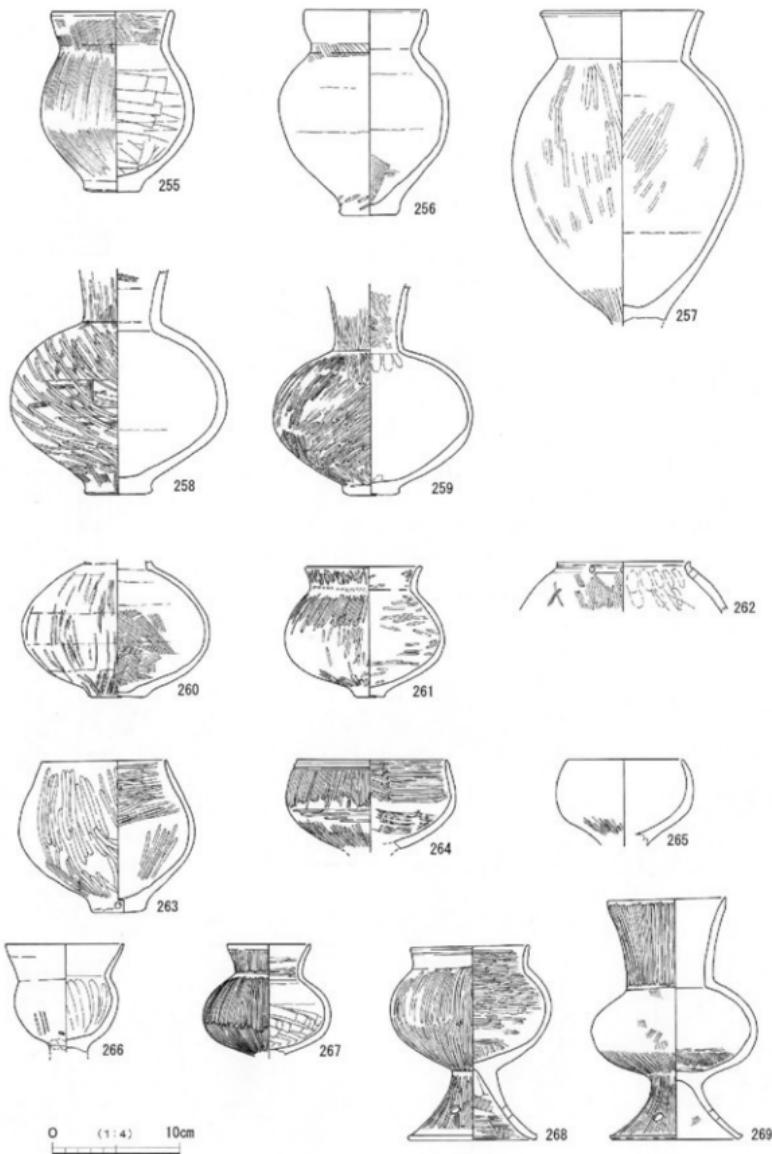
第38図 A区S D301下層出土遺物実測図-7



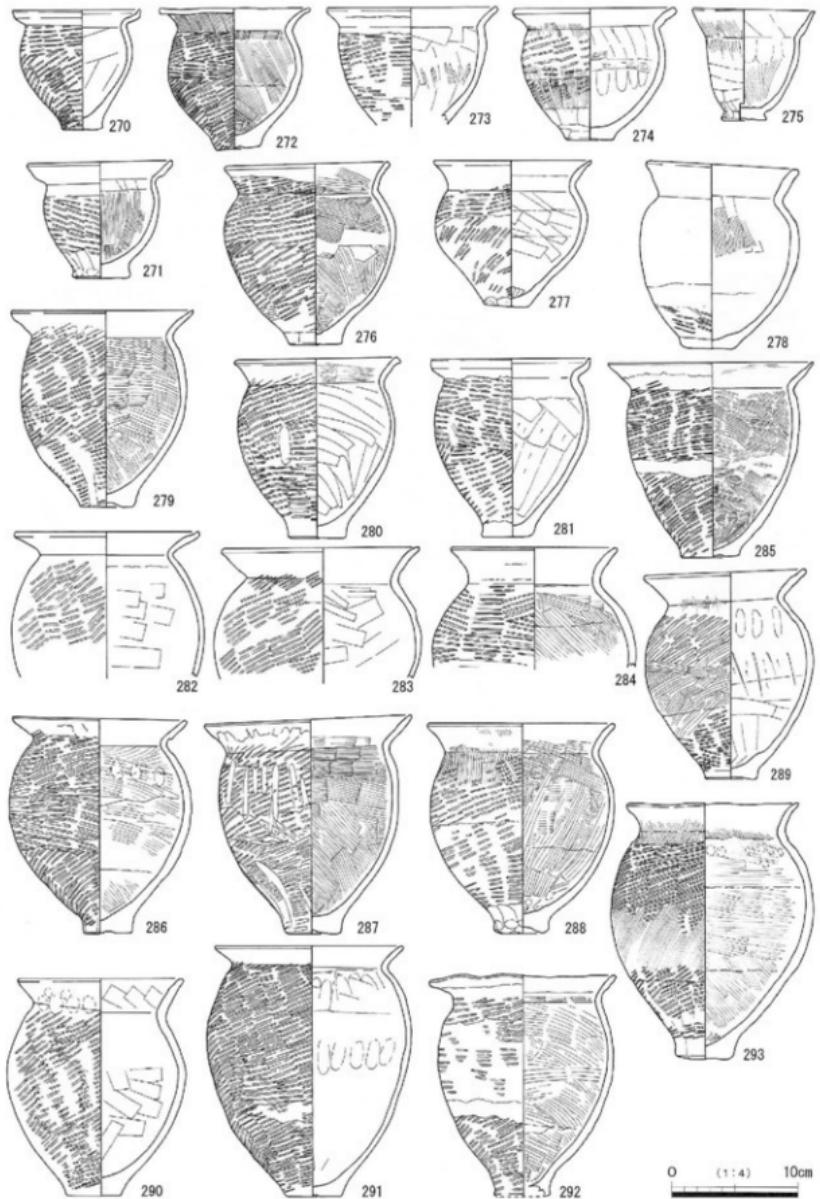
第39図 A区 S D301 下層出土遺物実測図-8



第40図 A区S D301下層出土遺物実測図-9

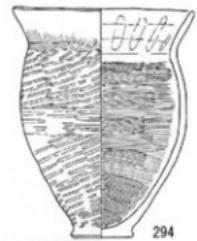


第41図 A区S D301下層出土遺物実測図-10

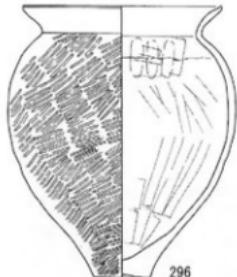


第42図 A区S D301下層出土遺物実測図-11

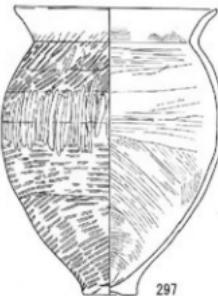
0 (1:4) 10cm



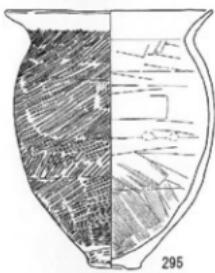
294



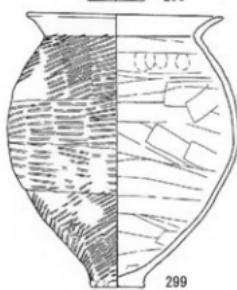
296



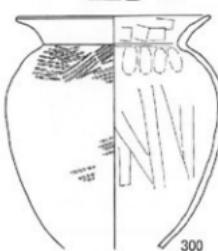
297



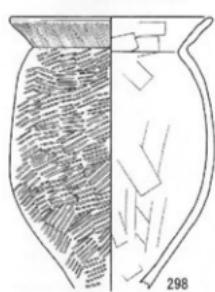
295



299



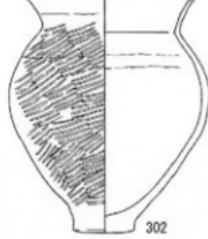
300



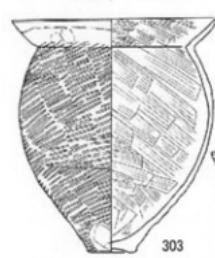
298



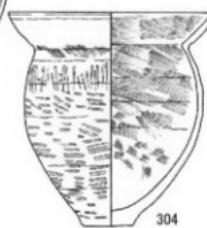
301



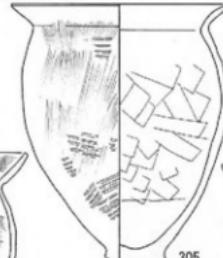
302



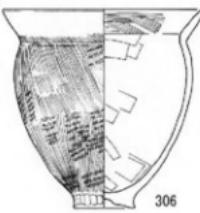
303



304



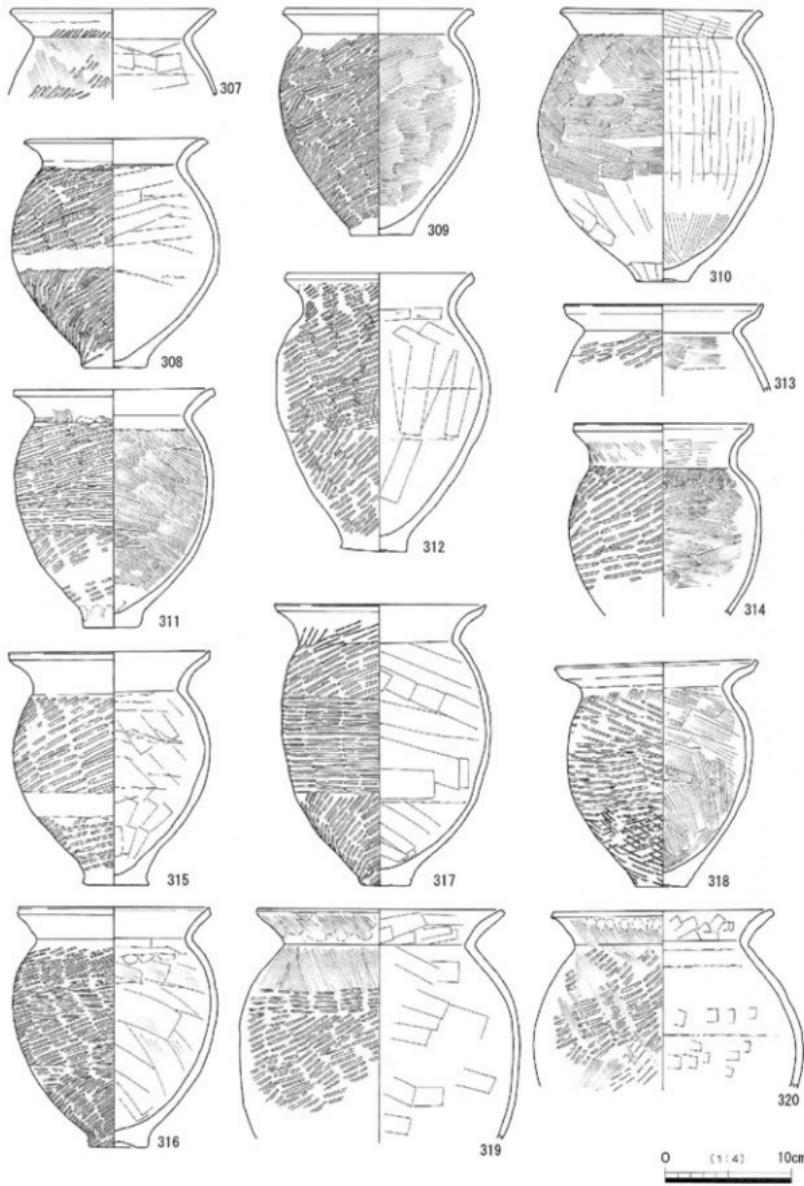
305



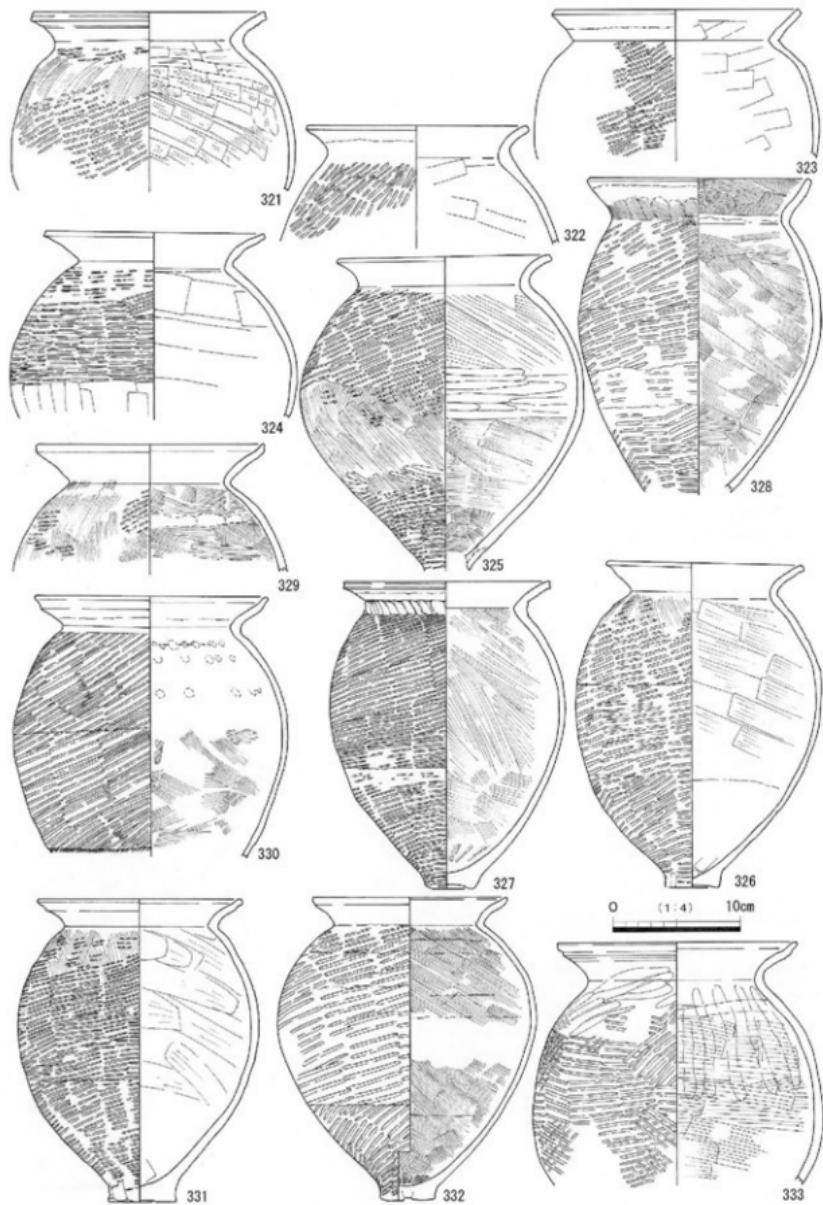
306

O (1:4) 10cm

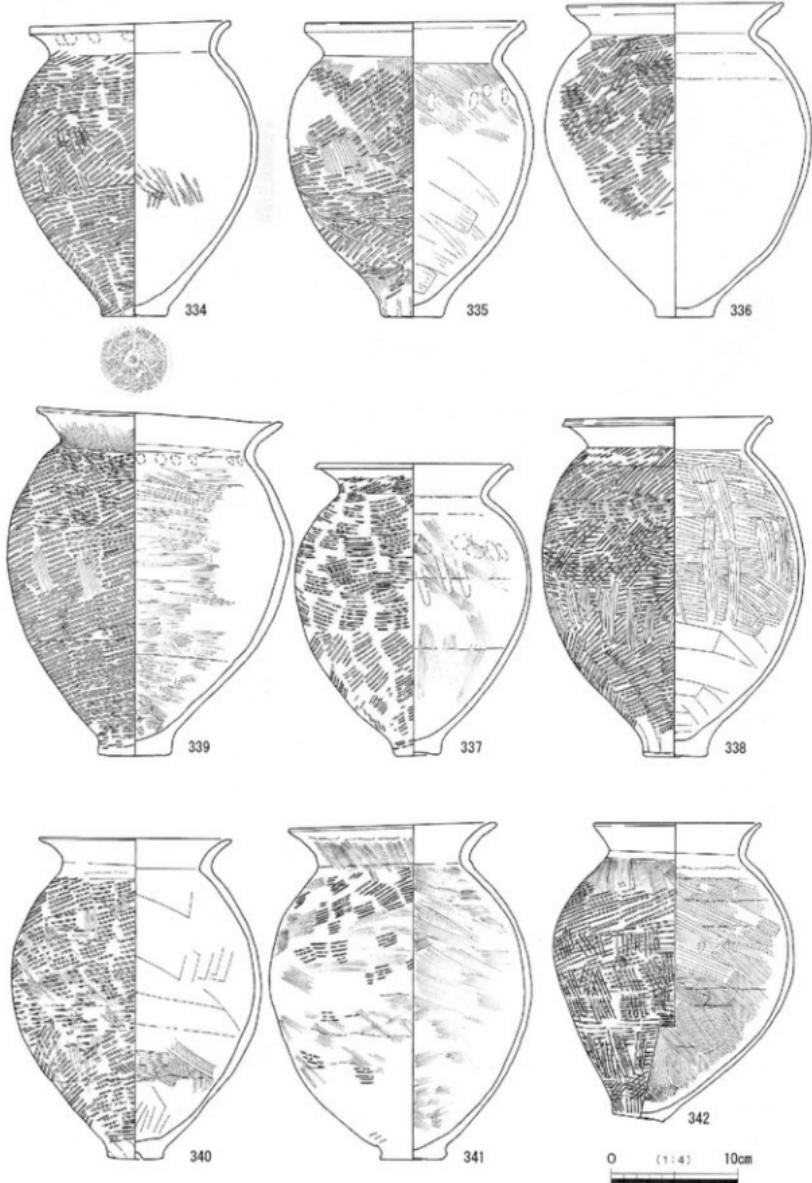
第43図 A区S D301下層出土遺物実測図-12



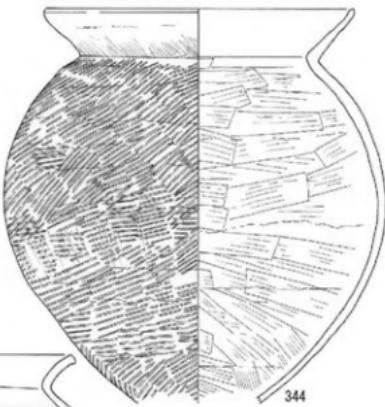
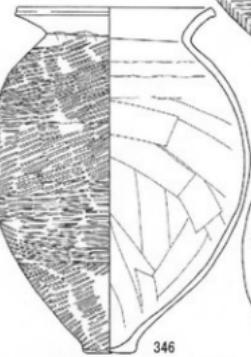
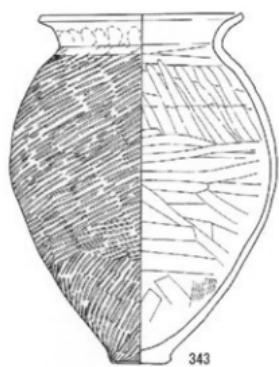
第44図 A区S D301下層出土遺物実測図-13



第45図 A区 S D301下層出土遺物実測図-14



第46図 A区 S D301 下層出土遺物実測図-15



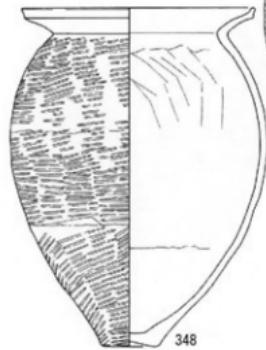
Q3002



345

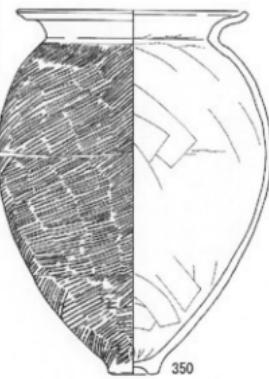


349



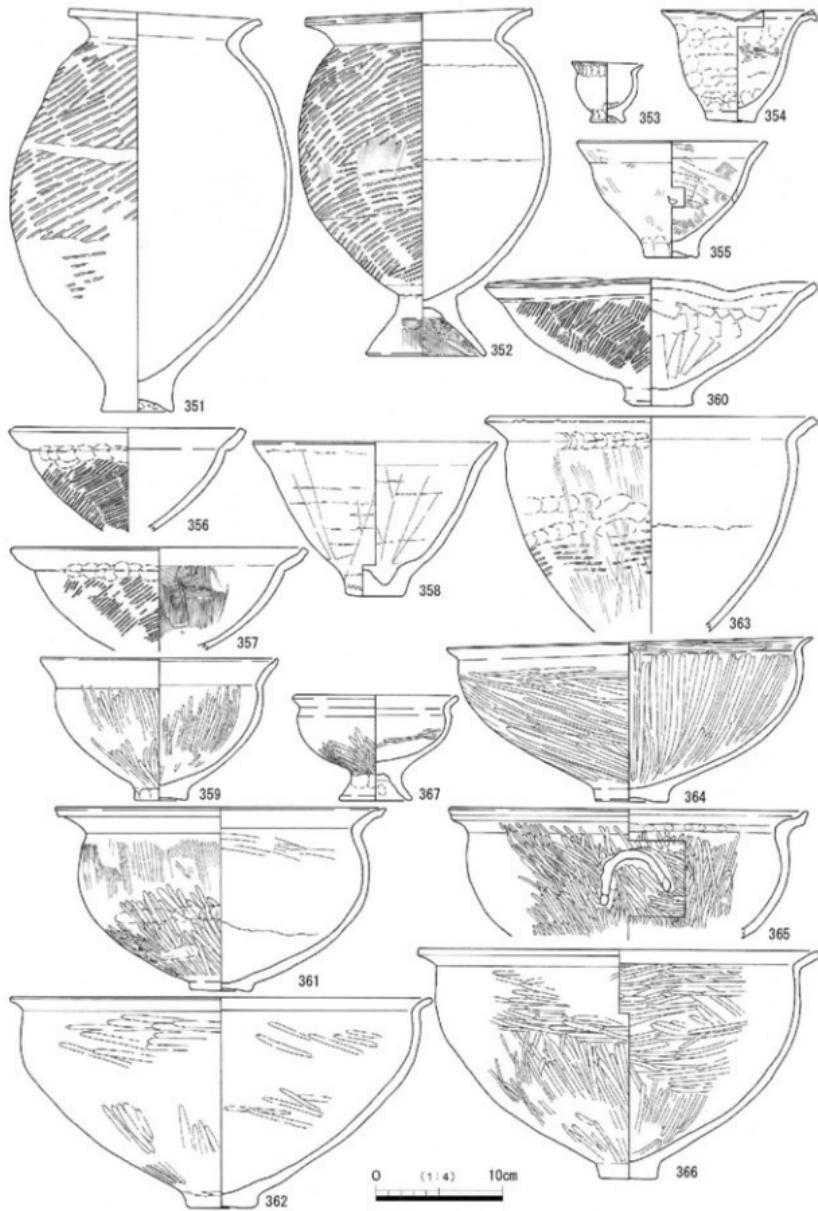
348

0 (1:4) 10cm

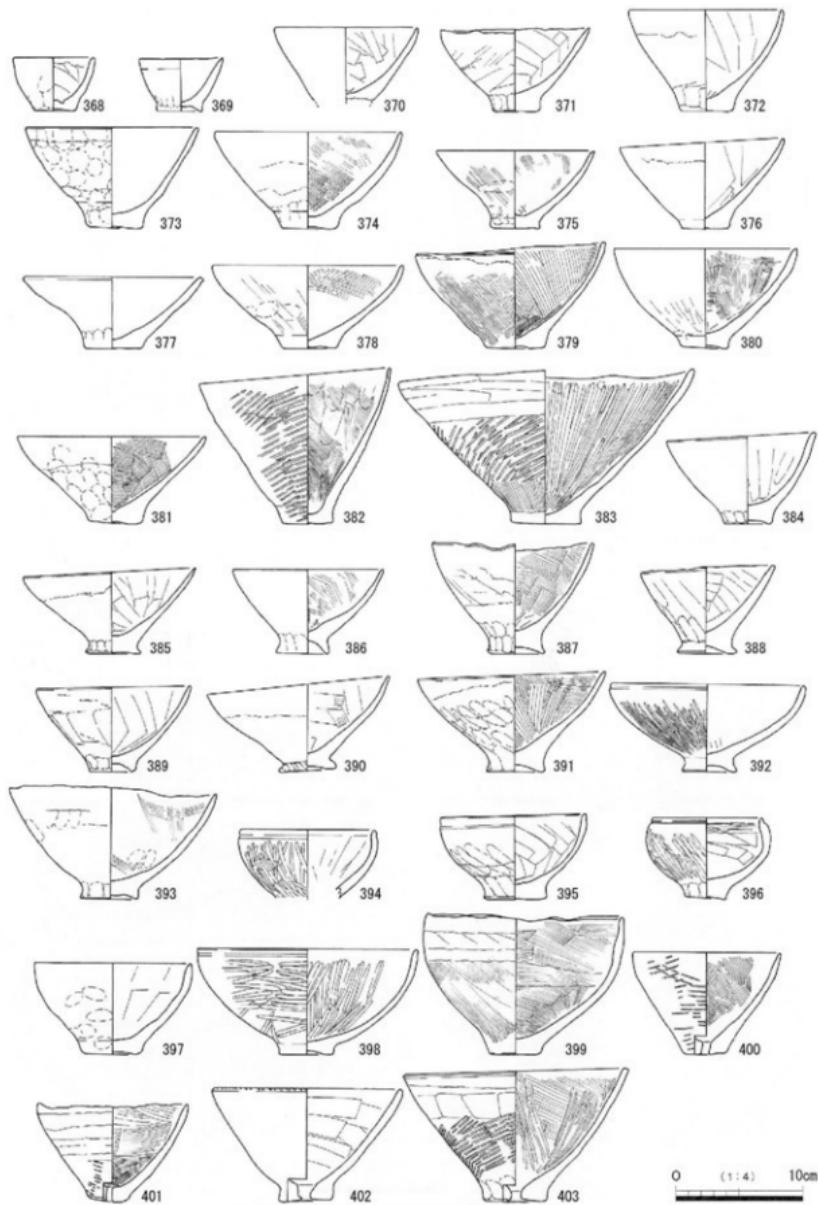


350

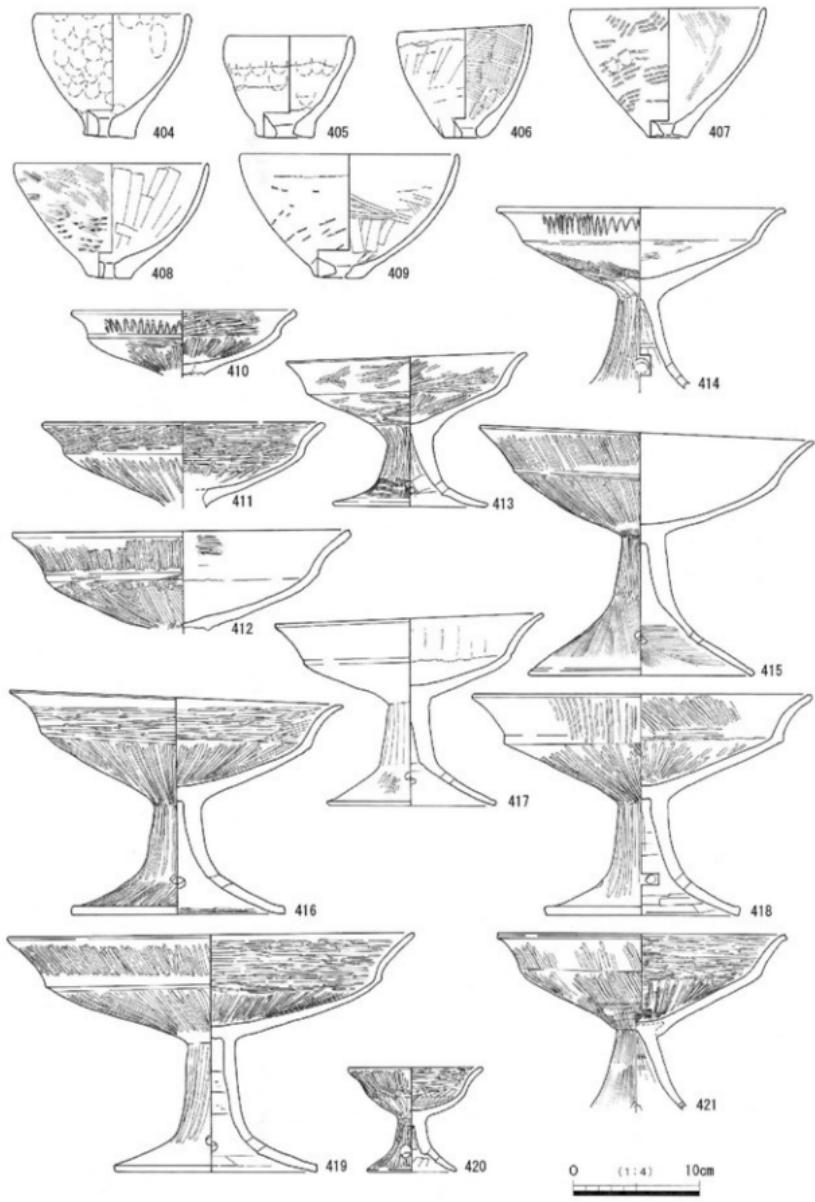
第47図 A区S D301下層出土遺物実測図-16



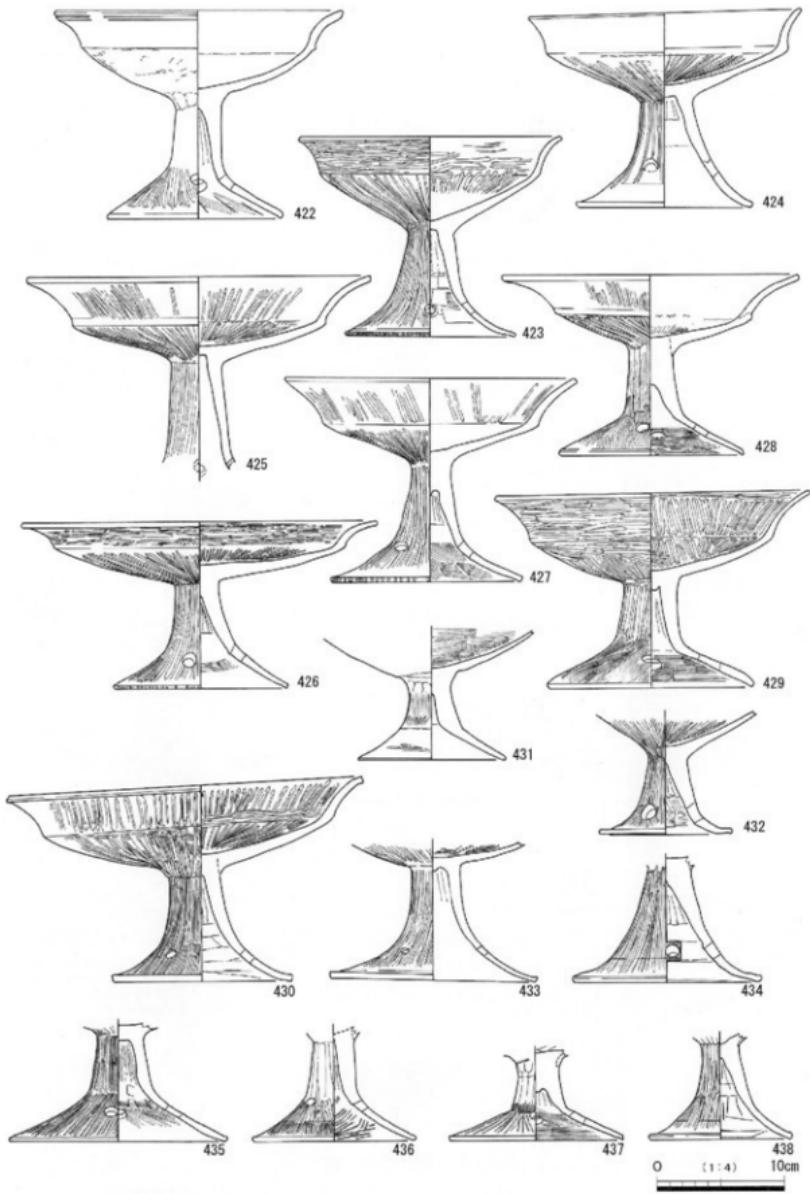
第48図 A区S D301下層出土遺物実測図-17



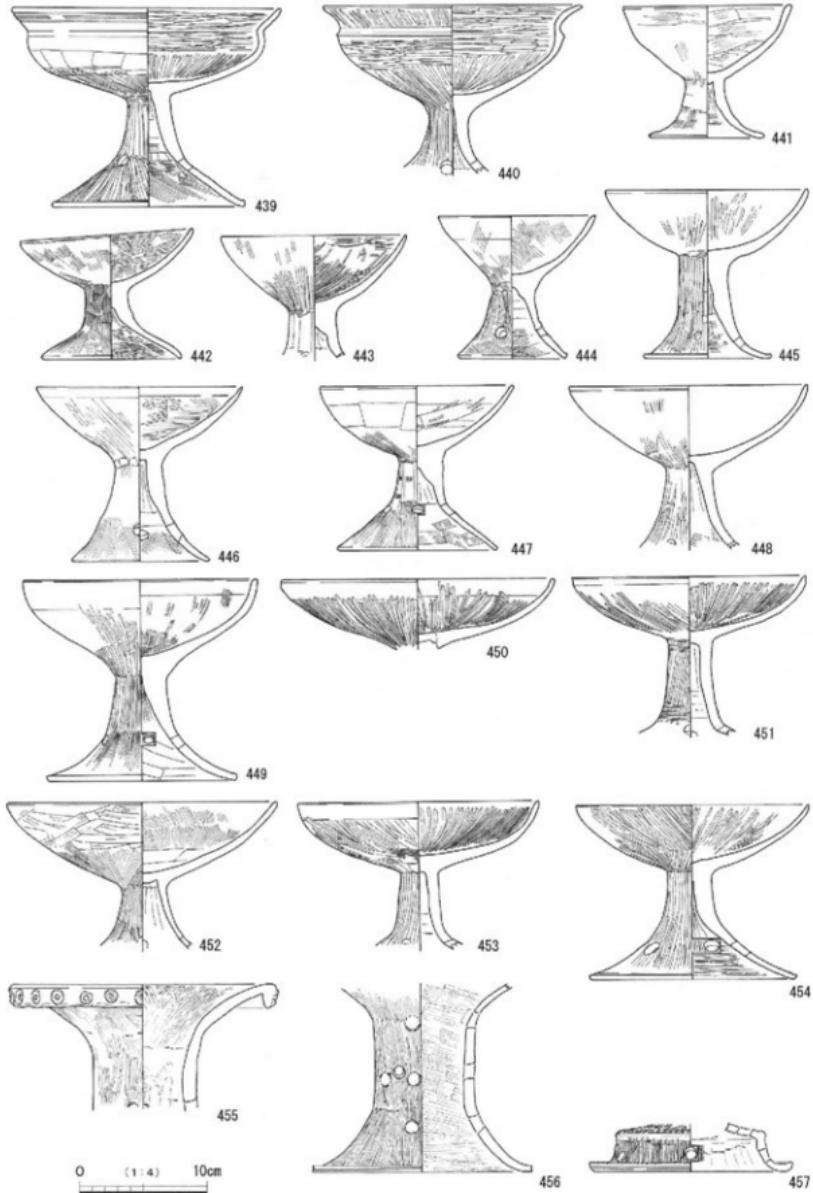
第49図 A区S D301下層出土遺物実測図-18



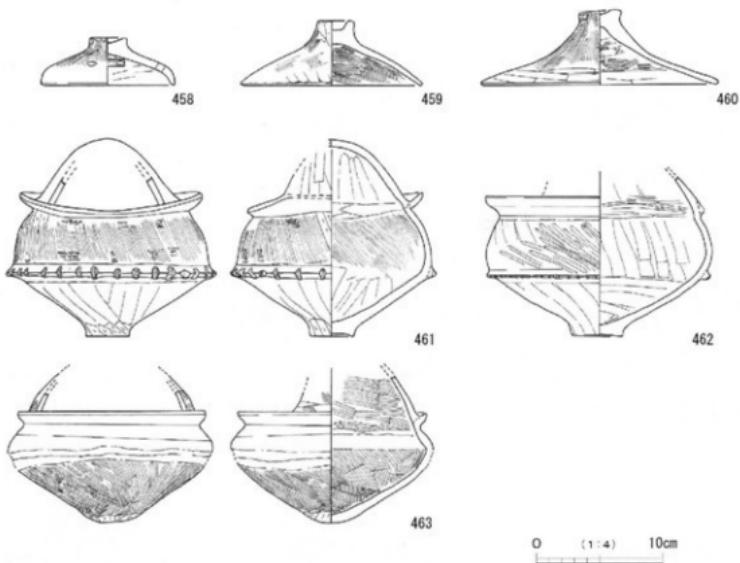
第50図 A区 S D301 下層出土遺物実測図-19



第51図 A区S D301下層出土遺物実測図-20



第52図 A区S D301下層出土遺物実測図-21

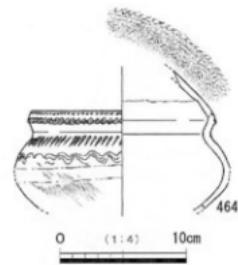


第53図 A区S D 301下層出土遺物実測図-22

464は、B区S D 301から出土した。受口状口縁の鉢の口縁端部に覆部を付ける。覆部の外面には波状文を、体部の外面には刺突文、キザミ目、波状文を施す。体部最大径の位置には突帯が付いていたが、剥がれ落ち欠損している。覆部および体部の内面はナデを施し、覆部には粘土接合の痕跡が確認できる。施文は近江系の影響を受けていると考える。

S D 302

B区の3A地区で検出した。検出長10.55m、最大幅4.0m、深さ0.85mを測る。断面形状は半球形で、埋土はシルト混粘土を主体とする5層が堆積している。遺物は弥生時代中期後半(河内IV-1~2様式)に比定される弥生土器が出土した。16点(465~470・472・473・475~480・482・483)を図化した。465~467は中期後半の壺である。465の体部の最大径は下方にある。口縁部と頸部に簾状文を施す。466は口縁部の端面に簾状文を、頸部の外面に直線文を施す。467は、口縁部の内面に円形浮文を貼り付ける。端面には簾状文とキザミ目を施す。468~470是有段口縁壺で、468・470には簾状文と刺突文を、469には列点文、扇形文、簾状文を施す。472・475・476は甕である。「く」の字に外反する口縁部で、475・476の端部は面を形成する。473は鉢で、口縁部の端面と体部の外面に簾状文を施す。477~479は壺あるいは甕の底部である。477・479は外面に縦方向の、478は横方向のヘラミガキを施す。480は大形の鉢で、口縁端部は面を形成する。口縁部の端面と体部の外面に簾状文と列点文を施す。482は高杯の脚部から裾部である。483は鉢の脚台部で、外面には竹管文を施す。



第54図 B区S D 301出土遺物実測図

S D303

B区の2AB地区で検出した。南北方向に伸びるもので、北端は調査区外に至る。検出長3.74m、幅0.79m、深さ0.18mを測る。埋土は上から灰色細砂混粘土、灰色シルト混粘質土で、弥生時代中期後半(河内IV-1~2様式)に比定される弥生土器が出土した。3点(471・474・484)を図化した。471は盤で、口縁部はゆるやかに外反する。474は鉢で、口縁部の端面と体部の外面に簾状文を施す。484は鉢の脚台部で、外面に竹管文を施す。

S D304

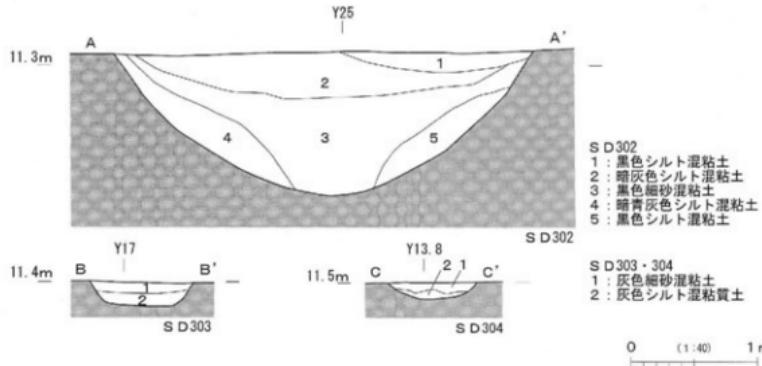
B区の2A地区で検出した。北西~南東に伸びる溝である。全長4.08m、幅0.8m、深さ0.14mを測る。埋土は上から灰色細砂混粘土、灰色シルト混粘質土で、弥生時代中期後半(河内IV-1~2様式)に比定される弥生土器が出土した。1点(481)を図化した。481は大形の鉢で、口縁端部は面を形成する。口縁部の端面と体部の外面に簾状文と列点文を施す。

小穴(S P)

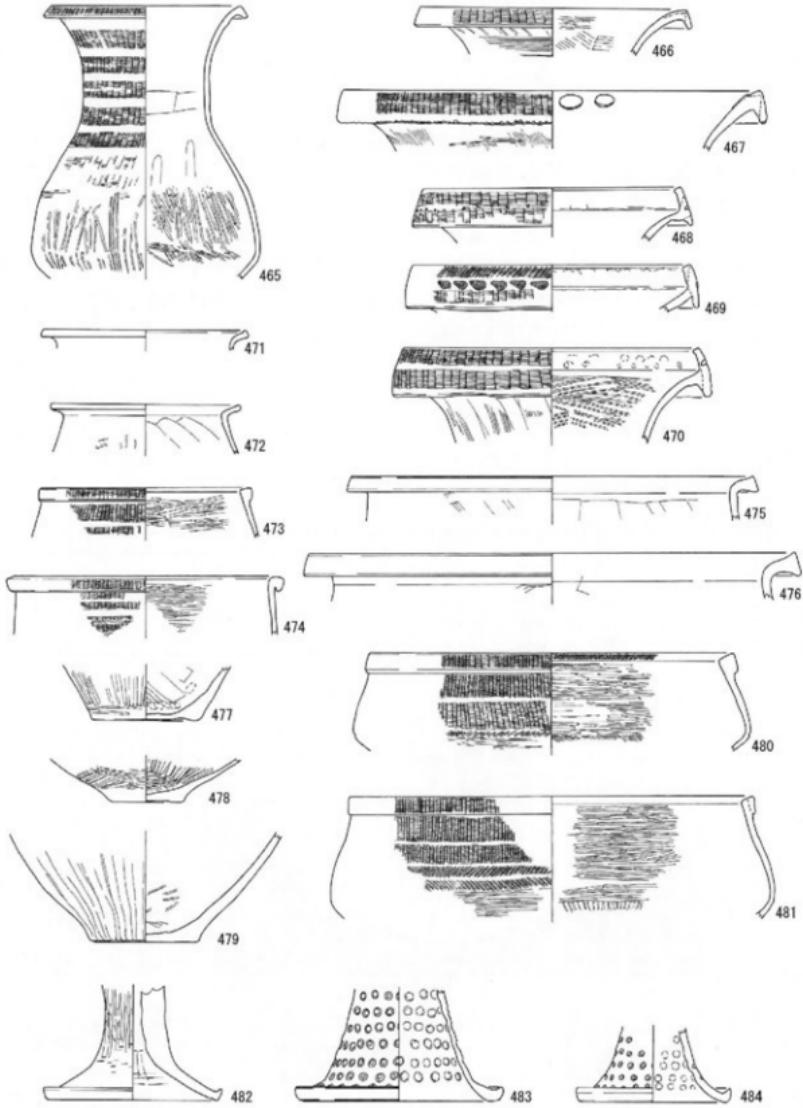
総数で5個(S P301~305)を検出した。その内訳はB区で4個(S P301~304)、C区で1個(S P305)である。B区については、調査区北西部で4個が密集した形で検出されている。

第4表 第3面 小穴法量表(m)

造構名	地区	平面形状	長径	短径	深さ	埋土	出土遺物
S P301	4 A B	円形	0.43	0.40	0.16	灰茶色細砂混粘土	なし
S P302	4 B	〃	0.48	0.44	0.15	〃	〃
S P303	〃	〃	0.39	0.36	0.21	〃	〃
S P304	〃	〃	0.37	0.31	0.18	〃	〃
S P305	1 G	横円形	0.54	0.39	0.10	茶灰色シルト	〃



第55図 B区 S D302~304断面図



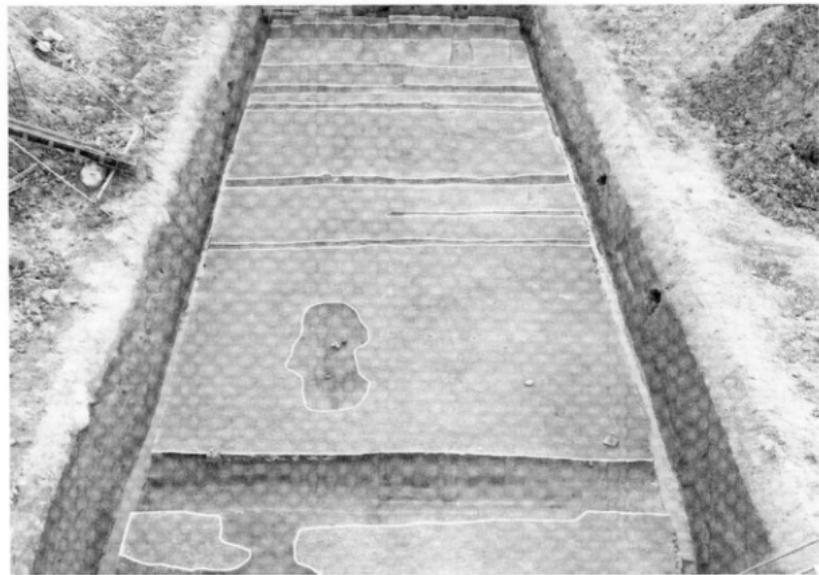
S D 302 : 465~470 · 472 · 473 · 475~480 · 482 · 483
 S D 303 : 471 · 474 · 484
 S D 304 : 481

O (1:4) 10cm

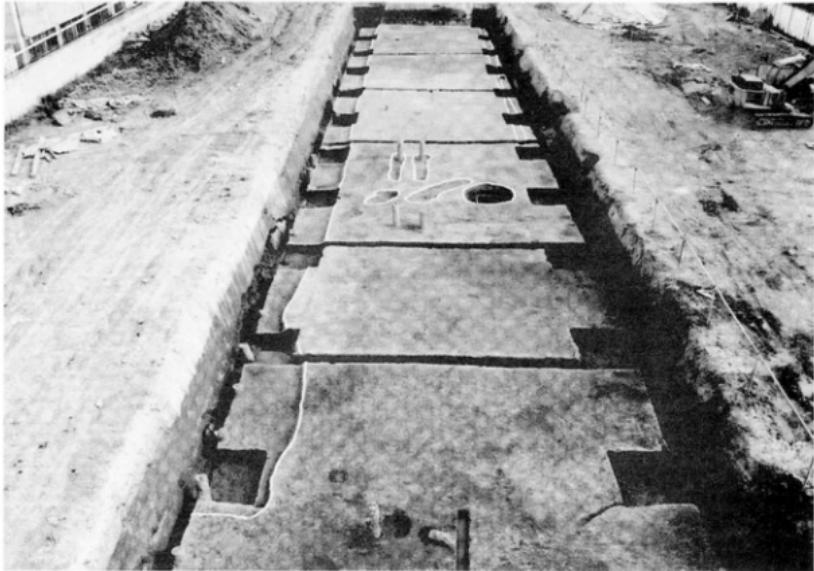
第 56 図 S D 302~304 出土遺物実測図



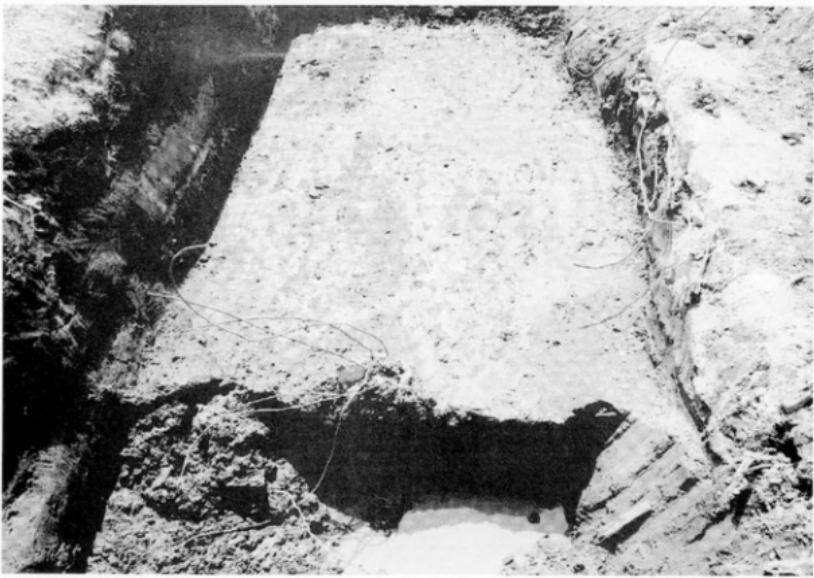
A区 第1面全景(北から)



B区 第1面全景(東から)



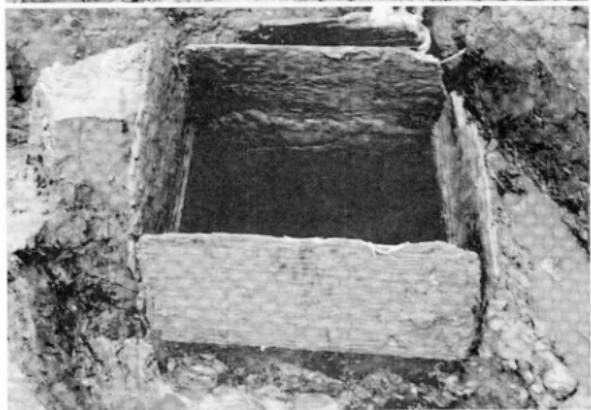
C区 第1・3面全景(北から)



D区 第1面全景(北から)



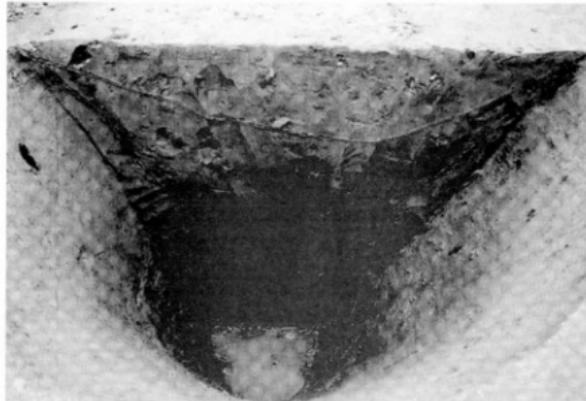
B区 第1面 S E101
井戸枠内断面(南から)



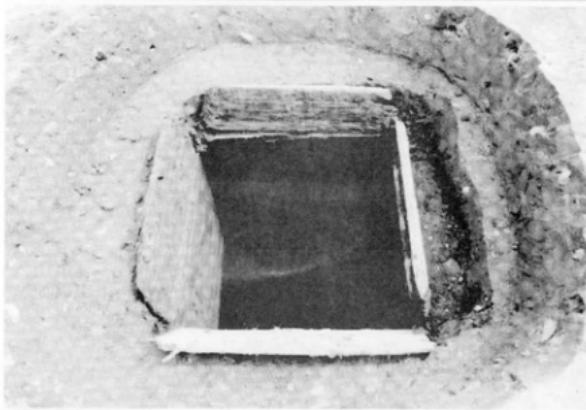
B区 第1面
S E101(南から)



B区 第1面 S E101
井戸枠内部(南から)



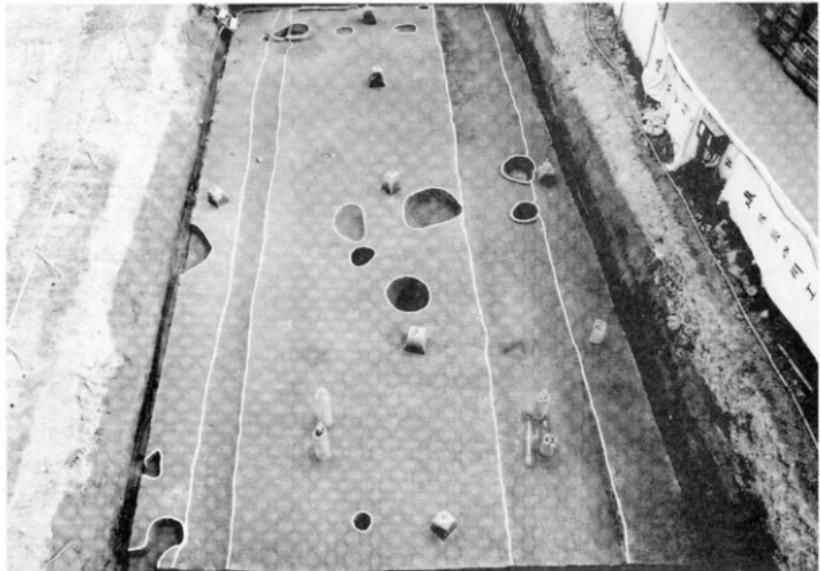
B区 第1面S E102
断面(南から)



C区 第1面S E103
(北から)



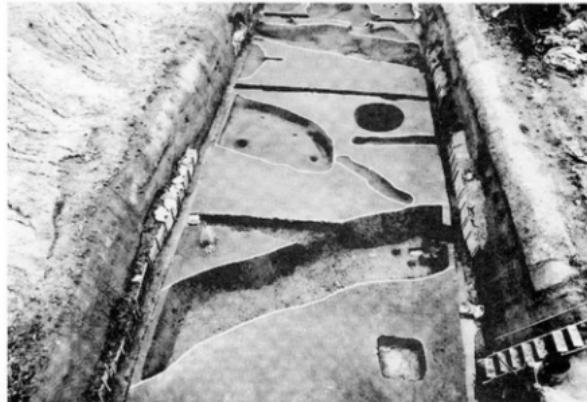
C区 第1面S E103
井戸枠検出状況(南から)



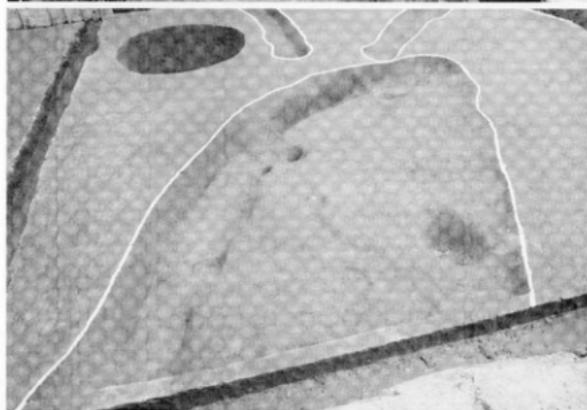
A区 第2面全景(北から)



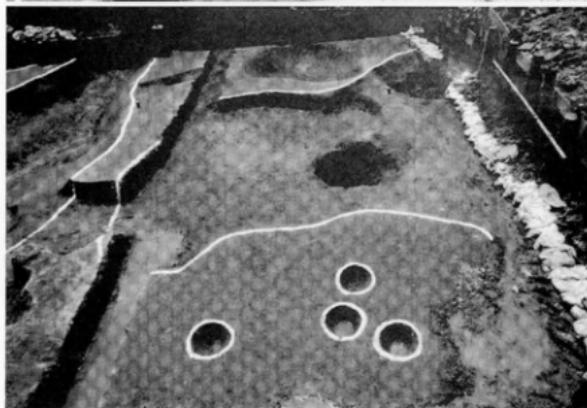
A区 第3面全景(北から)



B区 第3面全景
(東から)



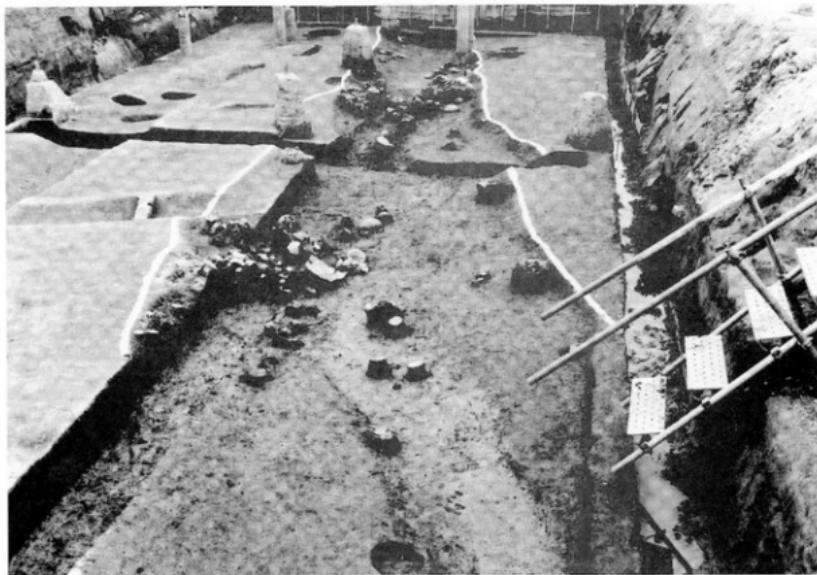
B区 第3面SK 303
(南から)



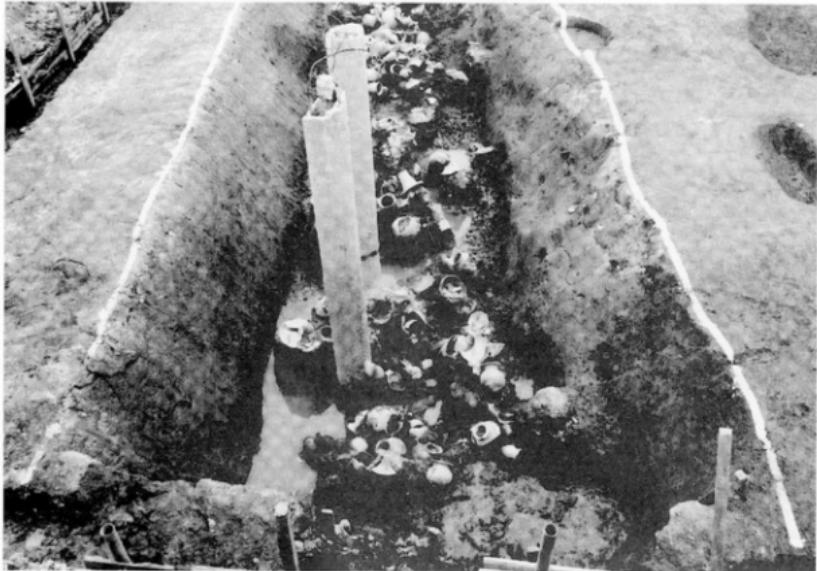
B区 第3面SP 301~304・
SK 301(北から)



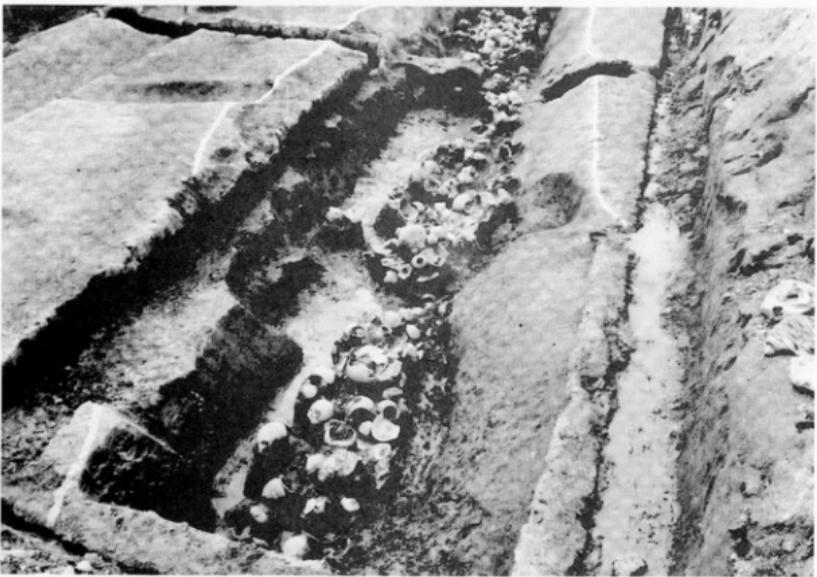
A区 第3面S D301上層遺物出土状況(北から)



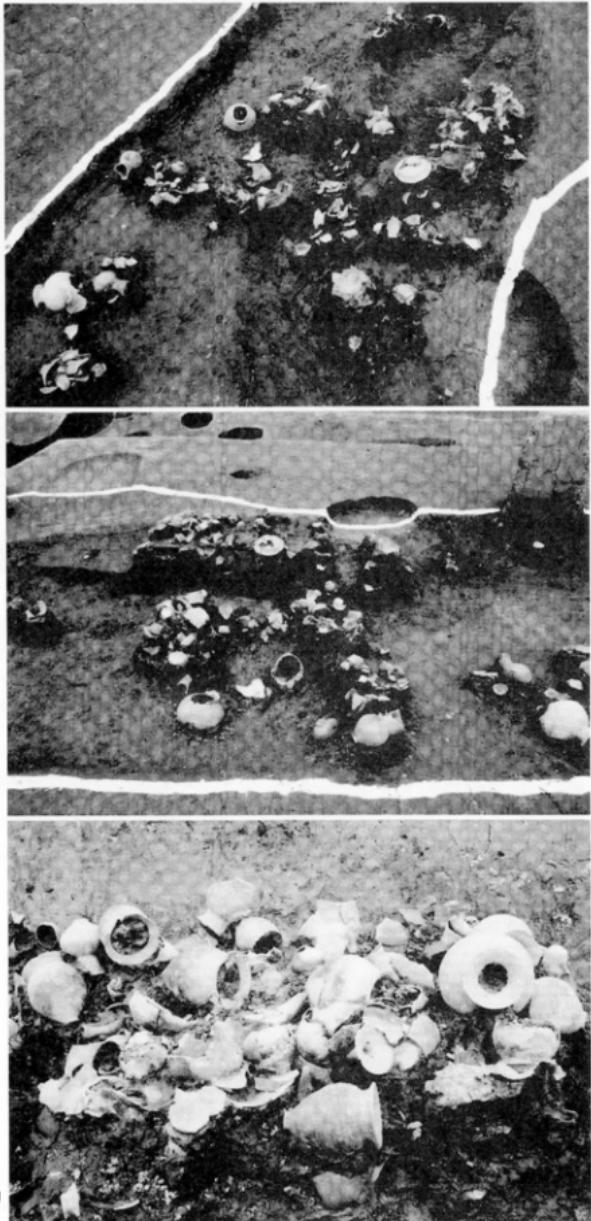
A区 第3面S D301上層遺物出土状況(南から)



A区 第3面 S D301北部下層遺物出土状況(北から)



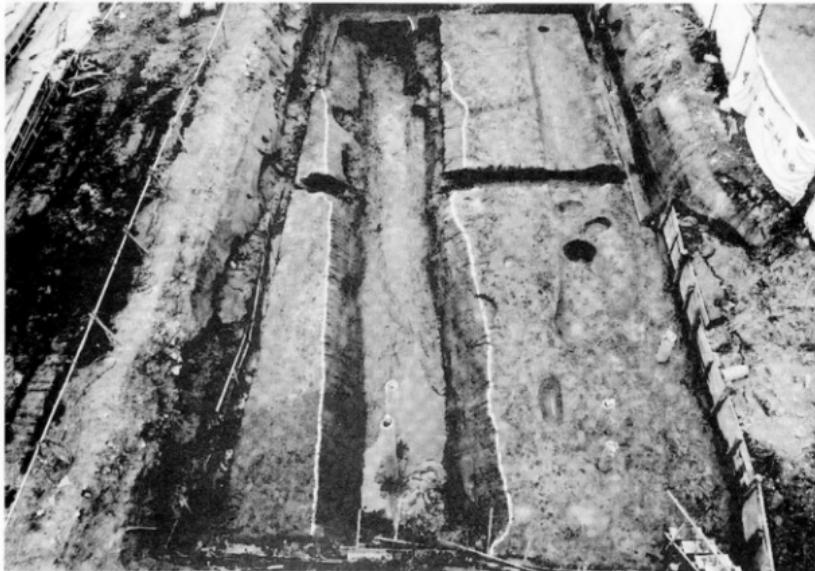
A区 第3面 S D301南部下層遺物出土状況(南から)



A区 第3面S D301上層
(X45~42ライン付近)遺物
出土状況(北から)

A区 第3面S D301上層
(X45~42ライン付近)遺物
出土状況(東から)

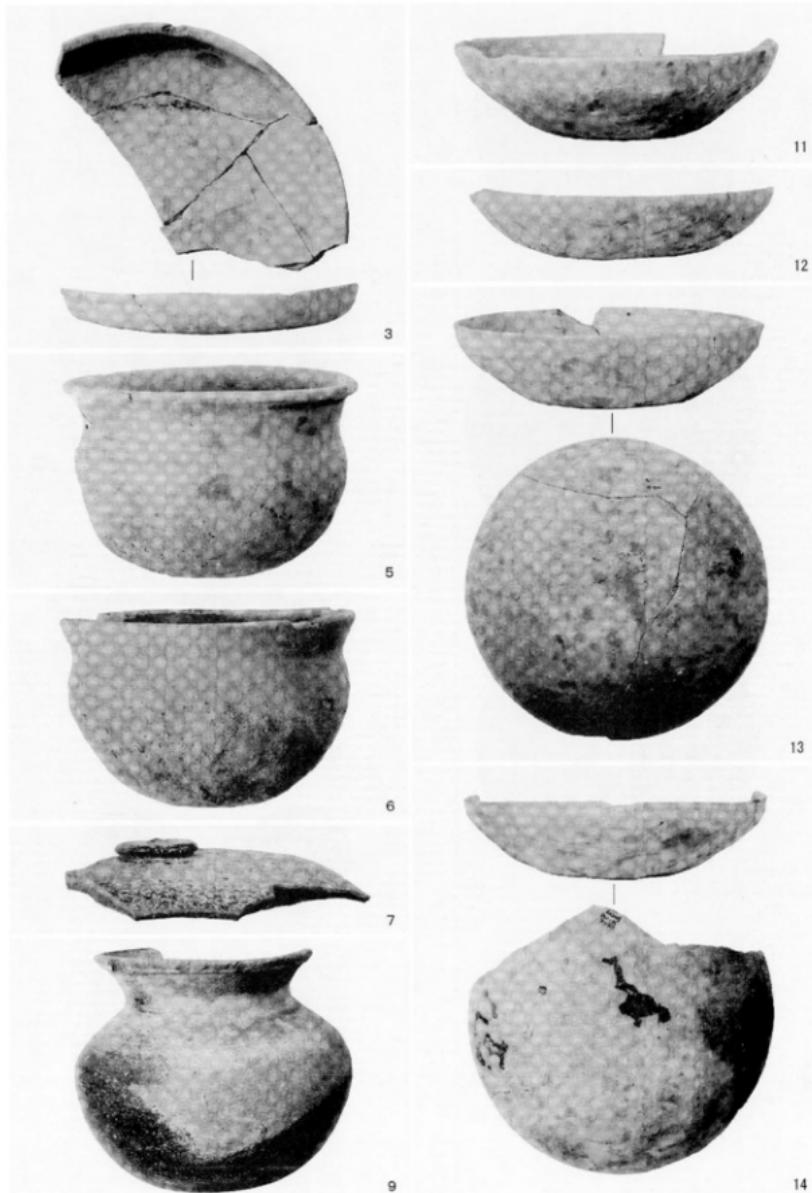
A区 第3面S D301下層
(X43・42ライン付近)遺物
出土状況(西から)



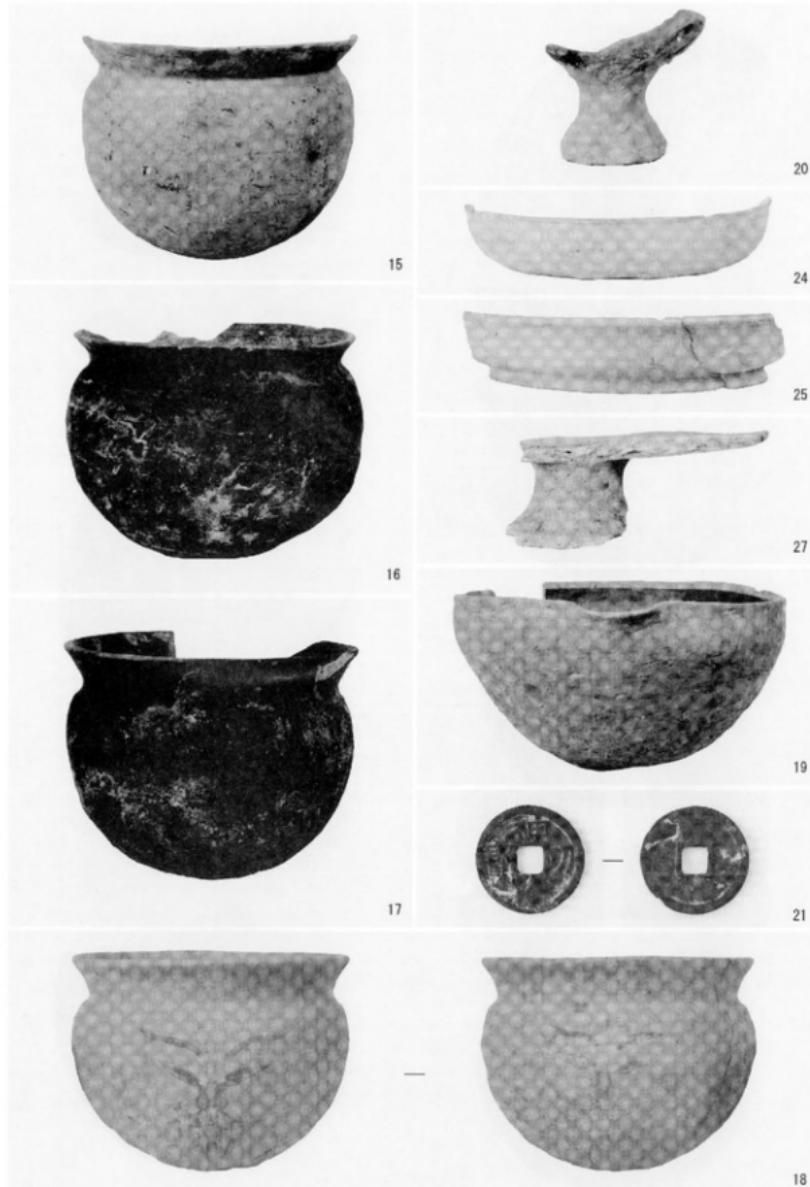
A区 第3面S D301完掘状況(北から)



B区 第3面S D301(南から)



S E101(3・5・6・7)、S E102(9)、S E103(11・12・13・14)出土遺物



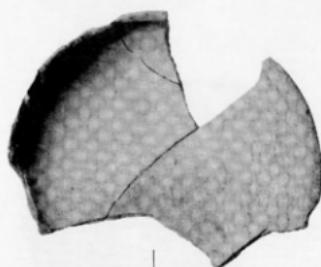
S E103(15~21)、S K102(24・25・27)出土遺物



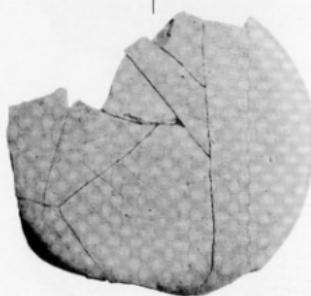
28



29



30



31



32



33



34



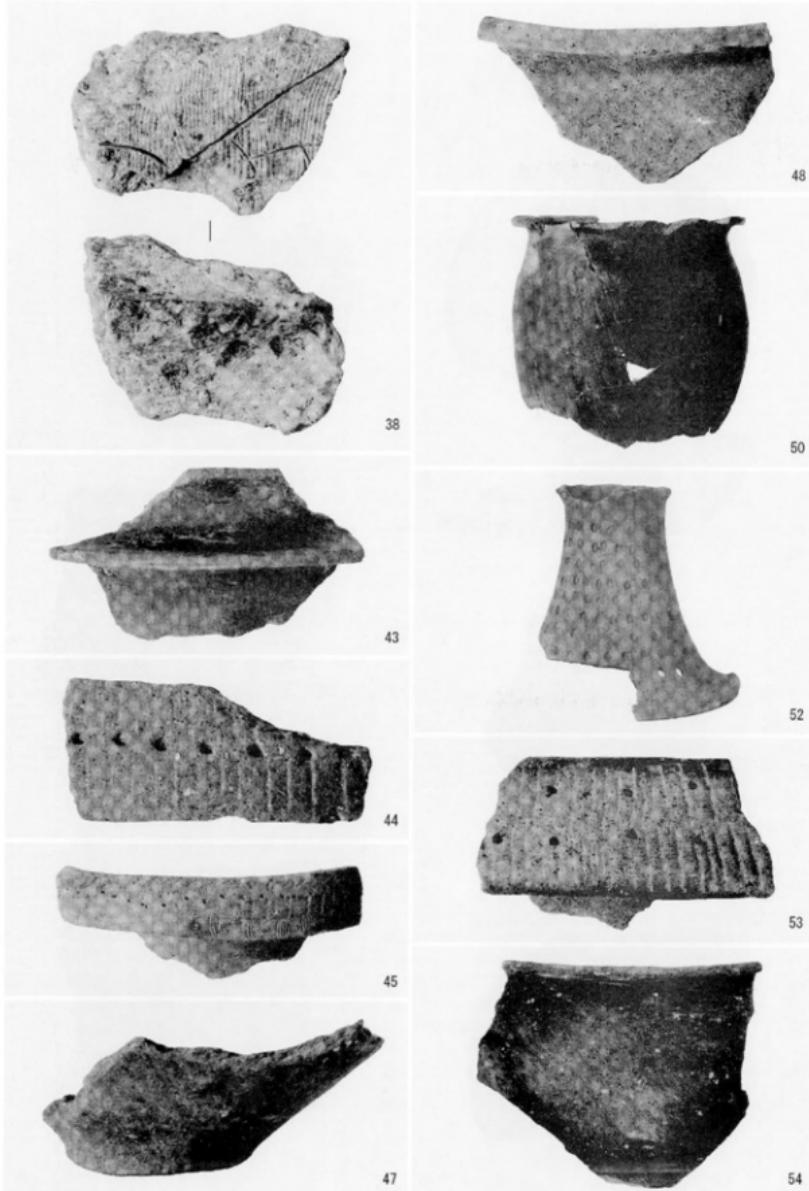
35



36

S K102(28)、S K103(31・33)、S D104(34・35)、S D117(36・37)出土遺物

図版
14



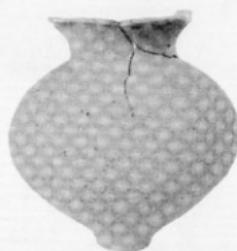
S D 103(38)、S D 129(43)、S K 301(44・45・47・48・50・52)、S K 303(53・54)出土遺物



57



63



59



65



60



66



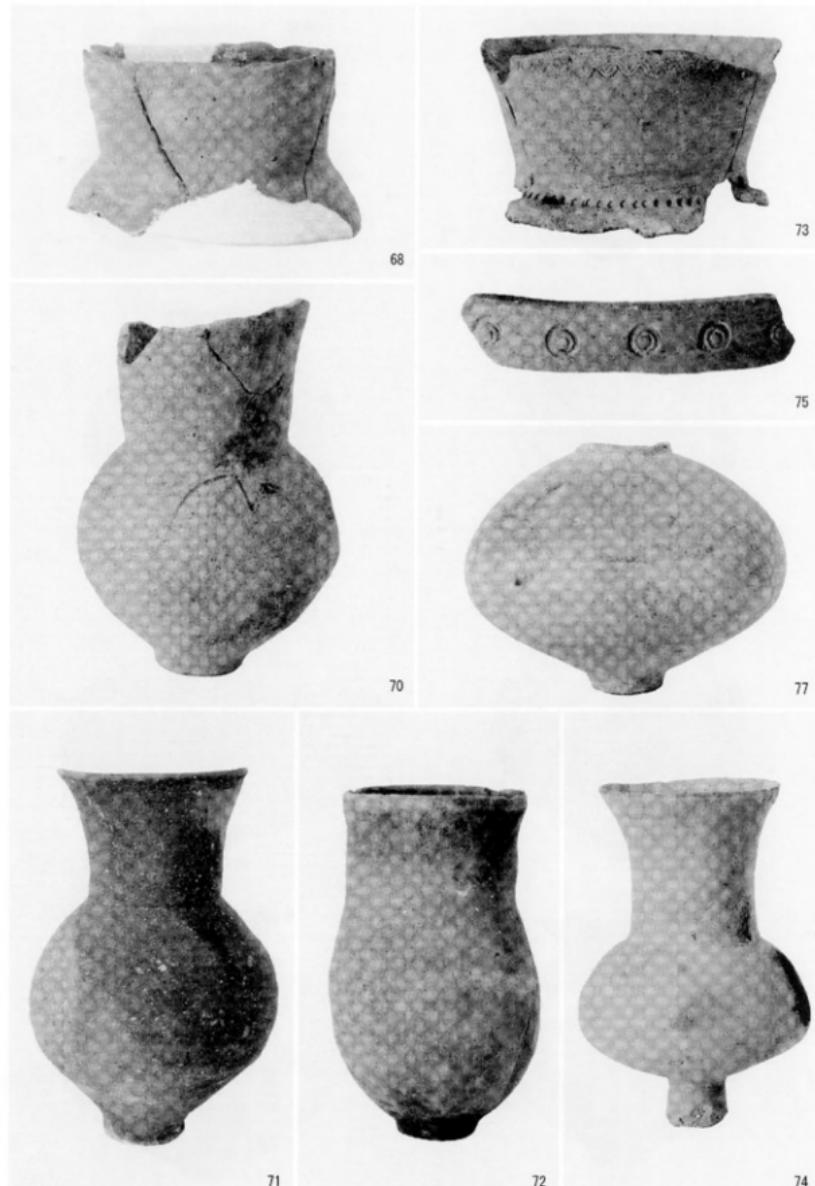
61



67

A区 SD301上層出土遺物

図版
16



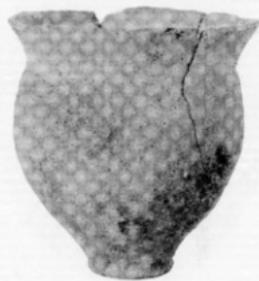
A区 SD 301上層出土遺物



79



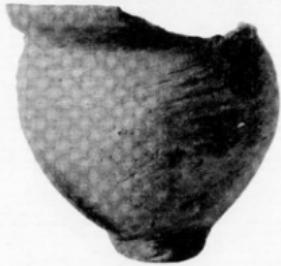
82



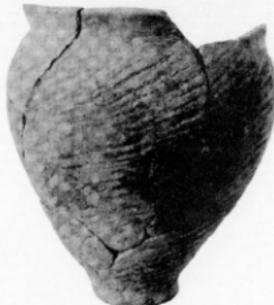
80



83

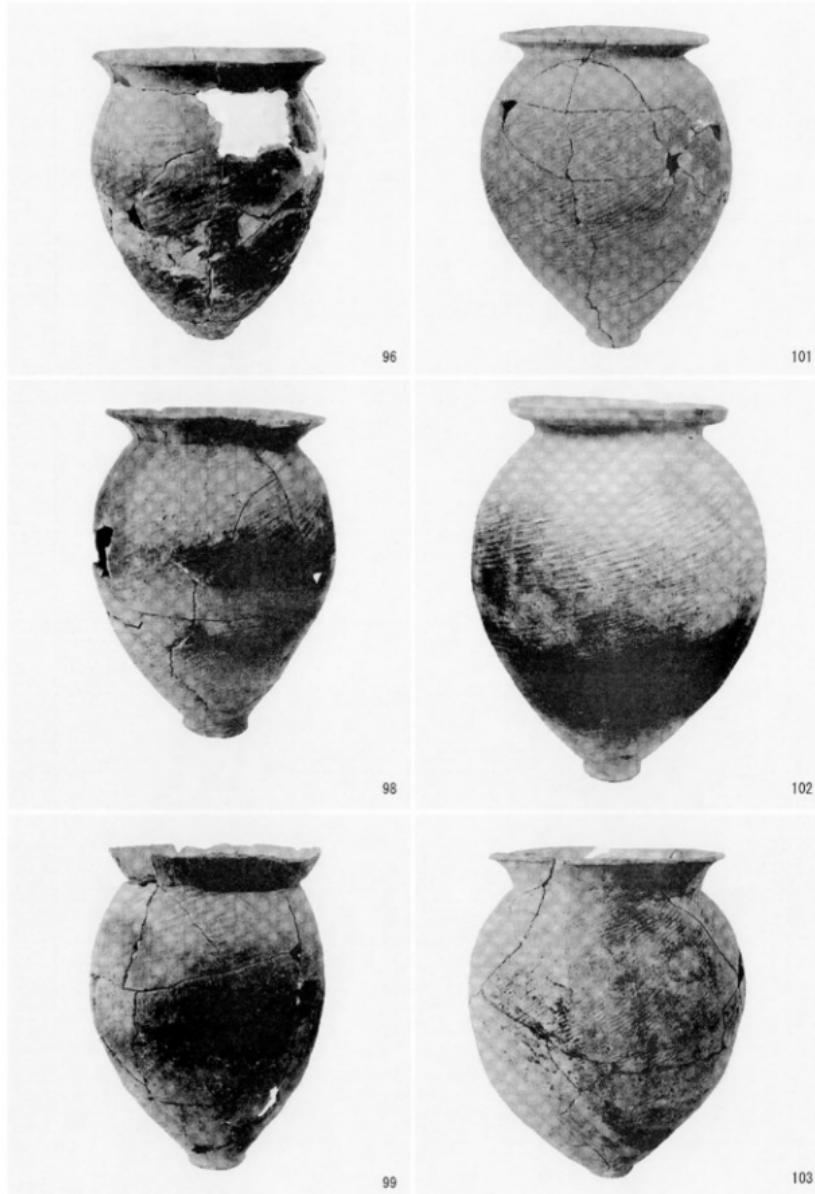


81



84

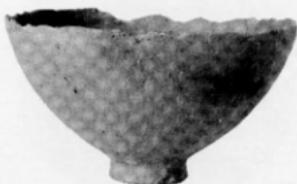
A区 SD301上層出土遺物



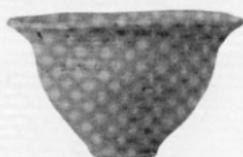
A区 S D301上層出土遺物



104



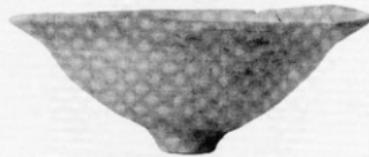
108



105



110



106



112

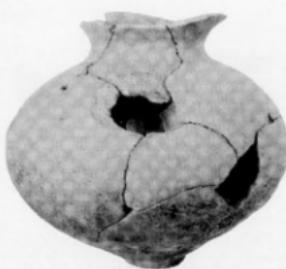


107

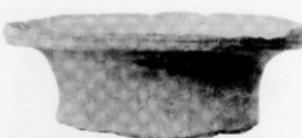


113

A区 S D301上層出土遺物



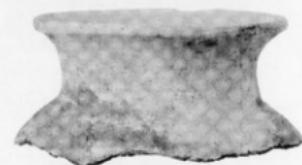
120



126



121



127



128



122



130



125



131



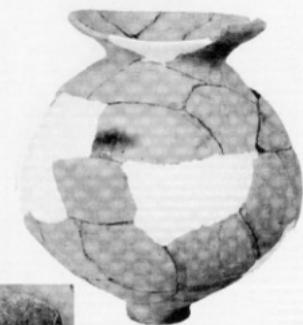
132



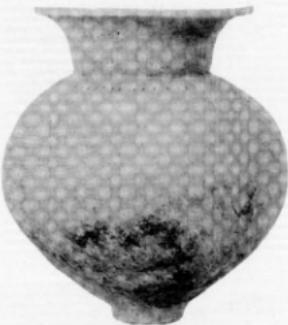
136



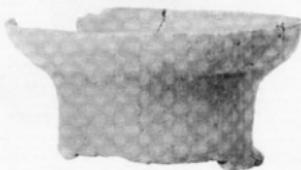
133



137



134

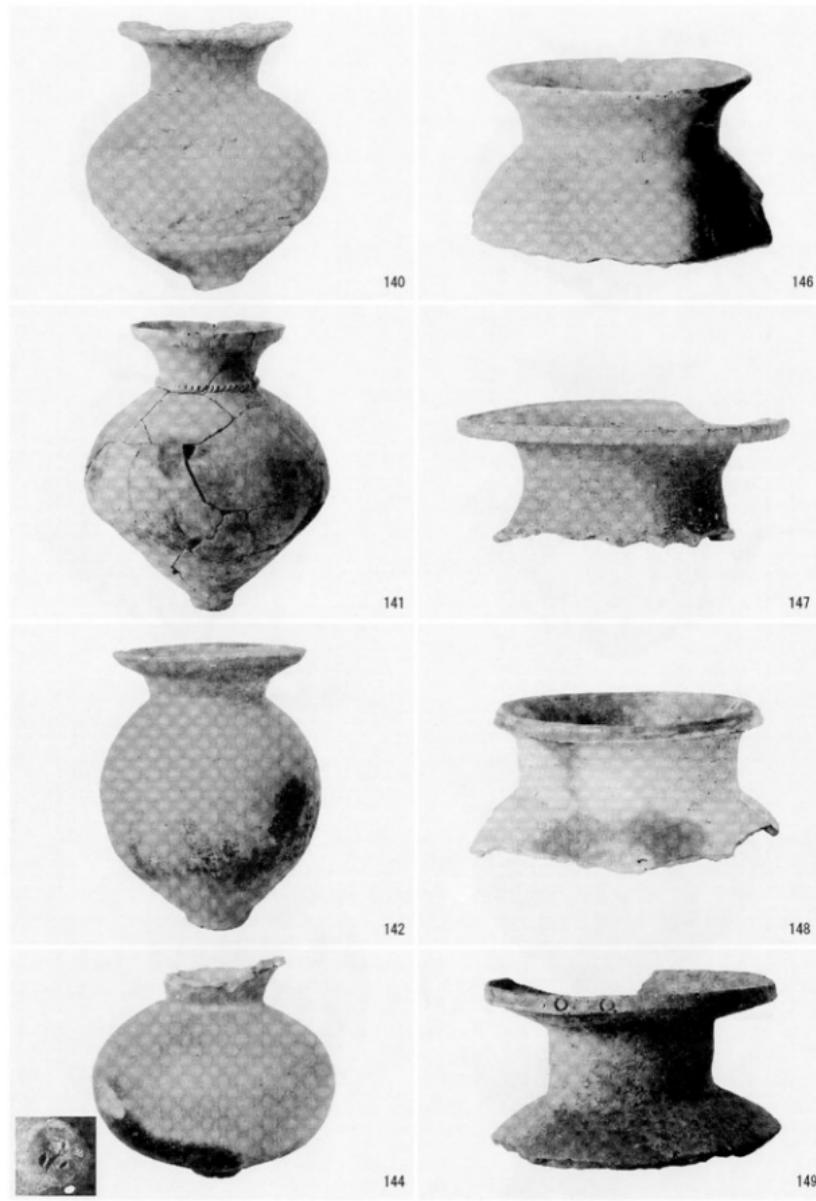


138



139

A区 SD301下層出土遺物



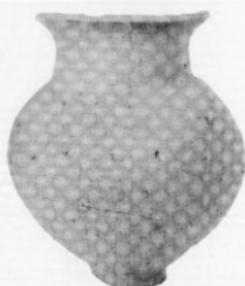
A区 SD301下層出土遺物



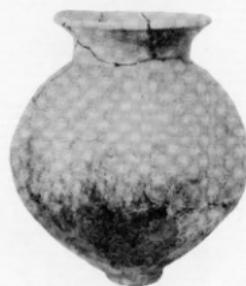
152



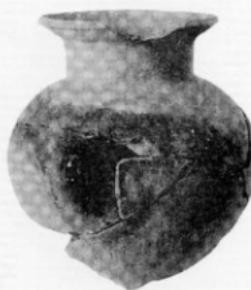
156



153



157



154



158



155



159

A区 SD301下層出土遺物



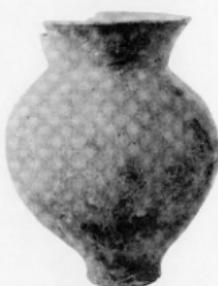
161



168



162



171



163



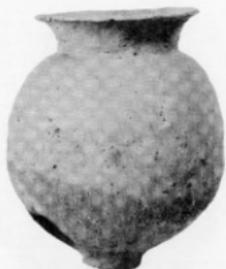
173



166



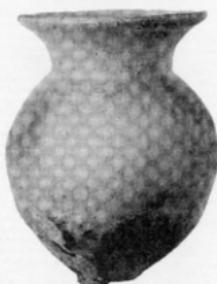
175



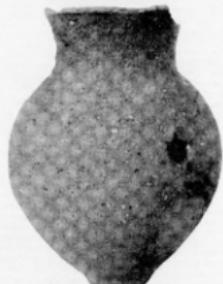
176



185



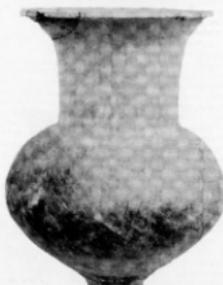
177



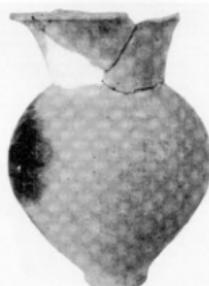
186



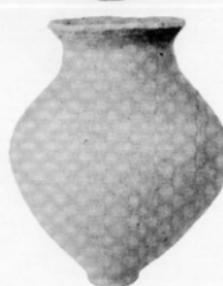
180



187

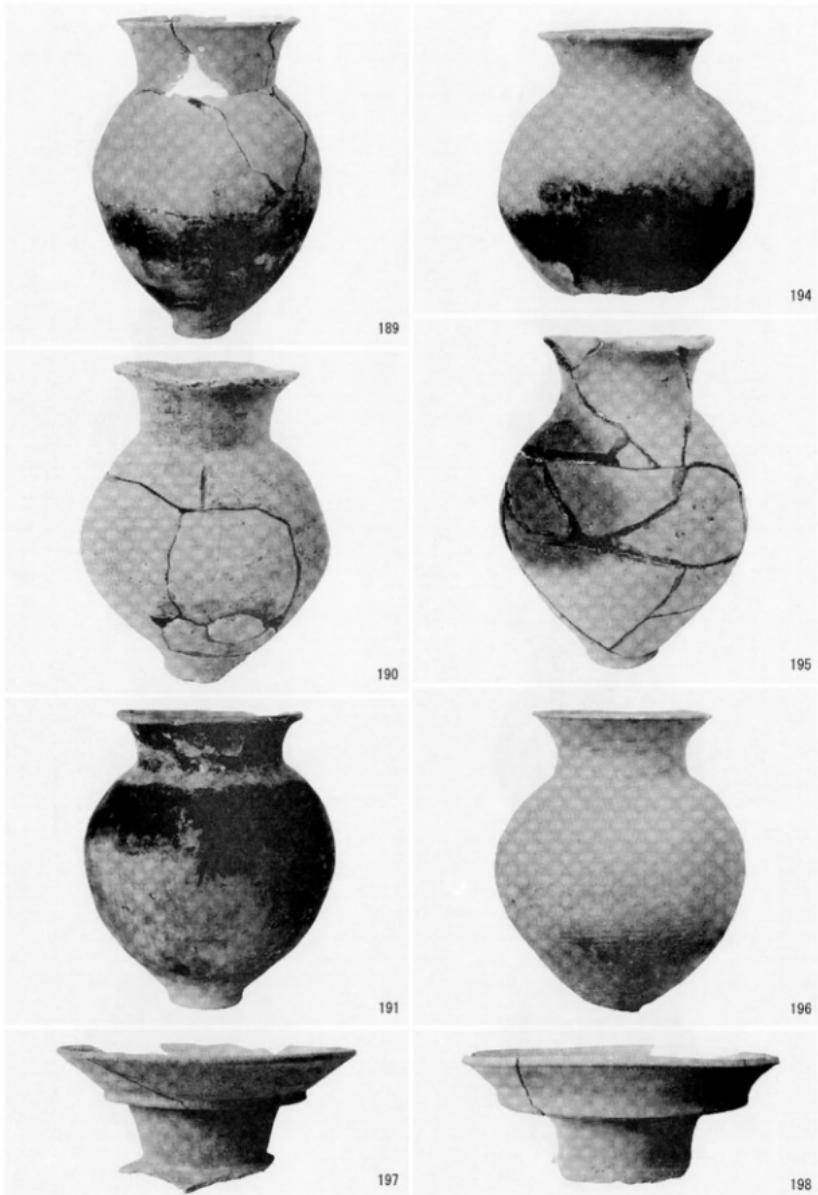


184

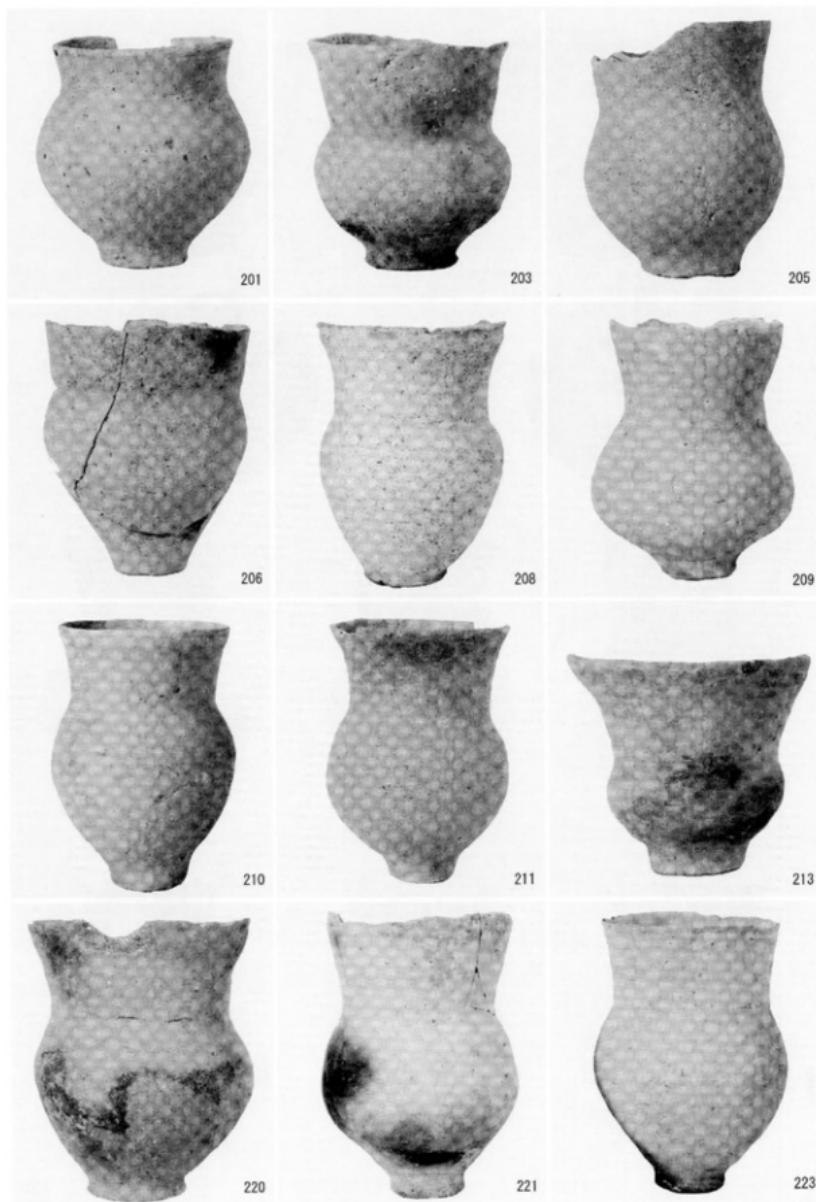


188

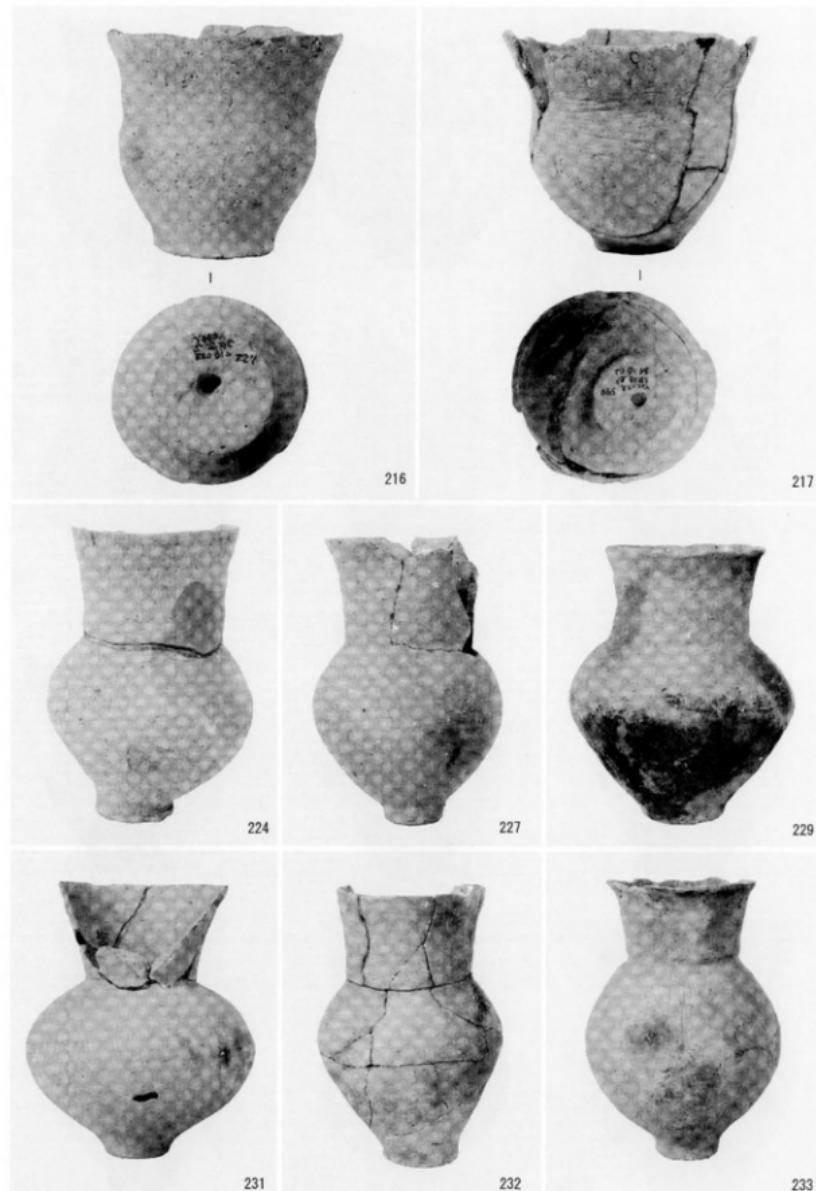
A区 SD301下層出土遺物



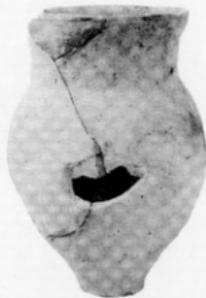
A区 S D301下層出土遺物



A区 S D301下層出土遺物



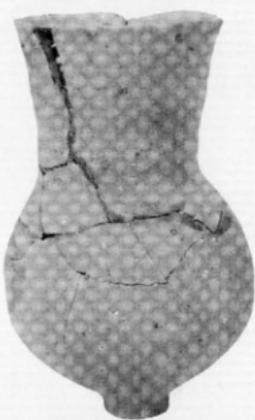
A区 SD301下層出土遺物



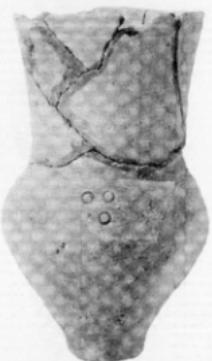
234



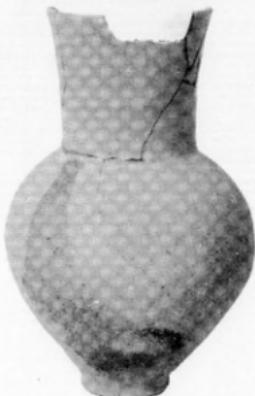
243



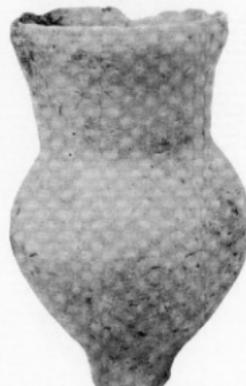
241



245



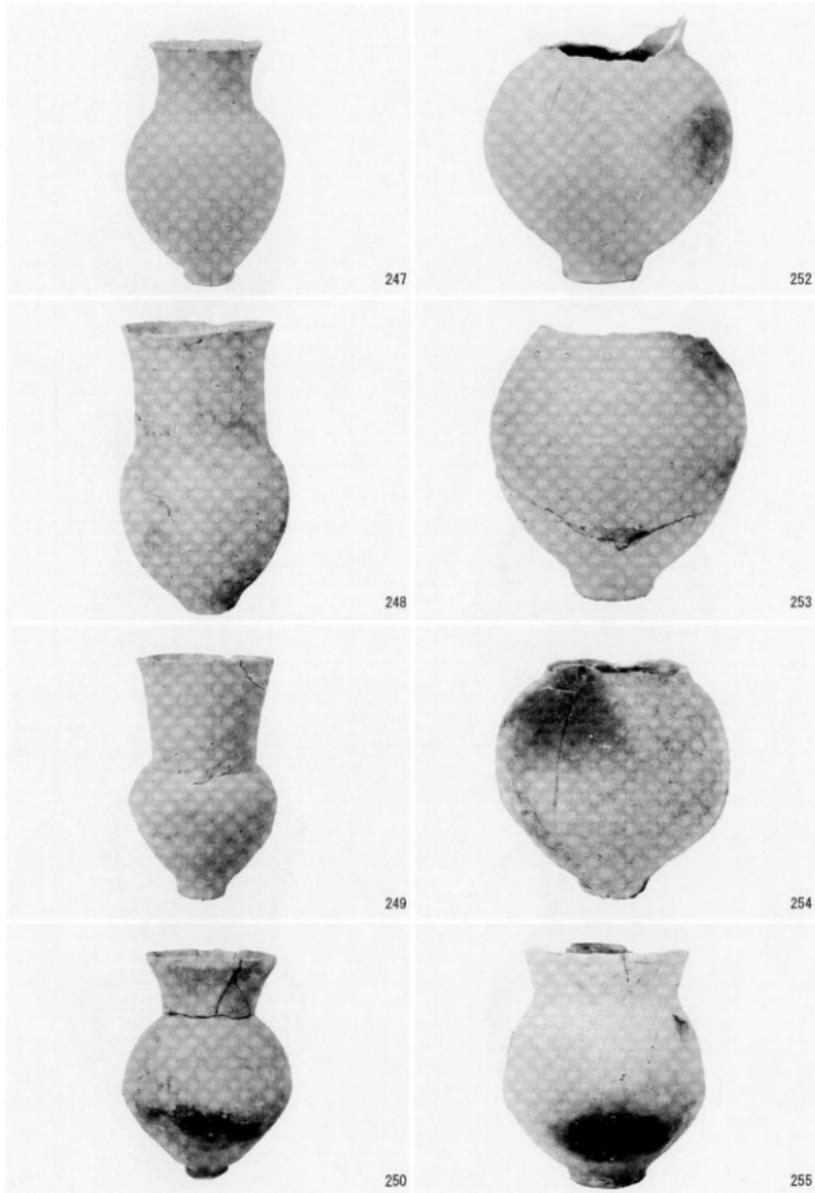
242



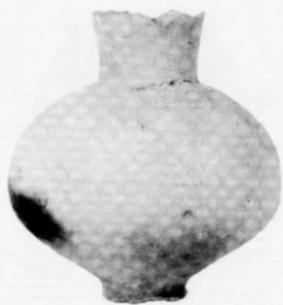
246

A区 SD301下層出土遺物

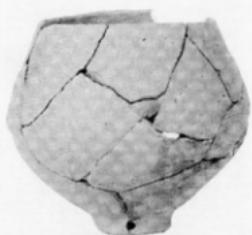
図版
30



A区 S D301下層出土遺物



258



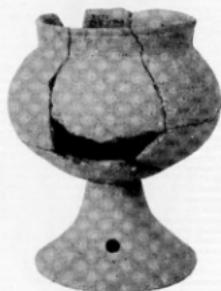
263



259



266



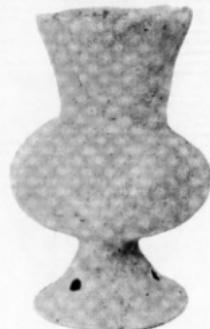
268



261

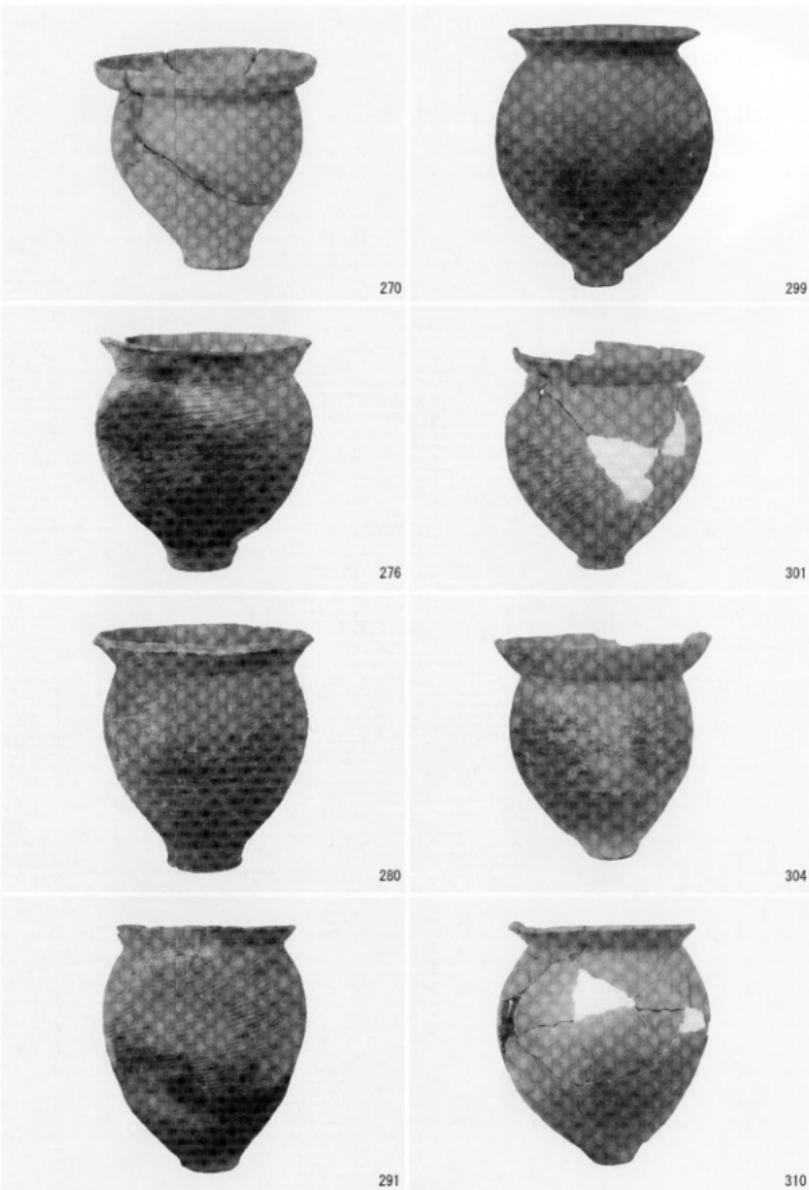


262

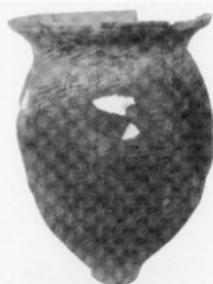


269

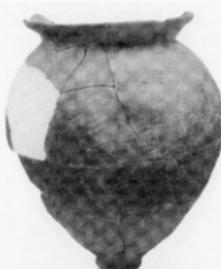
A区 S D301下層出土遺物



A区 S D301下層出土遺物



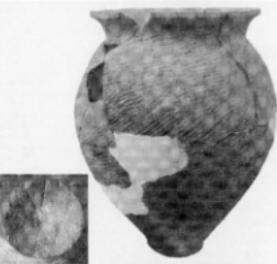
317



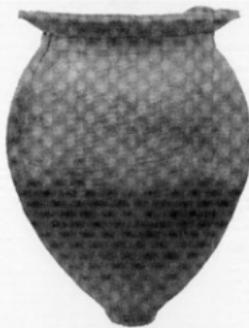
332



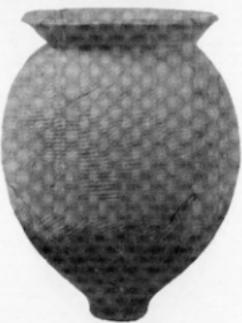
318



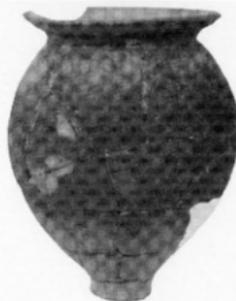
334



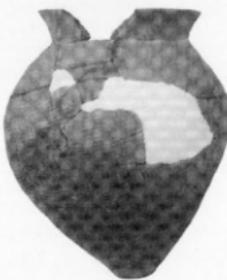
327



338



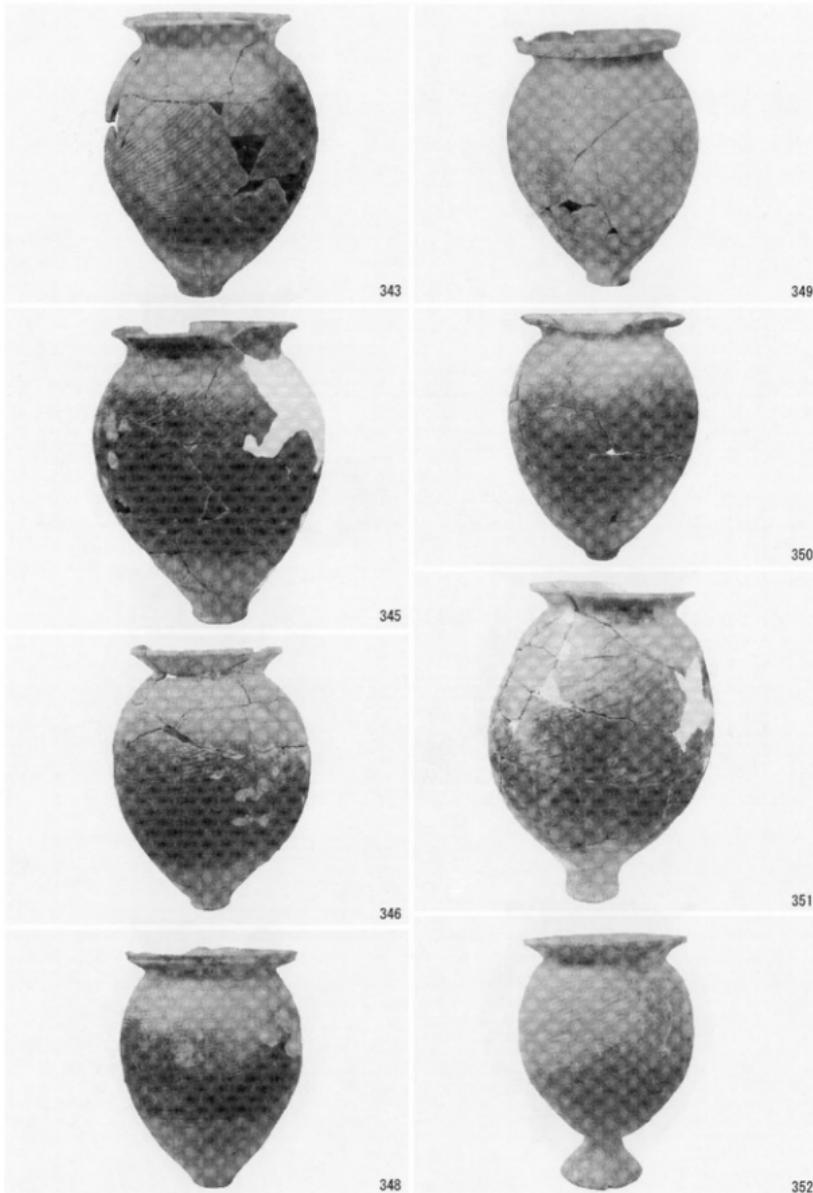
331



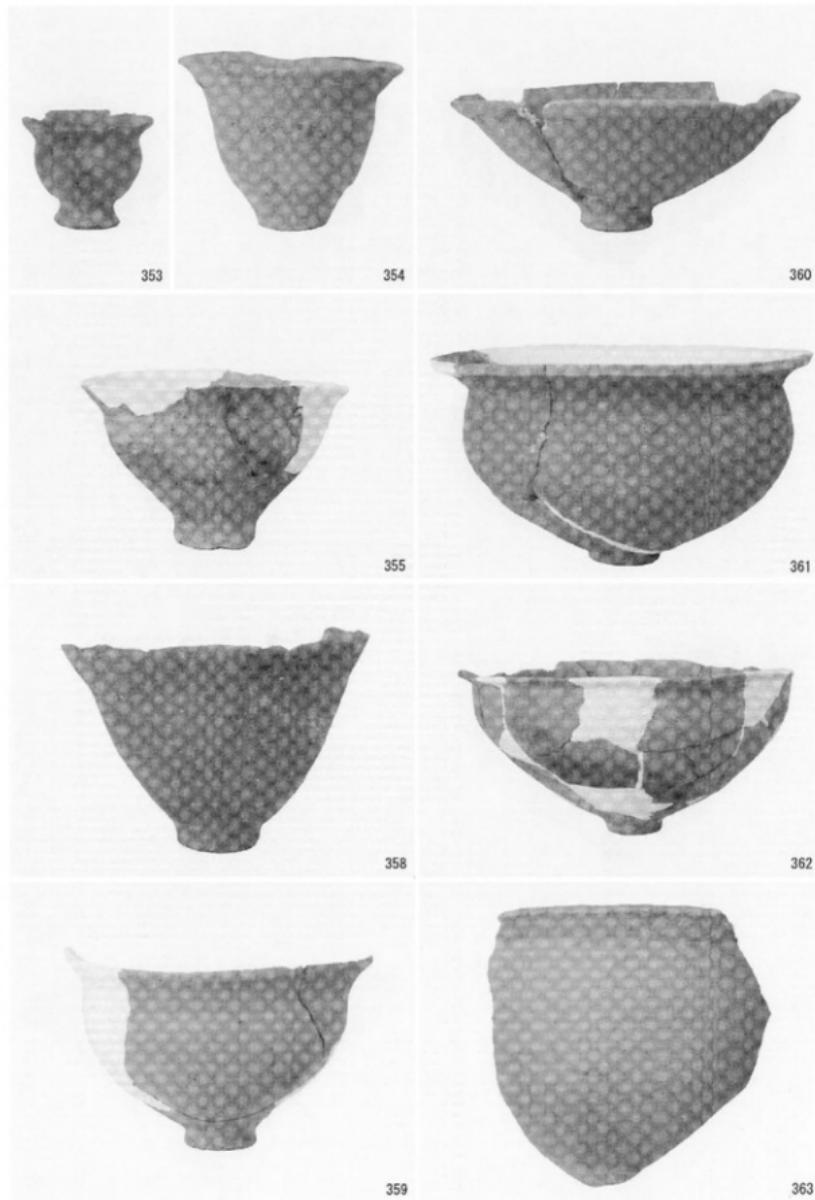
342

A区 SD301下層出土遺物

図版
34



A区 SD301下層出土遺物

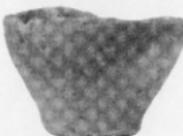


A区 SD301下層出土遺物

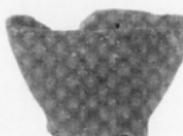
図版
36



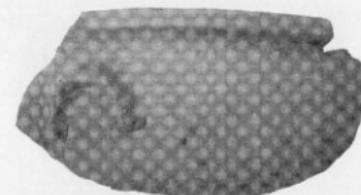
364



368



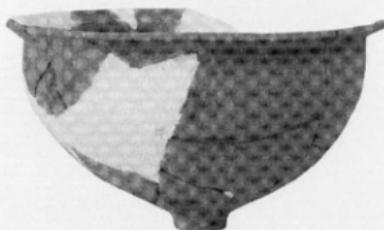
369



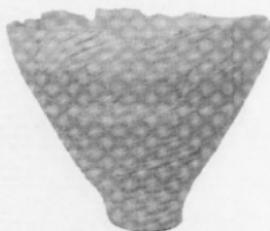
365



379



366



382

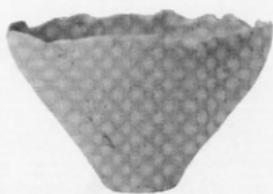


367

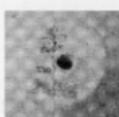


383

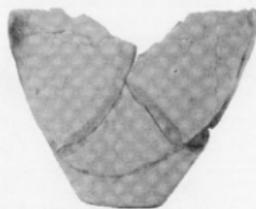
A区 S D301下層出土遺物



1



400



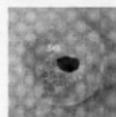
1



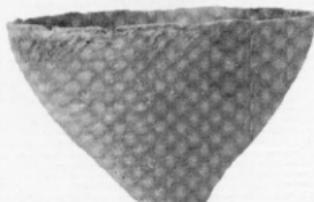
406



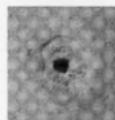
1



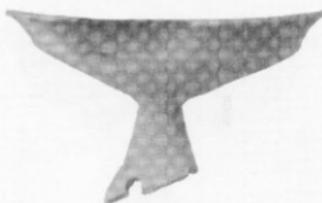
402



1



407



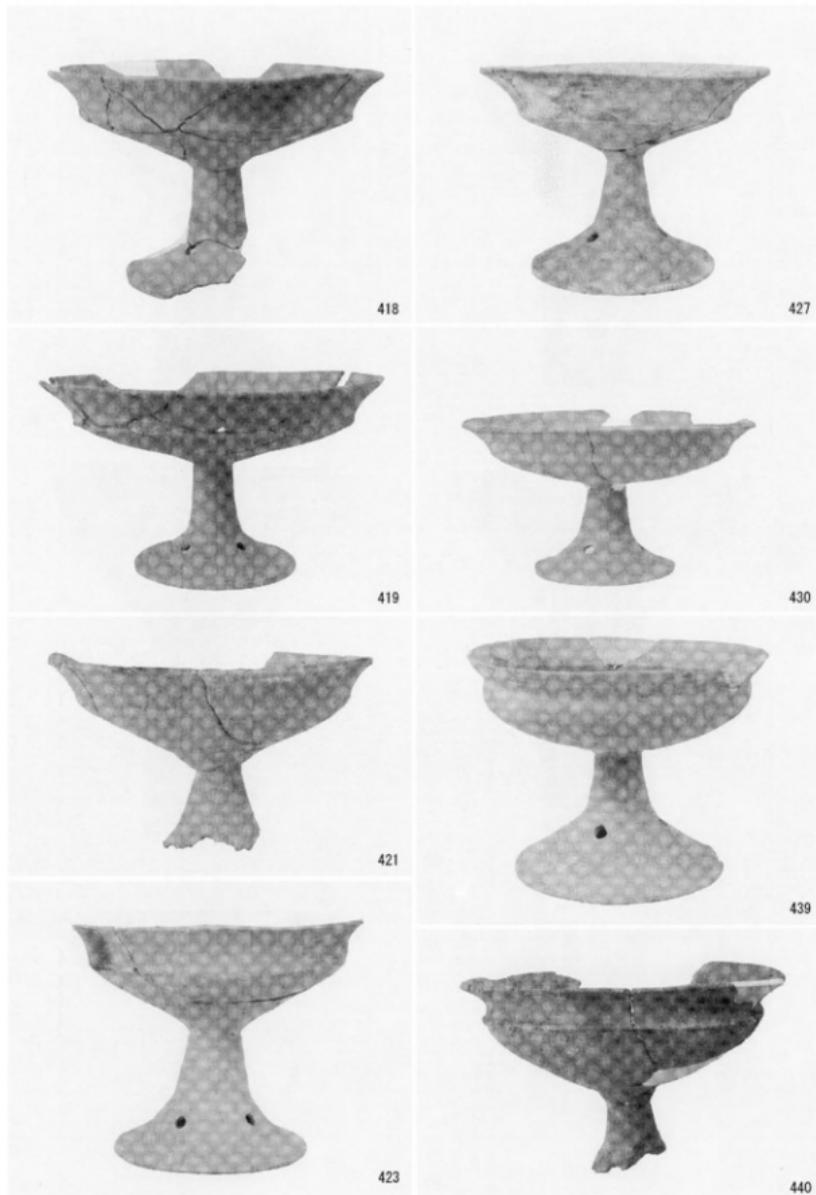
414



415

A区 SD 301下層出土遺物

図版
38



A区 SD301下層出土遺物



445



451



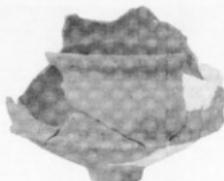
449



454

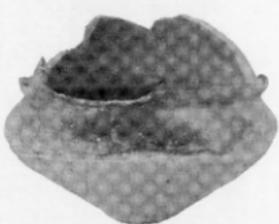
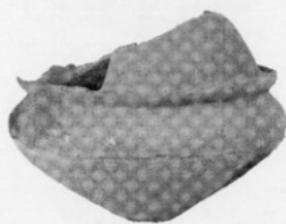


461

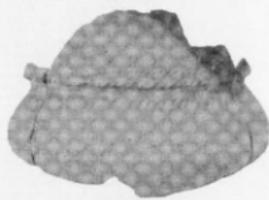


462

A区 SD301下层出土遗物



463

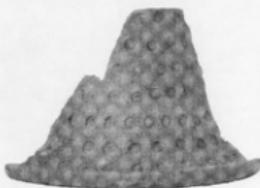
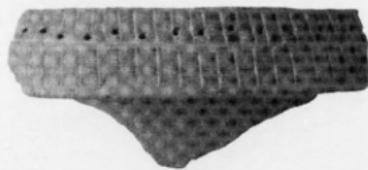


464



469

481



470

483

A区 S D301下層(463・464)、S D302(469・470・483)、S D304(481)出土遺物

